263 6
30

始

263/
80

日高佐七著

具體的研究を主とせる

實際的地理教授法

發行所　東京出版社

日高佐七著

具體的研究を主とせる

實際的地理教授法

大正
4. 4. 21
内交

發行所　東京出版社

序

小學校の教科は何れも實質上の價値と、形式上の價値とを有して居る。併し教科の種類によつて、或は實質的價値を重んずべきものと、或は形式的價値を重んずべきものがある。地理科も亦此の兩方面の價値を有して居るけれども、實質的方面の知識附與に傾いては、未だ眞に地理科の目的を達したものと言ふことが出來ない。卽ち形式的方面の愛國心の養成、經濟思想の喚起に對しても大いに努力せねばならぬ。殊に地理科は其の性質上、國家的精神の養成には偉大な力がある。故に位置・住民・政治等より産業・交通等の取扱に至るまて、日常生活に必須な、實際的な知識を與へ、更に是等の知識を通して大いに國家的の精神を喚起せしめねばならぬ。國家的精神の養成に就いて所思を述べて見ようと思つたのが、卽ち

本書を著すに至つた第一の動機である。

今日の地理教授は抽象的方法を尋ね形式を追ひ理論を探究するよりも、實際の教材に就いて、之を如何に取扱ふべきかを究め、進んでは其の教材の價値を論斷することが最も有效であつて、又最も着實な研究であると思ふのである。乃ち地理科教材の取扱に關する所信と經驗を開陳して我が蒙を啓きたいと考へたのが、卽ち此の小冊子をなすに至つた第二の動機である。題して具體的研究を主とせる實際的地理教授法と言つたのは實に此に基づくものであつて、出來るなら、全教材の例話を擧げて卑見を述べようと思つたが、其の不可能なるべきを察し、止むなく代表的の例話を擧げたに過ぎない。讀者之を諒し、以て御批正を賜りたいものである。

大正四年御卽位の年初春

著者識す

具體的研究を主とせる

實際的地理教授法

目次

第一編　總論

第一章　地理學の定義と其の分類……一

第二章　地理教授の要旨……六

第一節　實質的價値……六

第二節　形式的價値……七

第三章　地理教授の方針……一〇

第一節　有機的取扱を重んず可し……一〇

第二節　比較を重んず可し……一一

第三節　地圖を教授の中心とす可し……一三

第四節　直觀物の使用を重んず可し……一三
第四章　地理研究法……一五

第二編　各論

第一章　位置の取扱法……一七
第一節　自然的位置の取扱……一七
第二節　政治的位置の取扱……二六
第二章　地勢の取扱法……三一
第一節　地勢の內容……三一
第二節　地勢と人文との關係……三五
第三節　各地方の地勢の特色……四一
第四節　地勢教授案例……五〇
第三章　氣候の取扱法……五四
第一節　氣溫と人文との關係……五五
第二節　雨量と產業との關係……六〇
第四章　住民の取扱法……六二
第一節　世界の人種と其の分布……六二
第二節　人口の取扱……六六
第三節　國民性……六九
第五章　政治の取扱法……七八
第一節　政治組織……七九
第二節　國勢の對照……八四
第三節　殖民思想の養成……八六
第六章　產業の取扱法……一〇六
第一節　農業の取扱……一一〇
第二節　牧畜の取扱……一一四

第三節　鑛產の取扱……一一七
第四節　工業の取扱……一二四
第五節　水產の取扱……一三七
第六節　商業の取扱……一四一
第七節　外國地理特種產物……一四八
第七章　都會の取扱法……一五三
第一節　位置の示し方……一五三
第二節　都會興起の理由と都會の分類……一五五
第八章　交通の取扱法……一六〇
第一節　交通機關と原動力……一六〇
第二節　鐵道網と幹線……一六一
第三節　航路と電信線……一六三
第四節　距離と賃金……一六七
第九章　地圖の取扱法……一六八

第一節　讀地圖の基礎的觀念養成……一六九
第二節　教授用地圖……一七二
第三節　兒童の描圖……一七五
第四節　兒童用附圖の取扱……一八一
第十章　教材の概括法……一八二
第一節　自然的中心物……一八三
第二節　地理的事項の對照……一九四
第三節　地方特異のものに注意す可し……一九五

目次終

具體的研究を主とせる

實際的地理教授法

日高佐七著

第一編　總論

第一章　地理學の定義と其の分類

(一)地理學とは何ぞや

地理學とは如何なるものか、地理を教授するものは第一に其の性質を明かにすることが何よりの急務である。

地理學とは地球の成因より、其の表面に於ける水陸分布の狀況、並に其の上に生活せる人類活動の有樣を順序正しく研究する學である。

即ち、地理學の研究する範圍は頗る廣くして、地球の成因、山河の形勢、海陸の分布、性質等に關する自然現象を研究すると同時に、人間の活動舞臺たる都會、交通機關の設備、產業隆興の狀況は勿論のこと、人類自身に就いての研究等、所謂人文的現象を

も明かにするのが任務である。

(二)地理學の分類

前の定義によつて考ふれば、地理學の研究する範圍は二つの大なる部門に分かるゝことを知るのである。一は自然地理と名づくる方面にして、一は人文地理と名づくる部類である。自然地理は地球其のものの研究より、地球表面の狀況、生物の分布、氣界の現象に至るまで、自然現象の研究を行ひ、人文地理は人類種族の分類、政治經濟產業・交通等、人間活動の全般に向つて研究する任務を有するものである。

尙之を細別すれば次の如く分類する事が出來る。

- (一)自然地理學
  - (1)地球星學
  - (2)陸界地理學
  - (3)水界地理學
  - (4)氣界地理學
  - (5)生物地理學
- (二)人文地理學
  - (6)人類地理學
  - (7)政治地理學
  - (イ)產業地理
  - (ロ)交通地理
  - (ハ)商業地理
  - (8)經濟地理學

次に此等の事項を簡單に說明しておかう。

(1)地球星學

此は一名數理地理學と名づけられて居る。卽ち天體を測定し、宇宙の變遷を尋ねて、地球の成因に及び、地球の形狀運動を研究するのである。我が地球は天體の一なることを明かにするのが其の本務であるから、地球星學の名が起り、又天文測定等、數學の力を要すること大なるを以て、一名數理地理學とも云はれるのである。我々が小學校に於て地球の形狀・經緯度・自轉・公轉等を敎へるのは、卽ち此の部に屬するのである。

(2)陸界地理學

大陸の成生、地勢の成因、地殼の變動を究め、地球表面、陸地の凹凸の狀況を明かにするのである。故に研究する事柄は頗る多くして、地文學中の大部分を占め、人文地理との關係が甚だ密接である。

(3)水界地理學

海洋の分布、海水の成分及び海水の運動等を明かにして、其の人文上に及す關係を研究するものてある。

(4)氣界地理學

地球を圍繞する氣界の現象、卽ち風雨氣溫等が生物活動に如何なる影響を及すかを研究するものてある。

(5)生物地理學

地表に於ける生物の生態的分布を究むるのてあつて、動植物の分布を明かにして、其の人生に及す利害の關係を知るにある。之を分ちて動物地理植物地理の二つとなすことが出來る。

(6)人類地理學

地球上には如何なる人種が生活するか、其の種族分布性質等を研究するもの。卽ち活動の主體たる人間の研究てあつて、人類の起原より、現時の人間を解釋するは頗る趣味多き問題てある。

(7)政治地理學

人間活動の現象には種々あれども、政治組織の如きは根本的のものてある。國家の統治機關を明かにし、文化の程度、國勢の如何を說明するのは、此の學の努むべき範圍てある。

(8)經濟地理學

人間活動の要素は經濟問題てある。故に此の學の任務は頗る重い。如何にして有用の財を產出し得るか、又進んては有無相通じて、彼我の利益を圖ることが出來るかを研究せねばならぬ。之を左の三つに分ける事が出來る。

(イ)產業地理

生產の狀況を研究して、農工商に關する知識を豐富にし、實業上の趣味を養成すべき大責任を有して居る。

(ロ)交通地理

世が文明に赴くと同時に、物品の運搬頻繁となり、交通機關の完否は國家の活動上に大關係を有する。其の交通機關發達の狀況を明かにするのが此の學問の範圍てある。

(ハ)商業地理

物品を交易して、彼我の有無を通ずることが、日に益々盛なるに當り、其の現狀を知

り、進んで諸種の會社、組織等、商業に關する一般の知識を明かにするものである。以上の分類によりて考ふれば、地理學の性質も自然に明瞭となり、從つて其の研究すべき範圍の頗る廣大なることが了知せられるのである。

第二章　地理教授の要旨

教則に

「地理は地球の表面、人類生活の狀態に關する知識の一般を得しめ、又本邦國勢の大要を理會せしめ、兼て愛國心の養成に資するを以て要旨とす。」

とある。すべて各教科には實質上の價値と形式上の價値とがあるやうに地理科に於ても亦この二方面の價値がある。

第一節　實質的價値

實質上に於ては(1)地球の表面の狀態　(2)人類生活の狀態　(3)本邦國勢の大要の三方面を數へねばならぬ。此の實質的知識が吾人の日常生活に非常な便利と利益とを與へるのである。

例へば奥羽の北端より九州の南端に至るには六十時間餘を要し、又我が日本より北米に至るには十三日を要することを知らば、吾人の活動上餘程便利が得られる。彼の山河の形勢、土地の肥瘠を知る時は、產業上に至大の便益が得られるのである。地理は實に世界の現狀を詳にするものなれば、其の知識は常に新鮮にして常識を發達せしめ、且吾人を世界に紹介して、その活動を促すのである。

第二節　形式的價値

形式上に於ては(1)國家的愛國心の養成　(2)經濟思想の養成の二大任務を有することを忘れてはならぬ。想ふに從來は地理科を以て殆ど實質的知識附與のみを以て、其の任務と考へて居たかの感があつた。前にも言へる如く、地理上の知識豐富なるが爲に、吾人の日常生活に非常なる便益を得ることは多言を要せざる所であるが、唯地理科の任務は決してそれのみではない。他に大なる任務を有して居るのである。即ち形式的方面に於て尠からぬ價値を有してゐる。世人動もすれば地理科は記憶的のもので、乾燥無味な學科であると言うて居る樣であるが、此等は地理の一面のみを知つて、他の一面の重大な仕事を沒却して居るから趣味も起らないのであらうと思ふのである。

(一)愛國心の養成

地理は愛國心を養成する上に偉大の力を有するものである。世界廣しと雖も、我が國民の如く、忠義の念深く、愛國の精神に富めるは、他に求むる事が出來ない。此の美風を有するに至りし原因は、素より一にして足らずと雖も、之を分解して見れば、二つの大きな原因のあることを知る。卽ち其の一は歴史的見解にして、上に一天萬乘の君を戴き、他に例なき家族制度を有するに由ること。其の一は地理的狀態が此の結果を來すに至つたのである。

我が國は四方を繞らすに海を以てし、攻守共に絶好の位置を占めてゐるから自然に一致團結の精神を養ふに至つた。而して又我が國土の美にして、陸に海に盡くるなきの天産を有することを知らば、自ら自國を愛するの念起り、自信力を强ふするに至る。次に例を他に求めんか、本邦の國勢と外國の國勢との比較の如き吾人奮起の素因とならぬものはない。例へば我が國の産業狀態と英國の産業狀態とを對比して劣る所はなきか。我が國の産業も近來長足の進歩をなし、工業の如きも、漸次家庭工業より工場組織に移り、生絲の如き年々一億何千萬圓と云ふ輸出高を有するに至つた。又外國貿易の如きも年々增加し來りて、大正元年には十二億圓に近き巨額の輸出入高を有し、大正二年には十四億圓を超ゆる盛況を見るに至つた。併し英國のそれと對比する時は實に雲泥の差あるを知るのである。又彼國の製鐵造船織物・鐵器製造等の狀態を知る時は、逆も本邦の工業は比較にならないのである。其の他政治學術・軍備等、一々國勢の內容を比較する時は、自ら奮起せざるを得ないのである。見よ、我が國に世界一の産額を有する産物幾何あるか。臺灣の樟腦は世界一として知られ、其の他銅・生絲等相當の産額を有すと雖も、米國の如きは世界一の産額を有するもの十餘に及んで居る。農産には小麥・玉蜀黍・綿あり、鑛産には石炭・鐵・銅・水銀あり、牧畜には牛豚を有し、又水産林産に富んで居る。思ふに彼と我とは國土の狀態自ら異なるありと雖も、然も彼等と肩を並べて對等の位置を占めんと欲せば、我等は之に應ずるの策を講ぜねばならぬ。

凡べて諸外國の國勢と我が國の國勢と對比して、國民努力の精神を喚起せねばならぬ。

かくて始めて本邦の國勢も了解する事が出來るのである。此に於てか、生きたる地理教授となり、趣味も其の間に湧き出づるに至るのである。

(二)經濟思想の養成

地理科に於ける第二の形式的價値は、經濟思想の養成である。經濟思想の養成は何れの教科に於ても、之を努めねばならぬが、就中地理科は其の最も適切な學科

てあつて、當然努むべき責任を有して居る。人は知らずして自ら好まざるものが多い。例へば產業の如きも之に關する知識が豐富になれば、自然に實業上の趣味が生じて來る。地理に於ては敎へる事柄多樣であるが、地勢・氣候・都會・交通等も經濟的見地の下に取扱をなし、中にも產業に關する事柄は最も力を注いで敎へねばならぬ。今日の人間は經濟と云ふことを離れては、到底活動が出來ない。敎育は現代の社會に活動する人間を作らねばならぬのだから、經濟思想の喚起と云ふことは、國民敎育上最も重大な問題である。殊に我が國は最近二大戰役を經て經濟に關しては切實に其の思想養成の必要を感じて居るのである。

地理は此の如く愛國心の養成と經濟思想の喚起には頗る有力な學科であることを疑はぬのである。

第三章　地理敎授の方針

第一節　有機的取扱を重んず可し

地理は記載的科學たるに相違なけれども、從來の如く徒らに多くの事實を羅列するが如きは、其の能事ではない。事實の原因を尋ね理由を明にすべしとは、地理科の新思潮である。地理は自然と人文との關係を聯絡して、有機的系統を得しめねばならぬ。我が北國・地方は冬季何故に雪深いであらうか。其の理由を知るのが面白い。冬季亞細亞大陸より吹き來る寒氣は、對馬海流上の溫氣を伴ひ來りて、本邦の脊梁山脈に當り、裏日本地方に雪多からしめるに至る。然して雪深き結果は住民の氣質に關係し、又家庭工業をして盛ならしむるに至つた。其の他印度の「アサム」地方は何故に世界一の降雨地であるか。亞細亞の東南に植物よく生育するのは何故なるか。臺灣にては米の收穫年に數回あるは何によるか。汽車が箱根八里を越えずして御殿場を迂回するは何故なるか。凡て地理的事項には必ず或は其の由つて來る所がある。其の理由を明かにするのは趣味を喚起し、記憶を明瞭ならしめる所以である。而して理由を明かにすべしとは、唯だ獨り自然と人文との關係のみではない。五十鈴川の上に皇太神宮あるために宇治山田市をなすに至り、又學校・兵營・交通線等新設されるには隨つて其の附近に都邑を生ずることが多い。卽ち一の人文的事實が原因となつて、更に人文的事實を產み出すことが多いのである。

第二節　比較を重んず可し

事實の原因を知ることの大切なるは前に述べた通りてあるが、尙地理ては甲乙の事實を比較して互に對照することが必要てある。原因を尋ねるのが地理の本質にして趣味養成の一良法たると共に、比較は想像を容易ならしめて、記憶を助け知識を明瞭にするのてある。世界は廣く、吾人の眼界に入るは、其の一小部分のみてある。故に鄉土の資料を基として縣を知り一國を知り、實見を基礎として廣く地球上の事實を了解せしめんには、比較によるの外途がないのてある。例へば都會の人口を敎へるに當つては、其の數を借りて兩者の繁華を知るのが目的てある。大阪の人口は名古屋の三倍餘、東京のは大阪の二倍なるを知りて、大阪東京が名古屋より如何に繁華なるかを想像することが出來る。富士山は高さ三七七八米にして、世界第一の高山「エベレスト」山は其の二倍餘なるを聞かば、見ずして其の壯絕な山岳の光景を想像することが出來る。其の他政治、交通、產業等、皆比較によりて其の眞相を覗知し得るのてある。

第三節　地圖を敎授の中心とす可し

地理は實地に臨んて其の地の狀況を研究するが、最良の方法たるに相違ない。然れどもこれ望んて得べからざることてある。地圖は地球表面の狀態を縮寫したるものてあるから、地理敎授に於ては此の地圖を敎授の中心として、其の眞相を想像せしめるのが唯一の方法てある。地理敎授に於て、徒らに要項の板書を多くし、敎師の說話に時を費すが如きは愚の至りてある。地理敎授は兒童用地圖と、敎師の用ふる掛圖と略圖とを中心として、敎授を進行せしめねばならぬ。要項の如きは敎師の板書せる略圖中に記入して實際的ならしめ、新敎材の提示終らば圖に就きて丁寧に反復をなし、又兒童に略圖の練習をなさしめて、記憶を確實にせねばならぬ。國定敎科書の本文、卽ち敎科書の方は說明的のものてあつて、附圖が根本のものてある。敎授上からは此の附圖と云へる方を重く見ねばならぬ。卽ち地理敎授の中軸となるものは地圖てあつて、敎師の說話と本文の敎科書は敎授の色彩をなす補助的のものと考へておけばよい。而して地圖を有効に使用するには種々工夫せねばならぬから、更に後章に於て卑見を述べたいと思ふ。

第四節　直觀物の使用を重んず可し。

今日各科の敎授に於て直觀物の使用を重んずべしとは誰も異論はなからう。修身敎授なり、國語敎授なりに於ても、段々と直觀物を使用して、其の內容を明かにする傾向を見るに至つたのは、誠に喜ぶべき現象てある。殊に地理科は地球の表

面人類活動の狀況を研究するものであるからこれを具體的に指示することが最も必要である。千萬言を費して風俗や產物の說明をなすよりも、此等の繪畫標本を示して視覺に訴ふるに若くはない。

地理教授に於て地圖と標本とは、事實の眞相を明かにする上に於て缺く可からざるものである。然れども多くの標本を蒐集した計りで、之が整理と其の使用の方法が當を得ざれば、勞して効の無いものである。標本を整理するには先づ適當な陳列戶棚を作らねばならぬ。理科器械とは違ひ、破損し易いものは比較的に少ない。又一見して分り易く陳列して置く必要があるから、戶棚內の置棚を斜面にして置く方がよい。次に陳列の仕方は日本は府縣別、外國は國別にするを本體とし、之に彙類法を加へて陶器漆器織物等は同種の物を同所に陳列して置くのも面白い。府縣別にすれば教授の時に便利であるが、稍雜然たるの感がある。故に陶器漆器織物の如き重要產物は彙類法によつて陳列すれば、同種類間の比較も出來、整然として秩序が立つて來る。故に右兩方を具合よく取捨して陳列すればよい。さて標本は山の如くあつても、之を有効に使用することは一寸六ヶ敷いものである。之は標本の性質によりて其の使用法も考へねばならぬ。時間の前後に於て見せしめるもよいが、重要產物は矢張り教授の進行中に見せしめねばならぬ。そして一わたり見せた標本は、其のまゝ戶棚に押し込むことなく、數日の間は教場內か、又は一定の場所に陳列しておいて見せねばならぬ。府縣別に分類して臺紙に貼りつけた繪葉書か、掛物になつて居る繪畫類ならば、教場內か廊下の壁に掛けて置けばよい。又陶器漆器の如きものは小さい硝子戶棚か、又は陳列棚を作りて其の內に順序正しく陳列して置くがよい。尙時々兒童を陳列棚の所に導きて觀察せしめることを怠つてはならぬ。要するに標本の整理といふことは、餘程教師に熱心がなければ出來ない。世間未だ標本といふことに就いて充分の研究をして居ない所が多い樣に考へられるのは甚だ遺憾である。標本を集めるには費用を要するが、費用は少なくとも教師の努力次第で相當に目的を達することができると思ふ。

第四章　地理研究法

地方別と彙類的分類

地理を研究するには地方別のやり方と、彙類的の研究法との二法ある。地方別

は自然的一區域をとりて、其の區域內の地理的事項を纏めて研究し、一地方終らば次の地方に及ぶものてある。小學校中學校等にて敎へて居るのは、此の方法てある。地理的思想の薄弱なものに對しては、此の如く一地方內の事項を纏めて、自然と人文との關係を解く方が分り易い。

彙類法は各要項により、全體に涉りて研究する法てある。例へば日本地理に於て各地方の產業丈を纏めて研究するが如きものてある。而して一事項終りて次の事項に移る。此くする時は一事項を敎へ終りて、次の事項に移る迄に、多くの時間を要し、後者を敎へる時は前者を繰り返さゞるを得ざる事ありて、其の關係を結び付けるのに困難を感ずる嫌あるを以て、初學のものには適せざるも、高等の學生にて思想の發達せるものに向つては、其の研究の度を深くするを得るのみならず、趣味を喚起するに至るのてある。

地理に志あるものは此の二法の何れをとるも面白味は自然に其の間に湧出するてあらう。余は今地理敎授法を述べるに當り、彙類的研究法に從ひ、位置・地勢・氣候・住民・政治・產業・都會・交通・地圖の各要項によりて實例を擧げ以て自己の經驗を述べようと思ふのてある。

第二編　各論

第一章　位置の取扱法

總べて縣に於ても、國に於ても、其の位置と云ふことは其の地方の盛衰に至大の關係を有して居るのてあるから、位置の敎授に當つては、唯通り一遍の敎授をするばかりてなく、諸方面から其の利害を考究せねばならぬ。卽ち位置なるものが其の地の盛衰興廢に如何なる關係を有するかを見なければならぬ。

位置の敎授に當つては、次の諸點に注意すべきてある。位置の見方には種々あれど、先づ自然的位置と、政治的位置の二方面より研究するのが適當てある。

第一節　自然的位置の取扱

之は經緯度上より見たる位置にして、自然に決定されて居る。我が國が北緯二十一度四十五分より五十度五十六分に至り、東經百十九度十八分より百五十六度三十二分に至ると云へるが如きものてあるが、此の何度より何度に至ると云ふ數字に重きを置かなくてもよい。此の如き自然的位置を有する國家は果して發展し得るや否やに注意すべきてある。そこて、此の位置を見るには標準となる地方

に重きを措いて教へねばならぬ。即ち標準地方に力を入れて教へねばならぬことになる。

標準地

一　附近の地方

二　四方の地方

一　附近の地を標準とせる例

例一　日本

尋常五年用卷一の一頁を見ると「大日本帝國は亞細亞の東部にあり」と書いてある。此にいへる亞細亞が前に云へる附近の標準地に當るのであるから、此の亞細亞といふ標準地に力を入れねばならぬ。即ち亞細亞の東部にあるが故に、我が國は如何なる利害關係を有するか、之が最も趣味ある問題である。

(1)大陸の影響を受け易い

(イ)文化の輸入

大陸に接近し居るを以て、古より大陸の文化入り來り、我が國土の發展に資したること實に尠からずである。太古のことは問はず、人皇十五代應神天皇の時に、百濟の王仁來朝して儒教を傳へしより、彼我の往來漸次に盛となり、欽明天皇の十三年には佛教傳來して我が國文明の勃興となり、次いで遣唐使の派遣は大寶の律令を產み出し、奈良平安の文學を成すに至つた、遣唐使廢されてより、大陸との往來は時に消長ありしと雖も、我が國が大陸より蒙りたる利益は擧げて數ふることが出來ない。

(ロ)動植物の移植が多い

亞細亞大陸と接續せる結果は、豐富なる大陸の動植物を移植し易からしめた。我が國が動植物の種類に富める原因の一つは、確かに此にある。而して生物の種類多きはこれ實に產業の根底たることを忘れてはならぬ。

(ハ)大陸の寒風吹き來る

冬季亞細亞大陸より寒風吹き越し來りて、我が國を比較的に寒冷ならしめるのは、國民の生活に不利であるやうに思はれるけれども、一面に於ては日本國民に刺激を與へ、精神を鼓舞し、勇氣を惹起せしめて居ることが少なくない。

(2)大陸に向つて發展し易い

更に大陸に向つて發展せんとするにも都合がよい。日露戰役に大勝利を得た

のも、一つには輸送上の便利を有して居つたからである。朝鮮を併合し得たのも、全く隣邦相接せし自然的大勢力を有して居つたからである。若しも日本が太平洋の中央邊に位置してたならば、迚も以上の利益を占めることがむづかしかつたであらう。なほ進んで滿洲を經營し得るも皆な之が爲めである。

此く考へ來る時は、位置の研究は頗る趣味多き問題であるが、位置の研究は尙之には止まらない。更に第二の標準とせる四方の地方をも見るべきである。

二四方の地方より見たる例

例一　日本

教科書には日本は亞細亞の東部にありと言つてあるが、唯それのみでは足りない。今少し眼界を廣くして見なければならぬ。我が日本は地球上の如何なる地點に位してゐるか。西には亞細亞大陸を控へ、南は南洋諸島より濠洲に連り、東は太平洋を隔てゝ北米の大陸に對して居る。即ち世界の大陸の中央に位し、世界の貨物を吸收し、世界に向つて發展し得る絶好の位置にあるのである。此の如く日本が近く亞細亞大陸に接し、世界大陸の中央に位してゐるとは、我が國が位置上實に優秀の地點を占めて自然に國力發展の根本的要素を備へ居る所以である。

例二　英吉利

高等一年用地理卷一、五十四頁に「英吉利は「大ブリテン、アイルランド」の二大島と、數多の島嶼より成れる島國なり」とある。英吉利の位置を見るには、附近の標準地なる歐羅巴に注意すべきは勿論であるが、又世界的に見て如何なる地點に位してゐるかを問はねばならぬ。英吉利が今日の隆盛を來せる原因の一半は、全くの其の自然的位置の好良なるによるのである。迚く東南には歐羅巴大陸横はり進んでは亞細亞大陸に連り、又南方に亞弗利加大陸を控へ、西は太西洋を隔てゝ近く北米に對して居る。此くの如く世界陸半球の中央に位してゐることが如何程其の發展に大關係あるか。即ち世界の貨物を吸收し、世界に向つて販路を有してゐるのである。「ロンドン」は實に萬國の航路を集め、世界の市場をなし、盡きせぬ鐵・石炭の原料によつて器具機械を製造し、毛織物・綿布の原料を殖民地より仰いで、工業は愈々隆盛であり、年に百億圓以上の貿易額を有するのも、眞に故ありと云ふべきである。

此の如く位置を說明するには附近の地方を考ふると共に、廣き範圍より見た

る位置を考究せねばならぬ。教授者は常に此の廣狹二方面の標準を念頭におくことが必要である。以上は日本と英吉利の二國について話したのであるが、小さく日本の一地方なり、一府縣を敎へるに當つても、亦之と同じ注意が必要である。

例三　日本の各地方

(イ)近畿地方

尋常五年用地理卷一、四十五頁に「近畿地方は中部地方の西南にあり。其の西北部は中國地方に續きて、日本海と內海とに面す。又東南部は紀伊半島をなして太平洋に突出し、東に伊勢海、西に大阪灣を控ふ」とある。此の位置を說明するに當つて、唯單に中部地方の西南にあり、其の西北部は中國地方に續くといふだけに止めず、後方に產物豐富なる地方を控へ、日本全土より見て、正に其の中央にあることが、近畿地方發展の根元なることを授くべきである。

(ロ)九州地方

尋常六年用地理卷二、六頁に「九州地方は本州四國の西南にある九州島と其の屬島及び琉球列島とよりなる」とある。本州四國の西南といへるは、標準を近きにとつたものであるけれども、尙眼界を廣くして其の四圍を考ふるときは、西北は朝鮮半島に對し、西は東支那海を隔てて支那の大陸に向ひ、南は臺灣より南洋諸島に連りて、實に我が國の門戶に當つて居る。九州地方が軍事上、商業上重要なる地點として、日に隆盛の氣運に向ひつつあるは、全く自然の勢力であると言はねばならぬ。

(ハ)奧羽地方

尋常五年用地理卷一、十八頁に、奧羽地方は本州の東北部にして、關東地方の北にあり。東は太平洋に面し、西は日本海に臨み、北は津輕海峽を隔てゝ北海道本島に對す」とある。奧羽地方が日本の他の地方に比較して發展遲々たるは何故なるか。之には種々の理由があるけれども、其の自然的位置が重なる原因をなして居るのである。然るに茲に奧羽地方は本州の東北部を占むといふだけでは十分に其の發展の遲々たる理由を明かにすることは出來ない。恰も九州が本州四國の西南にありといふだけでは、其の發展の理由を十分ならしめることが出來ないと同じである。卽ち奧羽地方は東北に偏在し居る上に、其の四邊を考ふれば、西は露領沿海州、北は北海より樺太といふが如く、何れも比較的未開の地なるを以て、所謂相手國(又地方)より利益を占むる能はざるによることに注意せ

ねばならぬ。

(ニ)朝鮮

尋常六年用地理卷二、三十三頁に、「朝鮮は亞細亞大陸の一大半島にして、本州と共に日本海を擁し、東南は近く中國及び九州に對し、西は黃海に臨み、北は支那の滿洲に連り、東北は露西亞と境す」とある。朝鮮は亞細亞の東部に突出せる一大半島にして、東南は中國九州に近く、北は滿洲より露西亞に續くことを知るならば東亞の要害地たることは自ら明かになるであらうが、更に眼界を廣くして、東方亞細亞の最も中央なるに言及したならば、一層其の重要地區たることが確實になり、又古來亞細亞の一爭點となりし理由をも知り得るであらう。此くてこそ位置取扱の眞價を發揮し得たものと云はねばならぬ。

例四　日本の各府縣

(イ)靜岡縣

尋常五年用地理卷一、三五頁に、「靜岡縣は伊豆半島より西方濱名湖附近に至る一帶の地を占む」とある。地圖によつて此の地方を指示すると共に東海道地方の中央を占め、東、關東地方と、西、關西地方との連續地域を占めてゐることをも授くべきてある。

(ロ)滋賀縣

尋常五年用地理卷一、五〇頁に、「滋賀縣は琵琶湖附近の地を占め云々。」とある。標準を他に求めずに、人口に膾炙せる琵琶湖を打ち出したのは最も面白い。而も此の滋賀縣が昔は其の國境に近く三關(愛發、北陸街道、不破、中仙道、鈴鹿、東海道)を有し、今は東海、北陸、關西の重要鐵道の通路となつて居る。全く其の位置が交通の要路に當らしめたのてある。即ち滋賀縣は本州の最も狹き地峽部の中央に位せるを以て、彼我必ず此處を通過せざるを得ない。古來幾多の戰爭が此の附近にて行はれたのも自然の勢てある。此くの如く滋賀縣を見るには琵琶湖を標準にすると共に本州地峽部の中央に當るといふことを大觀することが必要てある。

(ハ)福岡縣

尋常六年用地理卷二、一一頁に、「福岡縣は日本海、瀨戸內海及び有明海に面し云々とある。福岡縣が三方海に面せることをいへるは、良港に富み交通便利なる所以を指示せるものてある。而して南に豐裕なる九州の一圓を有すると共に東

北は中國に接し、一葦帶水を隔てゝ新領土朝鮮あり、實に形勝の位置を占めて居る。內には山なす石炭あり、又工藝品の產に富み、而して此の良位置を占む。多幸なる地方といふべきである。

(三)宮崎縣

尋常六年用地理卷二、一六頁に「宮崎縣は大分縣の南に連り東は太平洋に面す」とある。唯大分縣(近き標準)の南に連り居るといふことが、宮崎縣の發達の遲々たる理由にもならない。地勢上より招けることも多いが、九州の東部に偏在し、且東面渺茫たる大海に臨んで居て對手國のないのも、亦其の原因の大なるものと見なければならぬ。

第二節　政治的位置の取扱

位置を說明するに當つて、第二の見方は政治的位置である。或は之を國際上の位置といふてもよい。我々が位置を敎示する時に、其の境界を示し四圍の國を擧ぐるに當つて、無意味に其の國名や地方を覺えしめるのが目的ではない。之を受動的に觀察する時は、如何なる强國が周圍を取り卷いて居るかに注意すべきである。是甚だ大切なことである。卽ち强國と境を交ふる時、己に備がなければ彼の壓迫を受け、己が强ければ彼の壓迫を好材料として却つて彼を反撥し、以て自國の進步を致すこともある。更に活動的に方を併呑することもある。周圍が强國なるか、弱國なるか、其の何れにもせよ、國民の元氣次第によつて、自國の勢力を伸張することさまで難いことではない。國民に國を思ふの念薄き時は遂に囊中の鼠となることをまぬかれない。政治的位置の研究は實に趣味多き問題である。

例一　日本

尋常五年用地理卷一、二頁に「日本列島は東は太平洋を隔てて、亞米利加合衆國に對し、北より西に亘りては「オホーツク」海・日本海・東支那海を隔てて露西亞の「シベリヤ」及び支那と相望む。又千島の東北は「シベリヤ」の「カムチャッカ」半島に接近し樺太の北は露領に連り、臺灣の南には米國に屬する「フィリッピン」群島を控ふ。朝鮮半島の北は重に支那の滿洲に境し、西は黃海を隔てて支那の本部に對す。」とある。之によつて見れば、我が國は如何なる國によつて取圍まれて居るかを知ることが出來る。世界の强國たる露西亞とは直接に境を交へ、米國とは太平洋を隔てて相望んで居り、西より南は支那と米・獨・佛の領地に近い。卽ち我が國の

周圍は露・米・獨・佛等の強國に取りまかれて居る。國民たるものこれを考へなば、どうして奮勵せずに居られようか。かくて小さき兒童の腦裡に幾分かの刺激を與へ得たとせば、地理科の効果、いや學校教育の效果も大なりと云ふべきである。日本は此等の國より常に壓迫を受けて居るから、國民は寸時も安心は出來ない。國民の元氣が衰へず、注意が緩まぬのは一に之が爲である。先に清國が朝鮮を屬邦視して、我との約束を破り、近く露西亞が滿洲朝鮮に侵入して帝國の權利を侵したので、此に日清・日露の兩戰爭となり、共に我が國の大捷に歸して、今日の隆盛を見るに至つた。若し清國・露西亞の侵略がなかつたならば、帝國は今日の如く發展しなかつたかも知れない。漫りに國民の敵愾心をそゝりたてる必要はないが、相手國の如何なる國柄なるかを忘れない樣にするのは、是教育者の任務の一つと信じて居る。

例二　支那

尋常六年用地理卷二、四八頁に、「支那は亞細亞大陸の東部より中部に亘れる大國にして、支那本部・滿洲などの數部より成り、東は海に面す」とある。外國地理は尋常科・高等科の教科書何れにも四圍の國々を擧げてゐない。併し支那としては之が甚だ大切なことである。支那が今日の狀態を呈するに至つたのも、其の四圍の國を見れば自ら了解せられるのである。即ち西より北にかけては露西亞が抱けるが如く取り圍み、東には日本帝國横はり合衆國の領土に對し、南境は佛蘭西・英吉利と接して居る。支那の四境は實に露・日・米・佛・英の五大強國に包まれて居る。世界に八つの強國あるが、實に其の内の五國が支那を圍んで居るのである。故に尋常一樣の努力では、此の壓迫を凌いで、國勢を維持することは困難である。況や國民に愛國の念薄く、氣慨も亦乏しいから、此の難關は到底切り拔くことが出來ない、否漸次に侵略されてゆくかも知れない。弱者が強國と境を接するといふことは實に恐ろしいものである。

例三　獨逸

尋常六年用地理卷二、五五頁に、「獨逸は佛蘭西の東北に連り云々」とあり、高等一年用地理卷一、四二頁に、「獨逸は歐羅巴の略々中央に在りて、露・墺・佛の三強國と界を接す」とある。露・墺・佛の三強國と界を接してゐるといふことは、誠によく政治的位置を明示したものと言はねばならぬ。古來露西亞人、即ち「スラブ」族は常に西歐に向つて侵略の牙を向け、獨逸は少からず之に苦められた。これがために「ゼ

ルマン」族が如何計り刺激され、如何程憤慨したか分からない。そして獨佛の關係は人の皆知れるが如く、互に土地の侵略を事とし、「アルサス、ローレンス」は今や佛人憤怒の種子となつて居る。尙一葦帶水の英吉利とは犬猿の如き間柄である。獨逸は此くも四方より刺激されたが、國民の元氣と勇氣とは、常に此等を押退けて、今日では歐羅巴の中央に一大帝國を形成して居る。獨逸の今日ある、實に此等の外國の刺激に基づくものが多いのである。

例四　露西亞

尋常六年用地理卷二、五六頁に、「露西亞は歐羅巴の東部に位する大國にして云々」とある。もと露西亞と獨逸との間には「ポーランド」國あり、東方はウラル山を以て「シベリヤ」に境して居たのであるが、周圍に有利なる海岸を有せざるを以つて常に大陸的侵略を以て其の國是として居た。然るに西は「ポーランド」を分割し得たのみで、獨逸に遮ぎられて其の目的を達することが出來なかつた。よつて鋒を轉じて東方に向ひ、無人の地たる「シベリヤ」を手に入れて遠く太平洋の岸に出た。「シベリヤ」中央亞細亞を侵略したことはよいが、其の對岸には日本といふ强國があるので自由の行動を取ることは出來ないのである。

境界問題には尙研究すべきことが多々ある。以上政治的位置の例として擧げたる日本や獨逸の如きは、四圍の刺激によつて益々自己の發展を見たのであるが、支那の如きは餘りに多くの强國から壓せられ、反つて國運が行きつまつて居り、露西亞の如きは一方に抵抗力なき境界を有せしを以て、其の國土を廣めるのに都合がよかつたのである。

第二章　地勢の取扱法

自然現象が人文發展上に至大の關係を有することは明かな事であつて、物には原因があつて結果を生ずる。即ち自然現象を明かにしなければ、人文上の事柄を了解する事は出來ない。教科書は此の點に大に考慮して、日本各地方に於ける「地方の一」の部に於て地勢の說明を比較的詳細にしてあるのは、全く右の見解から來たものであらう。

試みに大正三年四月の新學期に修正せられた日本及び外國の附圖を見るに、從前の附圖に比して大いにその趣を異にしてゐるのである。即ち前者は行政區劃によつて彩色し、それに地勢を記入してあるので、稍々その混雜を免かれなかつた

が、後者卽ち修正のものは、地勢を主とし、行政區劃を從として取扱つてあるから、一見して地勢が甚だ明瞭である。

第一節　地勢の內容

地勢を研究するには、第一にその內容を明かにする事が必要である。そのためには次の二方面より觀なければならぬ。卽ち

一　垂直的觀察

二　水平的觀察

であつて、吾人が山河の形勢を明かにし、土地の高低を知るのは、地勢を垂直的に觀察したものであり、海岸の出入島嶼の多寡を見るのは水平的に觀察したものである。此の二方面の觀察は常に忘却してはならぬ。かくしてはじめて地勢の內容を自然に了解する事が出來るからである。

內容の三要素
- 一　山系
- 二　水系と平地
- 三　海岸と島嶼

地勢を敎授するに當つては、大體の高低を知らしむることが第一の問題である。徒らに山河の名を列記するだけが、其の能てはない。山河の名は地勢を知らしめんがために、借りて來た從のものである。此の理由を知らずして、無暗に名稱を諳記せしめる舊式の日本地誌略的敎授を今尙行ひつゝあるは甚だ遺憾な事である。例を擧げて說明せんに、關東地方の地勢を敎へる場合には、先づ地圖によつて何れの方面が高くして、何れが平地なるかを觀察せしめて、西方より北方に山脈の連れる事を考へしめ、其の西にあるのは富士火山脈中の箱根山脈及び關東山脈で、北に連れるは那須火山脈・越後山脈なるを知らしめる。而して河はこれ等の山中に發し、利根川・荒川・相模川等の諸川となりて東南に流れ、其の流域には日本第一の大平野、卽ち關東平野を形成してゐることを了解せしめねばならぬ。

次に海岸を敎へるに當つても十分の注意を拂はねばならぬ。海岸の狀況が人文發展に至大なる影響を及すことは、之を實際に徵して見ても明かである。卽ち我が太平洋岸が日本海岸よりも、人文の發達が著しく、又歐大陸が他の大陸に比して著しく發達してゐるのは、海岸の出入に富めることが其の主因をなしてゐるのである。

故に海に關する知識を豐富にせねばならぬとは近時に於ける地理敎授の一新

傾向なのである。

海岸の觀察
- 一　出入の多少
- 二　背後の地勢
- 三　前面の深淺
- 四　近海島嶼の多寡

海岸の出入の多少が人文發展上に大關係を有する事は前にも述べた通りてあるが、併し出入のみを觀察したゞけては未だ充分とはいへない。如何に出入に富むとも、若し背後が山地ならば陸上との交通が自由てない。從つて良港を生ずるには至らない。例へば奥羽の太平洋海岸の如きは、リアス式出入に富むと雖も、北上山脈が海岸近く迫つてゐるから、内部との交通が自由てない。ただ釜石・宮古等二三の碇泊地を有するに止まつてゐる。故に海岸は背後に相當の平地を有する事が必要てある。

次に前面の海があまりに深ければ錨を下すに不便てあり、又餘りに淺くても用をなさない。而して近海が島嶼に富んてゐると、風波を避けるに都合がよく、一面防備上大なる利益を有してゐる。彼の吳・鎮・海灣が自然の良港たるは是等の要件を備へて居るからてある。

第二節　地勢と人文との關係

地理は有機體的取扱をせねばならぬ事は、總論の條に述べた通りてある。卽ち常に「何故に」といふ事を忘れてはならぬ。例へば某地方に農業行はれ、又都會が形成されるに至つたとすれば、之は何故なるか。其の原因を尋ねるのが重要問題てある。

そこて地勢と人文との關係を結びつけるには如何すべきか。これには二つの場合がある。(第一)地勢を敎授するには、人文上の重要點を打ち出して、兩者の關係を結び付けるのを最良の方法とするのてある。例へば山地を敎へる時には林業と結合し、平地を敎へる時には農業の行はれることを告げる。又海岸の出入を敎へる場合ならば、唯半島・灣を知るに止らず、重要港名を敎示するがよい。併しそれについて注意すべきは混雜に陷らぬ樣にすることてあつて、人文上のことは唯要項だけを打ち出す位に止めた方がよい。尙敎材の都合て、迚も人文上の事柄迄同時に打ち出して、其の關係を結び付ける餘裕のない時は、他の方法によるがよい。卽ち(第二)は產業・交通・都會、或は人文上の事柄を敎へる時には先づ、前に遡つて地勢

を復演し、充分に舊智識を喚起させて、然る後に人文上の事を、結合すべきてある。

(1) 地勢と産業

先づはじめ、「如何なる産業が行はれるであらうか」の問を發して、自發的に自然と人文との關係を發見せしめねばならぬ。中部地方の中央高地を教へるに當つては宜しく蠶業及び林業との關係を保たしめ、信濃川を教へる場合には、其の流域地方は米の大産地なる事を知らせねばならぬ。教科書も此の點には餘程の注意を拂つて居る樣てある。即ち産業を教へるに當つては必ず地勢を土臺にして說明してある。

例一　尋常五年用地理卷一、三二頁　中部地方の産業

「此の地方の平野には多く米を産す。中にも越後平野及び濃美平野殊に有名なり。信濃川・天龍川などの上流地方は一般に養蠶業行はれ、木曾川の上流は木材の産出を以て名高し。漁業は伊豆半島の近海殊に盛にして、鰹鰯を産すること多し」と。

例二　高等一年用地理卷一、七四頁　北米の産業

「西海岸の山地及び東北部地方には、森林多くして、野生の獸類亦少からざれども、中部の中原地方は土地大に開けて、農業・牧畜盛に行はれ、本洲原産の玉蜀黍・煙草を始めとして、他大陸より移されし小麥綿等を産する事頗る多し。又東西兩岸の北部は水産物に富む。鑛物は各大洲中最も豐富にして、金・銀・銅・石炭・石油等の採掘甚だ盛なり」と。

(2) 地勢と都會

人間が生活し易い所を選んて集合することは自然の勢てある。平地は産業が盛になり、交通が便利てあるから、古來文明の發源地は皆河流沿岸の平地てあつた。即ち埃及の「ナイル」河畔、「メソポタミヤ」平野(チグリス、ユーフラット河畔)、印度の「ガンジス」河畔の平地の如きてある。而して今日の文化は世界的となつた。從つて海岸は又人文發展の大中心地をなすに至つたのてある。即ち河岸と海岸とが人文發展都會集中の二區域なるを知らしめるのてある。故に河流や海岸の地勢を教へるに當つては、唯地勢上の名稱だけに止まらず、人文との關係を結び付けねばならぬ事は當然てある。

九州の西北地方が人文上發達してゐるのは、出入港灣に富むからてある。歐羅巴の西北地方に都會の密集して居るのも亦地勢の然らしむる所てある。

(3) 地勢と交通

平地は交通便利てある。古來河流沿岸に人文の發達したのも、全く交通が便利てあるからてある。又山中の通路となつてゐる所を見ると、谷間に沿うて上り行き兩方より極まる所は卽ち峠をなすのてある。內陸が山地にして、あまりに高原をなす所は通路の開鑿も自由てなく、甚だ不便を感ずるのてある。彼の中仙道の如きは、信濃の山地を通過しなければならないから、幾多の難所のあるのを免れない。高崎より碓氷の難所を越えて佐久平に出て、それより和田峠を越えて諏訪の盆地を通り、鹽尻峠鳥居峠を越えて木曾の棧道を過ぎ、岐阜を經て關ヶ原に向うて居る。其の昔時の交通の困難さが想像される。

支那の西南部西藏の如きは尙今日と雖も交通至つて不便てある。西藏高原は平均四千米以上の臺地をなし、南には「ヒマラヤ」山脈があり、北には崑崙山脈が横はり、東には印度支那山系が縱走して、一大高原地區を劃して居る。而して支那本部より入るには、西安より蘭州・西寧を過ぎ青海を經て「ラッサ」に入る通路と、四川省の成都より巴塘に至り、印度支那山系を横ぎりて西藏に入る路とがある。又南には印度より入る「ネパール」路あるけれども何れも至つて不便な路てある。

次に河流に就いて考ふるも、內陸系河流の如きは海洋との連絡がないため、交通上の價値は甚だ少ない。例へは支那新疆省に於ける「タリム」川の如きも其の一てある。而して亞細亞內部の高地より流れ出づる河流は上流の流が急にして、船を內陸に通ずる事が出來ない。彼の楊子江の如きは支那の大動脈と云はるゝだけ下流地方は大船が自由に航行するけれども、四川省の境所謂三峽の險より上流は舟行意の如くてない。況や印度支那山系より西藏地方へは舟行の望さへない。又南米の「アマゾン」河の如きは水量多く河口より二千四百哩の間は一の急湍をも見る事なく、遠く西方「アンデス」山麓に航する事を得るけれども、此の流域は熱帶に位して居るから、大森林の內には常に猛獸毒蛇が群をなして、航行の妨害となることが少くないのてある。

以上の亞細亞・南米の河流に反して、歐羅巴の河流は何れも流が緩にして、船を上流迄通ずる事が出來る。これ卽ち歐羅巴內部の文化發達の主因てある。

若しそれ海岸地方文化の發達に至つては、海岸出入の多少、背後の地勢に大關係を有することは既に述べた所てある。尙左に二三の例を擧げんに、

例一　箱根と交通

封建時代には、三島・小田原が兩方よりの登り口であつて、一日を費して八里の險を越したのであるが、今日の鐵路を敷設するには餘りに難に過ぐるを以て、路は遠いが北方御殿場を廻らなければならぬ次第である。

例二　碓氷峠及び矢嶽峠と交通

關東の平野より信州の高地に入る所に、碓氷峠がある。日本武尊が東征の歸途此處より遙かに東方を顧みて「吾妻はや」と嘆かれたといふ所であるが、今は信越線此の地を過ぐるに「アブト」式軌道によつて居る。「アブト」式は普通の軌道の中央に齒切のある軌道を加へて三條の軌道とし、機關車の齒車と嚙み合つて上る樣になつて居る。「アブト」氏の設計によるから此の名を稱するのである。

又熊本縣人吉より鹿兒島縣に越す矢嶽峠は山を一と廻りせる鉢卷形の「ループ」式軌道を敷設してある。

例三　「アルプ」山系と交通

「アルプ」は古來歐羅巴南北交通の障害をなし、「ハンニバル」や「ナポレオン」などが伊太利に侵入する時の困難は史上に有名であるが、今日は數條の鐵路が南北を通じて、又昔日の感はない。しかし之も其の鐵道開鑿に非常なる勞力と金とを費やした結果なのである。

「サンゴタル」峠の「トンネル」の長さは約九哩に及び、「シンプロン」峠の「トンネル」は十二哩に及んで居る。其の困難な事も思はれるであらう。

第三節　各地方の地勢の特色

地勢教授に當つて、最後に注意すべきは次の問題である。即ち、地勢を大觀すると同時に、其の地方の特色を知ることである。何れの所、何れの時を問はず、教材の主眼點を調査して、其の點に主力を注ぐことが教授の效果を擧げる最善の方法である。故に各地方の教授に當つては、少くとも次の樣な點に注意するがよい。

例一　日本各地方の地勢の特色。

(イ)關東地方

1 山脈が周圍を圍む。
2 内に日本第一の關東平野を抱く。
3 河は多く西北に發して東南に流る。
4 南岸は出入に富む。

關東地方は北に那須火山脈・越後山脈横はり、西には關東山脈ありて中部地方と

の界をなし、東南には房總・三浦の二丘陵性半島がある。卽ち山脈が周圍を取り卷いて、內に大平野を包んで居る。而して西より北部が比較的高く、河流は此等山中より發して東南に向ひ、或は南流して海に朝して居る。

(ロ)奧羽地方

1 三條の山脈縱走す。

2 平野は此等山脈の間に散在して、多くは盆地をなす。

3 海岸は良港に乏し。

中央を縱走するは那須火山脈にして、其の東方には北上・阿武隈の兩山脈南北に連り、西方には出羽丘陵・越後山脈が縱走して、中央山脈の左右に二條の平地を作つて居る。河は此の谿谷を縱走し、東には阿武隈川沿岸平野・仙臺平野・北上川沿岸平野を作り、西には米澤盆地・山形盆地・庄內平野・能代川沿岸平野を作つて居る。

(ハ)中部地方

1 日本中最も山嶽に富む地方にして、殊に信飛地方は、日本「アルプ」の稱あり、山嶽重疊す。

2 河流には急流多し。

3 沿岸は平野なり。

4 南太平洋岸は出入に富む。

南北兩方より來れる二大山系衝突し、分れて對曲をなして多くの山脈を作つたのである。卽ち北より來た樺太山脈の端は關東山脈・越後山脈を作り、南より來た支那山系及び崑崙山系の端が赤石山脈・木曾山脈・飛驒山脈を作つたのである。而して此の對曲の所に、富士火山脈が南より走り來つて、箱根山・富士山を起して日本海岸に及んでゐる。卽ち本州中最も幅廣く、山嶽重疊してゐるのである。此の山中から發して南北に流れる河の多く、が急流をなしてゐるのも亦當然の結果である。

(三)近畿地方

地勢三部に區域せらる。

1 東南……山地なり。

2 中央……大阪灣頭より琵琶湖に至る間帶狀の平地をなす。

3 西北……高原なり。

東南は紀伊山脈東西に走りて大和の南半より紀伊半島にかけて山地をなし、西

北は中國山脈來りて所謂丹波高原を作る。而して其の中間は帶狀の平地をなし、又平地の間には斷層山脈があつて、大阪平野・大和盆地・山城盆地・近江盆地等をなして居る。

(ホ)九州地方

1 山脈東西南北に走つて、分水嶺一定せず。

2 河は四方に流る。

3 海岸線の長きことは本邦第一に位し、殊に西北岸が最も出入に富む。

北部には筑紫山脈が長崎縣より福岡縣に渉りて東西に横はり、南半には九州山脈があつてS字形をなし、鹿兒島縣と熊本縣の境では東西に走り、進んで熊本縣・宮崎縣の界を南北に走り、大分縣に入りては東北に横つてゐる。故に分水嶺は一定せず、河は四方に流れ出て居る。次に海岸の出入多きは九州の最も幸福とする所である。

(ヘ)朝鮮

1 北半は丘陵性山地。

2 南北は太白山脈縱走して、其の西半に平地を作る。

3 出入は西岸に富む。

北、滿洲の境には長白山脈横はり、餘脈南に延びて來て、北半は山地をしてゐる。大白山脈は南半を縱走して東岸に迫り、爲に日本海岸は絕壁の所多いが、西部は平地をなし、又出入に富んでゐて良港が多い。

例二　日本地勢の特色。

1 火山に富むこと。(全國に活火山凡そ六十座)

イ 景色を添ふ。

ロ 溫泉多し。

ハ 地下の鑛物を地表近くに伴ひ來る。

ニ 國民をして熱情に富ましめ淡白ならしむ。

2 山脈多く河流急なこと。

イ 瀑布に富み急灘多く、景色に富む。

ロ 水力の利用。

河水は灌漑に利用され、山間には水車を動かし、又水力電氣の事業が到る所に發達しつゝある。

3 出入島嶼に富む。

海岸線が能く發達して、數多の港灣を作り、外國との交通が便利である。

例三　世界各大陸の特色。

(イ)亞細亞。

1 山系雄大にして交通不便、文化の普及を妨ぐ。

2 河流は上流多く急流にして內部への交通自由ならず。唯北部の河は緩流なれども、一年中の大半は氷結して、運漕は十分ならず。又內地流域の河あれども一般に不便なり。

3 海岸は北岸は單調にして、南方は大出入あり。東岸は小出入に富む。

世界の屋根と稱せらるゝ「パミル」高原より東北に走れるは、天山山系及び「アルタイ」山系にして、東には「コンロン」山系、東南に「ヒマラヤ」山系出てゐる。又西には「ヒンヅークシュ」山系、西南に「スリマン」山系が走つてゐる。

此等山系の間には、各々大高原を作り「チベット」高原、新彊省の高原、蒙古の沙漠及び「イラン」臺地等がある。此等の山系は障壁となりて交通を妨げ、又中央高臺中より發する諸川は上流迄船を通ずることが出來ない。獨り「シベリア」の河は緩流であるが、冬季に河口が氷結するので不便である。

要するに亞細亞の山河は餘りに雄大にして交通を妨げ、內陸の發達が出來ない。

(ロ)大洋洲

「オーストラリヤ」

三部に區別
- 東部……山地。
- 中部……低地。
- 西部……高臺性。

東岸に迫つて「オーストラリヤ、アルプ」があり、內部には「コルレー」河ありて湖沼に富み、西半は高臺性山地をなして居る。併し大山系も大水系もなく、最小な大陸である事が、他の大陸と異なつた點である。

名稱の意義

「オセアニヤ」……大洋洲の意。

「オーストララシヤ」……南の亞細亞の意。

「オーストラリヤ」……南の地方の意。

「メラネシヤ」……黑人の島の意。

「ミクロネシヤ」……小き島の地方の意。

「ポリネシヤ」……多くの島の地方の意。

(八)歐羅巴

1 山系は亞細亞の如く雄大ならずして、交通を妨ぐること少し。

2 平野は多く農牧に適す。

3 河は緩流にして上流迄船を通じ、內陸の交通極めて便利なり。

4 海岸線の長きこと、各大陸中第一位に位し、港灣に富む。

歐羅巴は東半が露西亞の大平野をなし、西南に「アルプ」の山系ありて、伊太利と佛蘭西、瑞西の界を走り、墺太利に入つて「カルパチヤ」山脈となつてゐるが、亞細亞の山系の如く雄大でない。河は概ね緩流にして、上流は互に運河を以て相通じ、黑海より「ダニユーブ」河を上りて「ライン」河に入り、北海に入ることが出來る。又地中海より「ローヌ」河を上りて「セーヌ」河に入り、「英吉利」海峽に出ることも出來る。次に海岸は出入に富み港灣多く、加之海岸より內地迄の距離は遠くない。從つて文化が入り易い。

(九)亞弗利加

1 一體に高臺をなし、塊狀を爲す。

2 高臺上を流るゝ河流は、下流の河口近くに於て急流をなす。故に海より內地に船を通ずること困難なり。

3 海岸は出入が至つて少なく、交通不便なり。

(十)北亞米利加

南米と共に略ぼ三角形をなす。

地勢三部に區別
- 東部……大西洋高地。
- 中央……大平原。
- 西部……大平洋高地。

西部には「ロッキー」山脈が縱走して、海岸山脈の間に高臺性大盆地をなし、「ロッキー」山脈を越えて東に至れば「メキシコ」灣頭より北極洋に連れる中央大平野を作り、「ミシシッピー」河其の間を灌漑して居る。東部には低き「アパラチヤ」山脈横はり、又海岸平野を有するを以て、交通便利である。海岸は西岸よりも東岸に出入多く、「ニューヨーク」「ボストン」等の良港に富んでゐる。

(十一)南亞米利加

1 地勢三部に區別
- 東部……「ブラジル」臺地。
- 中部……平地。
- 西部……「アンデス」山脈。

2 海岸出入乏し。

西には「アンデス」山系縱走し、東には「ブラジル」臺地あり、中央は平原をなして地勢を三大分すること、北米と同樣である。唯中央平野が自然に三つに區分されて居ることが稍々趣を異にして居る點である。卽ち「アマゾン」河の流域に廣き「セルバ」の平野を作り、それから南に向へば、低き分水嶺によりて「ラプラタ」河流域の「パンパス」平野に連る。北も「ギヤナ」臺地の低き分水嶺によりて「オイノコ」河流域の「リヤノ」平野に連つて居る。

第四節　地勢教授案例

一 教材(尋卷二、三二頁)

朝鮮の地勢

二 準備　朝鮮の略圖

三 方法

イ 豫備

目的指示

今日は朝鮮の位置、地勢のことを教へます。「朝鮮の地勢」と板書す。

1 朝鮮はどこのものか。

2 朝鮮は亞細亞の何れの方面にあるか。

九州の何れの方面にあるか。

ロ 教授

一 山系につき

長白山脈

始めに地圖によつて大體の地勢を觀察せしむ。

問　何れが山地なるか。

(朝鮮半島の北、滿洲との堺に連れる山脈を長白山脈と云ひ、中に白頭山の高峯聳えて半島の北半分は山地をなし、松樅の良材を出します。

(此の時兒童の地圖に注意せしめ、又教師は豫て用意せる地勢圖によつて

明かに山脈の方向を示し、或は板上に略圖を描いて長白山脈白頭山を記入す)

大白山脈

問　半島の南半に縱走せる山脈を何と言ひますか(大白山脈)

(大白山脈は長白山脈と殆ど丁字形をなし、少しく東に偏し走つてゐる樣子を發見せしむ。此の時、圖中に山脈を記入して印象を深くす)。

二水系

問　かく山脈が南北に連るを以て、河は何れの方面に流れるか。

(西には鴨綠江・大同江・漢江、南には洛東江、東には豆滿江がある——地圖に記入)

問　平地は何れにあるか。

(日本海岸方面は急傾斜をなせども西半は河畔に沃野を作り、大豆・米・人參が多い)

三海岸

問　地圖によつて東岸と西岸とは何れが出入島嶼に富むかを言はしむ。

(東岸は山脈が海岸に迫まつて斷崖をなし、海は深く、永興灣の外は港灣なく、出入は至つて少ない。之に反して、西岸より南岸は出入島嶼が多く、朝鮮灣・江華灣があり、島は巨濟島が最も大てある。此の方面は漁業盛にして漁利多く、良港に富んで居る。)

八復演

1 朝鮮は何れの方面が山地で、又何れの方面に平地があるか。

2 重なる山脈の名を言へ。

3 河は何れの方面に多く流るゝか。

其河の名を言へ。

4 東海岸に斷岸をなす所多きは何故か。

5 西岸の出入に富めるための利益を言へ。

右整理し終れば、教科書を讀ましむ。

地圖の記入。

最後に筆記帳に略圖を書かしめ、山系・水系・港灣を記入せしむ。

四注意

地圖を教授の中心とすること。

1 提示の場合には教師は板上に略圖を書きて要項を記入しつゝ教授を進む。

2 又兒童用附圖と教師の地圖との對照を保たしむ。

3 教授終らば、兒童に略圖を書かしめて、記憶を確かにす。

4 即ち地圖は教授の出發點となるものであるが、又之によつて教授の結末をつけることを忘れてはならぬ。

5 地理教授の板書は即ち略地圖なることを考へ、其の略圖の内に要項を記入して、別に字句の板書をなすには及ばない。

第三章　氣候の取扱法

氣候とは一體どんなことであるか。其の内容を知ることが第一の要件である。即ち氣候といへば、氣溫・濕氣並に風を含んで居るのである。此の氣候が吾人の生活に如何なる大關係を有するかは、注意して研究せねばならぬことである。見よ、吾人の身體は氣候のために支配され、吾人の精神は氣候のために左右されて、勤惰利鈍ともなるのである。吾人の心身は全く氣候のために同化されるといつても

よい位である。之を試に四季について考ふるも、春と秋とは心身の緊張上如何計りの差があるか。夏と冬とに於て吾人の活動狀態に、如何ばかりの違を生ずるか。之を考へると氣候の適否は實に吾人生活上に多大の關係を有し、文化が氣候のために左右さるゝことの僅少でない事がわかるのである。

かく吾人に至大の關係を有する氣候を說くに當つては常に氣溫以外に濕氣・風向をも說く事に注意せねばならぬ。

第一節　氣溫と人文との關係

吾人の生活に最も適應せる氣溫とは溫暖にして、冬氣は稍々寒氣に過ぐる程でなくてはならぬ。餘りに炎熱に過ぐるは心身に刺激なく、又あまりに寒冷に過ぐるは、心身を萎縮させるものであるけれども、溫和にして少しく寒冷の傾あるを最良の地方とするのである。

例一　日本の一般

尋常五年用地理卷一の二頁に、「日本は氣候一般に溫和なり」とある。これ日本は大部分溫帶に位するのみならず、暖流たる日本海流が近海を環流するによる。

此くの如く、我が國は一般より見るときは、氣候溫和なりと雖も、尙詳細に考へ

て見ると、南は熱帶より亞熱帶的氣溫にして、北は寒帶的氣候である。かく氣候に變化多きは、これ住居に適する所以で、我が國は實に多幸な國といはねばならぬ。尙一面には多種多樣の動植物あり、產業興起の基礎をなして居る。

更に日本が冬季に、比較的冷氣强きは北より寒流が來つて近海を洗ふと同時に、冬季非常に冷却せる亞細亞大陸の內部より卓越せる寒風が吹き來るによる。これによつて吾人の心身を刺激する事强く、爲に人智の開發を助くる事が少くない。此の點から云つても、日本は實に申分のないよい氣候の國と言はねばならぬ。

例二　日本の各地方特種の氣候

日本地理の各地方の總論を說く場合には、其の地方特有の氣候に注意して、其の理由を究め、人文に及す影響を見ることが大切である。

(イ)北陸地方

尋常五年用地理卷一、三四頁に、「日本海に面する地方は冬季積雪深し」とある。これ冬季亞細亞大陸より吹き來る風が對島海流に伴へる日本海上の濕氣を吹き送りて、本邦の背梁山脈に遮ぎられ、爰に日本海方面に雪量を多からしめるものである。

冬季積雪多き結果は外出に困難を生じ、活動の範圍を狹ばめて、家庭生活に親しましめるので、家庭的工業が比較的盛になる。福井、石川、富山、新潟の諸縣が繊物、漆器、陶器、銅器などに富むのは、一にこれが其の原因となつて居る。更にその結果は人情、風俗の上にも多大の影響を及してゐるのである。

(ロ)臺灣

尋常六年用地理卷二、一九頁に、「氣候甚だ暖かにして、雨量多く云々」と。臺灣の中央を北緯二十三度半の緯度、卽ち北回歸線が通つて居て、その南半は熱帶に入り、暖流四圍を洗ふを以て炎熱甚だしく、且雨量に富んで居る。其の結果、天產多く農產が盛である。卽ち世界第一の產額ある樟腦を始め、阿里山の材木など實に人目を驚かすに足るものがある。又米は收穫年に二回に及び、茶、砂糖の產出は既に國庫の財源たるに至つた。

(ハ)北海道

尋常六年用卷地理二、二四頁に、「寒氣一般に强く、殊に石狩川上流の上川平野は寒地として知らる。されど本島降雪の量は本州北部の日本海岸地方より少し」と

ある。北海道は本邦の北部に位し、寒流たる千島海流樺太海流を洗へるを以て、一般に寒氣強く、又上川地方は山脈の間に閉ぢられたる盆地なるを以て、四方の影響を受くることが少なく、大陸の内部と同じく、冬季甚しく冷却し、零度以下四十度にも降ることがある。

又本島の環海は寒流であるから、比較的に水蒸氣少なく、本州北部の日本海岸地方よりは降雪が少いのである。

(二)樺太

尋常六年用地理卷二、三〇頁に「此の地方は北方に偏せるを以て、冬季長く、寒氣甚だ強し。然れども降雪の量は殆ど北海道地方と異ならず」とある。北方に偏在せるから寒いといふ事は、此の程度の兒童には十分に分からないだらうが、赤道地方は太陽が直射し、北に行くに從つて太陽熱が斜に當るから寒いといふ理由だけは朧げながらにも了解せしめねばならぬ。

此の地方は北海道より稍々寒冷であるけれど、松類や、石炭の天産には富んで居る。

(ホ)朝鮮

尋常六年用地理卷二、三五頁に「氣候は一般に寒暑共に甚だしけれども、南部の沿海地方は頗る溫和なり」とある。朝鮮は氣候の變化甚だしく、三寒四溫の語さへ用ひられて居る。即ち亞細亞大陸に接續するを以て、半島の北半は大陸の影響を受けて、寒暑の差殊に甚だしく、南部は暖流の影響を受けて一般に溫和であり、米・麥其の他の農産物に富んで居る。

(ヘ)歐羅巴

高等一年用地理卷一、三五頁に「本洲は大部分北溫帶に位すれども、東西によりて大いに氣候の趣を異にす。大西洋沿岸の地は海岸の影響を受くること著しく、他の同緯度の地よりも頗る溫和にして、「スカンヂナビヤ」半島の西北岸の如きも、冬季凍結の虞なし。されど西より東に至るに從ひ、寒暑の差一般に增加し、東部平原の如きは冬季河水悉く凍結す」とある。普通は赤道より北に進むに隨ひ漸次に寒冷となるのが當然である。然るに獨り歐羅巴は西より東に進むに隨ひて、寒冷の度强く、南北に於けるよりも東西に於て氣候の變化甚だしいのは大いに注目すべき點である。此の點を十分に了解せしめねばならぬ。これ全く灣流が西海岸を洗ひ、遠く「スカンヂナビヤ」半島の海岸より北極洋に入り、西海岸

は其の影響を受けて、北部に至るまて溫和だからてある。而して西風の吹き送る暖氣は、東西に走れる山脈の間を潜りて、比較的内部迄到着するが、遠く露西亞の平原まて到着する事が出來ない。故に東部平原の河流が冬季凍結するのも止むを得ないことてある。かくして西岸より東部に入るに隨ひ、漸次に寒冷の度が增してゆく。而して西海岸が比較的北部まて文化開け、歐羅巴の文化が洲の西北部を中心とせるも一つはこれに原因するのてある。

第二節　雨量と産業との關係

雨量の多寡が産業の上に及す影響の大なる事はいふ迄もない事てある。臺灣に年二回の米の收穫があるのは、氣溫の高いのと共に、雨量に富むが爲てある。印度の農産に富むのも全く同一の理由に外ならない。

斯く雨量と産業とは、密接な關係あるにも拘らず、敎授に當つて動もすれば、雨量を閑却するが如き傾向あるのは實に遺憾なことてある。今左に注意すべき二三の例を示さんに、

例一　瀨戸内海地方の雨量と産業。

瀨戸内海地方に於ける重要な産業といへば先づ第一に製鹽を推さねばならぬ。而して此の製鹽業が特に内海地方に盛なのは何故てあるか。先づ之を考察することが大切な問題てある。卽ち同地方の降雨が少いのによることを明かにせねばならぬ。然るに敎科書の說明が此に及んてゐないから敎授者は大いに注意すべきてある。

例二　中亞細亞の雨量と産業。

中亞細亞は一帶の草原をなし遊牧盛に行はれてゐる。これ此の草原地方が降雨少き結果、かくの如き地貌を呈するに至り牧畜が此の地方唯一の生業となるに至つたのてある。

例三　合衆國の地勢と雨量と産業。

高等一年用卷一、七四頁に、「氣候は所々一樣ならざれども、一般に西岸は東岸よりも暖にして、内地は寒暑の差多し、又西部の高地には雨少く沙漠をなせる所あり」とある。合衆國は廣大なる面積を有し、地勢自ら三部に大別されて居るから、氣候も一樣てない、卽ち西部太平洋高地に於ては、西風は暖流上の水蒸氣を海岸山脈に吹き當てるのて、帶狀の海岸低地「カリフオルニヤ」地方は雨量に富み、農業に適して居る。けれども、一且海岸山脈を越えて内部高地に入れば大盆地をなし、

沙漠をなせる所もある。尙「ロッキー」山脈の頂上には雪が積るけれども、之より內部、中央大平野には西方よりの濕氣が到達し難い。併し東部「アパラチヤ」山脈は比較的に低い山脈であるから、東方より送り來る水蒸氣は、此の山脈を乘り越して內部に到達するのである。卽ち中央大平野は豐裕なる農場となり「小麥綿」玉蜀黍煙草等世界の大產額を有して居るのである。

此の如くに觀察して來る時は地勢と雨量との關係を明かにし、更に雨量と產業との關係を了知する事が出來る。

第四章　住民の取扱法

人間は地球上に於ける活動の本體であるから、住民の取扱について詳細に調査する時は注意すべき事項が多いけれども、其の中で小學校に於て努力すべきは、各人種の分布と密度及び國民の特性の研究等である。

第一節　世界の人種と其の分布

世界の人種は亞細亞人種・歐羅巴人種・亞弗利加人種・亞米利加人種・海岸島嶼人種の五つに大別されてゐる。此等各人種の種族別と其の分布とを了得し置くことは敎師の第一に務むべき點である。今左に表示して、各種族と其の分布とを明かにしよう。

一人種と分布

- 一、亞細亞人種
  - シベリヤ種族
    - 1 滿洲人（東三省地方）
    - 2 蒙古人（蒙古地方）
    - 3 土耳古人（新疆・西方亞細亞）
    - 4 日本人（日本、朝鮮）
    - 5 極人「アイヌ」（北海道・樺太）
    - 6「フィン」人（露西亞西北部）
  - 支那種族
    - 1 漢人（支那本部）
    - 2「チベット」人（西藏）
    - 3 印度支那人（印度支那半島）
      - 1「ラチニ」（伊太利・佛蘭西・葡萄牙・班西牙）
      - 2「チユートン」
        - 東「チユートン」（瑞典・諾威・丁抹）
        - 西「チユートン」（獨逸・和蘭・英吉利）

- 二、歐羅巴人種
  - 北歐羅巴種族
    - アリヤン族
      - 3「スラブ」(露西亞)
      - 4「アルバニヤ」人(アルバニヤ地方)
      - 5「ギリシヤ」人(ギリシヤ)
      - 6「インド・イラニック」人(印度)
    - カフカス族
      - 1「シルカシヤ」人(カフカス地方)
      - 2「セオルシヤ」人(カフカス地方)
      - 3「ギルギス」人(中亞細亞地方)
    - 「ユースカリック」族(バスク西班牙の北部地方)
  - 南歐羅巴種族
    - ハム族
      - 1「リビヤ」人(リビヤ地方)
      - 2「エヂプト」人(埃及地方)
    - セム族
      - 1「アビシニア」人(アビシニヤ地方)
      - 2「アラビヤ」人(亞剌比亞地方)
      - 3「チユウ」人(歐米各地方に散在)
- (黒人種
  - 1黒人(ヒイリツピン諸島)
  - 2「パプア」人(パプア島)
- 三、海岸島嶼人種
  - 「マライ」族
    - 1「マライ」人(マライ諸島)
    - 2「ポリネシヤ」人(ポリネシヤ諸島)
    - 「3「メラネシヤ」人(メラネシヤ諸島)
  - 「オーストラリヤ」族……「オーストラリヤ」人(オーストラリヤ)
- 四、亞弗利加人種
  - 黒人
    - 1「ナイル」人(ナイル河地方)
    - 2「スーダン」人(スーダン地方)
    - 3「セネカンビヤ」人(セネカンビヤ)
    - 4「ギネヤ」人(ギネヤ地方)
  - 小黒人(南「アフリカ」人)—(南アフリカ地方)
  - 黒人屬(「ヌビヤ」人)(ヌビヤ地方)
- 五、亞米利加人種……「インヂヤン」(合衆國の中央部)

二、人種的發展

茲に述べた各人種の分布は、何れも其の根據地を擧げたに過ぎない。而して各種族が世界各地方に人種的大發展をなして、諸所に大勢力を作り、移民に、殖民には出稼に到る所に大活動をなしつゝあるのは、吾人の大いに注意すべき點である。

「チユートン」族は北米を占領して合衆國を作り、「ラチニ」族は南米を取りて幾多の共和國を作つて居る。其の外歐羅巴人は亞弗利加の南部又は亞細亞・大洋洲に渉りて廣く分布して居ることを忘れてはならぬ。尙支那人の如きも南洋地方より南北亞米利加にかけて、侮るべからざる勢力を持つて居るのである。

第二節　人口の取扱

人については、各國の人口增加と、其の密度とを考察して之に處する方法を講ずるのが其の第一義である。

一、人口の增加

我が國の人口增加率は實に驚くべき情況を示してゐる。之を歷史に徵するに、推古天皇の頃には五百萬人と見え、聖武天皇時代には八百六十三萬人とあり、院政時代に及んで一千六百萬人に增加し、室町時代の末には千七百萬人、德川時代の末には二千七百萬人に達し、明治の初年は三千三百萬人であつたが、今日は朝鮮を加へて實に六千九百萬の巨數を算するに至つた。朝鮮を除いて一年の增加率を見るに、實に六十五萬人といふ驚くべき數を示して居る。

今本邦の人口增加率と列國の人口增加率を比較するも、日本が如何に優勢の地位に居るかを知ることが出來る。吾人は奮勵一番之に處するの道を講じなければならぬ。思ふに工業の發展と、海外發展とが其の二大方策であらう。

左に各國の人口增加率を示さんに。

日本	$\frac{1.16}{100}$　八十年間にて二倍。
英國	$\frac{1}{100}$　百年間にて二倍。
獨逸	$\frac{1.45}{100}$　六十九年間にて二倍。
露國	$\frac{1.76}{100}$　五十七年間にて二倍。
佛國	$\frac{.14}{100}$　七百十四年間にて二倍。
米國	$\frac{4.45}{100}$　（各國の移住民多いから全く特別である）

日本は米國を除いて、世界第三位の增加率を有し、其の繁殖力頗る大である。

進んで人口の密度を見るも、日本は世界の第四位に居り、白耳義・和蘭・英吉利・日本の順である。人口の點に於ては何れの點より考へるも優勢の地位に居るのである。

二　都會の人口

都會の人口の取扱には、先づ第一に我が鄕土の人口を記憶せしむる事が必要である。そして之を標準として、各都會の人口を比較し、其の繁榮の度を想像せしめねばならぬ。卽ち各都會の人口數を以て直ちに其の繁榮の度を想起せしめる事が出來れば充分である。一々之を諳記せしめる必要はないのである。然して東京・大阪の如き大都會の人口と、小都邑たる鄕土の人口とを比較するのは意味をなさない。故に大都會の人口は直接に其の人口を記憶せしむる方針が寧ろ有效の方法であらうと思ふ。敎科書には地方の代表的都會のみの人口を記してあるから、其の都會を敎授するに當つては無意味に人口を取扱はず、之を有效に說明せねばならぬ。尋常科の地理書には左の十三都會の人口のみを記しある。

東京	二〇〇萬	横濱	四〇萬
仙臺	九萬	名古屋	三七萬
金澤	一〇萬	京都	四五萬
大阪	一二〇萬	神戸	三八萬
廣島	一三萬	長崎	一八萬
小樽	九萬	臺北	七萬
京城	二〇萬		

外國の都會の人口は僅かに左の四つだけを示してあるから、之は記憶せしめねばならぬ。

伯林	二〇〇萬		
巴里	二八〇萬		
倫敦	四八〇萬	（接續市街の人口を合算すれば七三〇萬）	
紐育	四〇〇萬		

第三節　國民性

各國の國民はそれ〴〵特性を有して居る。所謂國民性を作つてゐるのである。日本には日本固有の國民性がある如く、英國にも、獨逸にも、其の國特有の國民性がある。各國民の特有性を出來るだけ調査して、其の長所・短所を究めて以て敎育に資するのは頗る大切なことゝ思ふ。敎科書は住民の記載法が至つて簡略であるが、今日優秀の地位を占めて居る國民については、其の特性を考察し、退いては我が國の國民性を研究して、其の長所・短所を明かにし、彼の國民性と對比する時は、兒童

の腦裡を刺激して、感奮の情自ら其の間に湧出するに至るであらう。之は國民教育上甚だ大切な事であると思ふ。故に先づ其の第一歩として各國民の特性を研究して置く必要があるのである。

一　日本の國民性

(1)　其の長所

尋五年用地理卷一、三頁に、「大和民族にして、其の數凡そ六千八百萬あり。上に萬世一系の天皇を戴き奉り忠君愛國の心に富めり」とある。即ち日本は世界無比なる國體を有する上に、國民が忠君愛國の思想に富める事は、又世界無比といふべきである。實に日本人の代表的思想は忠君愛國の念である。此の如き特性は如何にして養成されたかといふに、之は決して一朝一夕に形成されたのではない。二千五百餘年の歴史が自然に此の思想を生み出したものと見るべきである。余はこの特性を作りだした重なる理由として、左の諸點を擧げたいと思ふ。一つは歴史的の見解で、一つは地理的の解釋である。

歴史上

1　上に萬世一系の皇室を戴き奉ること。

2　家族制度の特異なること。

地理上—3　帝國の位置に基づくこと。

畏くも我が國は上に萬世一系の皇室を戴き奉り、皇統連綿として變らせたまふ事がない。世界廣しと雖も、此くの如き國柄は外に一つもないのである。又歴代の天皇は恰も我等の慈母の如く在します事は、我等國民の腦裡に深く刻まれて居ることである。而して我が家族制度を西洋の家族制度と比べて見るに、大いに其の趣を異にして居る。西洋は個人本位で、親子と雖も分離し獨立生活する事を本位としてゐるが、我が國は非常に家を重んじ血統を尊び、家には戸主があつて、家族のすべては之に隷屬してゐるのである。各戸集まつて同族をなし氏を作り、更に集まりて大和民族を作つてゐるのである。而して大和民族の中軸に渡らせ給ふのが畏くも皇室である。我が國民の皇別・神別・蕃別より成れるは歴史の記する所ではあるけれども、年久しい間には、全く同化して、打つて一團となつてしまつた。即ち　皇室を中心として、之から枝脈を生じ、漸次繁榮して、今日の民族を作つたのである。乃ち今　皇室を木の幹とせば民族は其の枝葉に當つて居る。家が集まつて氏をなし、氏集まつて小氏・大氏を作り、遂に大きな一團の民族を形作つた。而して其の中軸に渡らせらるゝが畏くも　皇室であ

る。故に親に孝なるは君に忠にして、君に忠なるは親に孝なる所以で、忠孝一致は、我國が千古の美風である、我が國民が古來祖先を尊び、家名を重んずるのは、是親には孝、君には忠なる所以である。以上は歴史的見解に基いて論じたのであるが、忠君愛國の念を發揮せる第二の理由は地理的見解である。帝國の位置は亞細亞の東邊に位して、其の領土漸次に廣まり、今は大陸の上にも旭旗が輝いて居る。其の亞細亞の東部に偏在せること、即ち永く島帝國であつた事は、國民を一致して自然に團結の念を強からしめ、協同一致の思想を涵養するに至つた。即ち一致して内を守り外に當るの念は、次第に強さを增して來て愛國の思想となり、苟も外患としいへば、直ちに擧國一致之に當る。擧國一致は實に我が國の特色である。我が國民が忠君愛國の特性を備へし源因は一つや二つて言ひ盡くすことは出來ないが、其の根本源因は當に此の特有の家族制度と帝國の位置が然らしめたものといつても差支はない。之が教授者の留意すべき點である。

(2)其の短所

以上は我が國民性の美點に就て述べたのであるが、吾人は吾が國民性の美點を益々發揮せしめると共に、其の短所の矯正に對しても亦大に努力せねばならぬ。

由來我が日本人は感情に富み、怒るときは烈火の如く、火山の噴出する樣であるが、撓まず、倦まず事に當る忍耐力に乏しいかの感がある。即ち持續的精神に乏しいのは、我が國民通有の弊である。米國の「ラッド」博士嘗て日本に來り、評して曰く、「日本人は感情的にして學理的ならず。一時的にして高遠なる思想を缺く」と。これ味ふべき言葉ではなからうか。事の成否は一に綿密なる思想と、持續的精神から出來るのである。産業の振興も、學問の隆盛も、一に此の精神の如何によるのである。我が國民に此の大缺點ありとせば、此の短氣の風を矯正して持續的精神を養成すべきは、吾人教育家の務むべき緊急の問題であらうと思ふ。教育は須らく意志的でなければならぬ。實行的でなければならぬ。日本をして富國强兵の實を擧げんと欲せば、先づ此の根本思想の養成に努力せねばならぬ。彼の軍備擴張の策を講ずる、固より不可なからんも、吾人より之を見れば、此の根本思想の養成に努力するこそ國家百年の長計たるを信ずるのである。

二　獨逸人の國民性

1　勤勉である

獨逸人は勤勉にして忠實に事に從ふ。之が其の一大特色である。義務に服す

るを己の本分と考へて居る。獨逸の軍人は絶對的に上官の命に服し、忠實に其の職務に當り、一死以て己の任務を遂行すべきものとしてゐる。無論軍人に限らず、官吏は誠心誠意其の職責を盡し、實業家は自己の職業を天職と心得て、忠實以て業に服し、少しも倦怠せる態度を見せないのは感服の外はない。

2　意志堅固である

獨逸人は痛せたる北海の濱に生長し、荒れたる海波と闘ひ、寒氣に打たれて發育した。卽ち自然は常に彼等を苦しめて止まなかつたのである。日夜奮勵努力自己の力を以て自然を切り拔き、自己の腕によつて、自己を維持し、且國家を發展せしめんとの彼等の信念は、自然に此の間に形成さるゝに至つた。一面には教育の力もあるが、かくして彼等の意志は強固となり、實行的精神を天性とするに至つたのである。獨逸人が如何なる難事に會ふも、當初の目的を遂行せずば止まざる持續的精神に富むのは、正しく今日の富强を來した原因である。獨逸國民の熱血中には實に堅固なる意志の力が溢れて居る。此の點に於て日本國民たるもの豈に三省せざるべけんやである。

3　研究的精神に富む

獨逸人の研究的精神に富む事は亦驚くばかりである。學術にまれ、實業にまれ、苟も成さんとする仕事に向つては、十二分の研究を積まねば止まぬのである。彼等が學術界に於て、覇を世界に唱へて居るのは決して偶然ではない。獨逸の大學にては、彼の白髮の老先生が夜を日について、學理の探究に力めてゐる。一人て出來上らぬ仕事は、弟子や門人と手分して研究を進め、一代て出來上らぬ事業は子孫の代に至るまて其完成を期してゐる。彼等は學に就かば必ず眞理を究めなければ止まないばかりてなく、其の究め得たる學理を實地に應用するの能力あるに至つては、更に敬服の外はない。獨逸が今日製造工業に於て、英國を凌がんとして居るのは、當に學理の應用に努力した結果である。我等は、彼等の遥れる人造の寶石は眞物とまがふ程になり、人造樟腦、人造絹絲は日本品の勁敵となつて居ることを省みねばならぬ。又獨逸人は獨り學術に向つてのみ研究的てあるのてはない。農業をなすも、商業をなすも、先づはじめに細心なる研究を積みて、遠算なきをたしかめるのてある。彼等が日本人の刀の飾りを研究するのも、骨董的道樂にあらずして、其の趣味に適したる商品を作らんが爲てある。又支那人の趣向を調査して適好なる商品を作り日本品の驅逐を圖つて居る。

實に其の注意の周到なる、眞に石橋を叩いて渡るやうな感がするてはないか。

三　英吉利の國民性

1　誠實で信義を重んず

北海沿岸地方より移住して來た「アングロサクソン」人は、英本國に來ても、其の風土は故郷と異なることなく、益々英人を刺激して、奮勵努力の精神を鼓舞し意志を鞏固にし誠を愛し信義を貴ぶの念を涵養して來た。虚僞は彼等の最も惡む所で、約束を守り然諾を重んずるは其の大特色といふべきであつて、又人格の崇高なるは世人の羨望に堪へない程である。是全く自然の感化と教育の然らしむる所である。

2.　沈着にして膽力あり

何事をなすにも沈着で膽力がある。彼が持續的精神に富めるは獨逸人と同じである。

四　佛蘭西の國民性

1　感情性に富む

佛人は感情が強く、物事に感じ易い國民である。氣質上から分類すると、多血質の方であつて、興奮しやすく、且敏捷である。英人や獨逸人の如く鞏固な意志は乏しいが、物に感じ易いから、一度強い刺激を受けると猛烈なる熱情を發し、勇敢壯絶なる快事を敢行する事がある。即ち機會に遭遇すれば大成功をなすことがあるけれども、一度失敗すれば忽ち意氣消沈して、復起つ事の出來ないやうな嫌がある。要するに佛人は情的であると言うて差支ない。

2　美的思想に富む

佛人は感情に富んで居るから、一面に於て頗る美的思想に富んでゐる。佛國の産業が美術工藝に於て異彩を放つて居るは、即ち國民思想の發露である。感情に富み美的趣味を有するは之「ケルト」人の大特色であつて、英獨人の企て及ぶ所てはない。

3　勤儉貯蓄の念強し

佛人とし言へば誰でも直ちに華美贅澤を聯想するてあらうが、其の實は豫想と全く反してゐるのてある。巴里に行つて見ると、成程輪奐の美を呈して居るが其の内に住する市民の儉約といたつたら、實に驚くばかりてある。即ち粗食・粗服、貯蓄を怠らない。殊に一歩都門を出づれば、一層質朴て勤儉の思想に富んて

居る。彼等が優美性に富むと同時に、一面に於てかく貨殖に長じてゐるのは實に面白い對照と言はねばならぬ。

第五章　政治の取扱法

法治國の國民として、國家の組織統治の方法等に關する知識を必要とするは、勿論のことてある。我が國は憲法制定以來、既に二十餘年を經過し、議會を重ぬる三十五回に及ぶと雖も、國民一般の政治思想に想到せば、未だ甚だ貧弱な感に堪へないのてある。殊に政治的道德は、國民の大いに修養せざるべからざることと思はれるのてある。故に國民に法制上の知識を與へ、政治的思想の涵養に意を用ふるは、實に今日の急務てあつて、國民教育上又吾人の看過すべからざる問題てあると思ふのてある。けれども如何に法制上の知識が必要てあるからとて、中等教育以上の學校て教ふるが如き高尚な知識を小學校兒童に要求することは出來ない。其の上、法制に關する事柄は、その性質上材料を理解することが困難てある。而も尋常科と高等科に於て說明の程度を異にすべきは當然てあるけれども、要は今少しく法制に關する常識を作り、國民の政治思想を高めたいといふのてある。現代の政治組織を知るは、これ國體を明かにする所以て、更に列國が領土を擴め如何に之を支配するかを說き殖民政策の狀況を明かにするのは國家的觀念を養ふ上に缺く可からざる重要な問題てあると思ふのてある。而して政治的知識は修身・國語・歷史等の教科に於ても教授することが多いけれど、特に地理科は此の觀念を與へるのに最も適切な教科てあつて、地理教授の一大任務も亦此にある。

第一節　政治組織

一　政體

尋常六年用地理書卷二、六十四頁に、「我國は萬世一系の天皇を戴ける立憲國」とある。又高等二年用地理書卷二、四十八頁に、「現今世界に分立する國は其數五十に餘れども眞に獨立の體面を保ち得るものは二十有餘に過ぎず。是等の中には君主を戴けるものと然らざるものとあり云々」とある。之を教へるに當つては立憲國とは如何なるものなるか、又君主國民主國とは如何なるものなるかを充分に了解せしめねばならぬ。それには先づ政體の區別をよく研究し了解し置ことが必要てあると思ふのてある。即ち國家は其の組織の如何によつて自ら政體に種類を生じて來るのてある。第一に主權の所在によつて政體を分てば、君主國と民主國

との二種となり、次に統治の方法によつて政體を分てば、立憲國と專制國の二種となるのであるが、今此の兩方面を合して區分すると、

政體
- 立憲國
  - 立憲君主國：（日本等）
  - 立憲民主國（共和國）：（北米合衆國等）
- 專制國：專制君主國：（露羅國等）

立憲國に於いては、主權者自ら一定の準則（憲法）を制定して、之によつて統治權を行ふのである。專制國に於ては其の主權者は何者にも拘束さるゝことなく、全く自己の意志によつて、國權を行ふのである。社會の文明が進み、法治上の思想普及するに至つて、專制國は漸次其の跡を絶ち、立憲政體は、今日の一般的政體たるに至つた。彼の新開國たる南北亞米利加の諸國は悉く立憲國であつて、歐羅巴も二三國（「モナコ」小國、「モンテネグロ」國、「アルバニヤ」國等）を除くの外は、すべて立憲國である。亞細亞は日本の外、波斯に憲法發布を見、今また支那國が其の過渡の時代にあるといふ狀態である。

二　政治機關

政治機關は通常立法・司法・行政の三種に分れて居るけれども、別に天皇の大權によつて親ら行はせらるゝものあるは勿論のことである。而して天皇親ら大權を行はせらるゝ場合にも、大權機關があつて翼贊し奉るのである。故に政治機關としては大權機關・立法機關・司法機關・行政機關の四種を數へねばならぬ。

大權機關とは國務大臣・帝國議會・樞密顧問・參謀總長・軍令部長等である。國務大臣とは、內閣總理大臣・各省大臣及び特に內閣員に列せられたるものを言ひ、天皇を輔弼して其の責めに任じ、國務に關する詔勅に副署するのである。（憲法五五條）立法機關は帝國議會である。固より立法權は元首の大權（憲法五條）であつて、帝國議會は法律案に協贊して大權の發動に參與する機關たるに過ぎないのである。故に政府貴族院又は衆議院より提出した法律案は兩院を通過し、次に天皇の裁可に依つて法律となり、公布されるに及んで始めて效力を生ずるのである。司法機關は民事刑事を裁判する機關である。裁判所には通常裁判所と特別裁判所の二種があり、特別裁判所は特定の人に對し、又は特定の土地に於て民事刑事を裁判する官廳である。即ち軍法會議の如きは軍人の犯罪を審判する特別の裁判所であつて、朝鮮・臺灣・關東州等にも特別裁判所がある。通常裁判所は大審院・控訴院・地方裁判所・區裁判所の四階級あるけれども、裁判の方法は三審制度を採つて居る。事件

の輕いのは區裁判所を第一審とし、事件の重大なるは地方裁判所を第一審とする。此の第一審の判決に不服の場合は控訴(第二審)をなし、控訴裁判にも不服な時は更に上告(第三審)をなすことを得る制度である。

區裁判所(第一審)→地方裁判所(控訴)→控訴院(上告)

地方裁判所(第一審)→控訴院(控訴)→大審院(上告)

行政機關は法律の適用處分をなし、又は法規を定むることがある。

(イ)中央行政　行政には中央行政と地方行政との別がある。中央行政の首腦は各省であつて、其の上に內閣があつて之を統一して居る。內閣は國務大臣を以つて組織し、內閣總理大臣は內閣の首班として機務を奏宣し、又旨を承けて行政各部の統一を保持するのが重なる責務である。而して各省大臣は其の主任の事務につき、法律勅令の制定、改正、廢止の案を具して閣議に附し、省令を發して府縣知事警視總監(北海道廳長官も同樣)を監督し、其の主任の事務についてはそれ〴〵責に任じて居る。

(ロ)地方行政　地方行政には官治行政と自治行政とある。官治行政とは國家直接の行政にして、自治行政は自治體と稱する公法人の行ふものである。卽ち府縣は官治行政の最高區劃にして、其の下に郡がある。府縣には知事あり一般の行政につきは內務大臣の指揮監督を承け、各省の主務につきては各省大臣の指揮監督を承けて、所管地方の行政事務を擔當して居る。府縣の事務は又內務部警察部の二部に分ちて事務を分掌して居る。又郡は勿論のこと、市町村長も一面に於ては、官治行政事務を行つて居るのである。北海道には北海道廳長官ありて、六部に分かれて事務を分掌し、管內は區支廳に分れて居る。

次ぎに地方自治行政組織は府縣、郡、町村の三級制を原則とし、其の中町村が最下自治機關にして、地方行政の基礎になつて居る。其の議決機關は町村會にして、町村長が議長となり、必要に應じて町村長之れを召集して、町村の歲入歲出を決議する。町村の執行機關は町村長にして、町村の事務を統轄し、其の行政事務を擔當し、又法規に從つて國の行政、府縣の行政等、官治行政事務をも擔任して居る。又市は最下の自治機關たるとは町村と同一なれど、府縣に直屬して、郡の區域外に獨立して居り、町村會、町村長に當る市會、市長ある外、會議制の執行機關たる市參事會のあるのが、町村と異なる點である。郡は府縣の下にありて、第二級の自治團體である。郡の議決機關は郡會及び郡參事會である。郡參事會は小郡會の如きもので、郡會

提出の議案の審査及び郡會の委任事項等を決定する權を與へられて居る。而して郡長は本來は官治行政上の機關であるけれども、又同時に郡なる自治團體の執行機關にして、郡費の支出、議案提出、財産管理等の事務を行つて居る。次に府縣制度は概ね郡の組織と同樣であつて、議決機關は府縣會、府縣參事會、執行機關は知事である。

次に新領土の政治を述べんに、臺灣には臺灣總督ありて、陸海軍大將(又は中將)之に任じて文武の大權を握り、文官としては立法の大權を委任され、司法機關を監督し、百般の行政を指揮し、民政長官、陸軍部、海軍幕僚悉く之に附屬して居る。武官としては臺灣に於ける陸海軍を統率して、防備の任に當つて居る。臺灣の地方行政は十二廳に分ち、廳長をおいて之を治めて居る。朝鮮も亦同じく朝鮮總督ありて文武の兩權を有し、總督府は總務部、內務部、度支部、農工商部、司法部の五部ありて、庶政を分擔してゐる。又諮詢に應ふる中樞院もある。地方は十三道に分ち道長ありて之を治めて居る。

第二節　國勢の對照

一國の地理を敎へるに當ては、其の國勢を大觀し、先づ强國の要素を備へて居る國なるか、又弱國なるか、さては中位の國柄なるかを見定めるのが頗る大切なることである。個々の事實の記憶に止まらず、此の國の國勢は如何なるやを考へて、自國の國勢と對照したならば、國民奮起の種子となることが尠くあるまい。

抑も國勢とは其の國の內容をいふのである。卽ち國の富力や、國土の面積、政治組織、文化の程度、人口、住民の氣質を總合したものゝ總稱である。此等の內容を充實せる國は、國勢の張れる國であつて、强國といふべきものである。又此等多くの要件を缺ける國は弱國と言はねばならぬ。世界中、眞の强國と言ふべきものは、誠に尠ない。中等敎育の地理書には八大强國を數へてあるけれども、其の中で眞に强國と言ひ得べきものは僅か二三國に過ぎない。卽ち國土が廣く人口が多くとも、文化の度進まず、兵備に缺ぐることあらば、未だ一等國たるの資格ないものである。又國土廣く財力に富むも、住民に氣力なく、國家的精神に乏しいならば、遺憾ながら、未だ以て列國と肩を並べることが出來ない。其の甚だしきに至つては頗る尨大でありながら他國の勢力支配下にある國さへもあるのである。今世界各國の國勢を見ると、

各國の國勢

壯年國
老年國

の二種に分つことが出來る。壯年國とは國勢の張れる國で、老年國は既に下り坂になつた國を言ふのである。英吉利露西亞亞米利加合衆國等は壯年國と言ふべきもので、國勢隆々たるものがある。此等の國と我が日本を比較して見るのに、內容充實の點に於いて及ばざるもの尠くない。中にも財力に乏しいのは我が國の大弱點たるを免かれぬ。吾人の大いに努力せざるべからざるは實に此の點である。要するに何れの國に於ても、國勢を大觀して、其の壯年國なるか、老年國なるかを見定めるのは、大體を總括する點に於て甚だ重要なることであると思ふ。

第三節　殖民思想の養成

殖民思想養成の必要　我が帝國の國勢を歷史上より觀察する時は、國土の擴張といひ、人口の增加、文化の由來といひ、凡べて頗る發展的、向上的である。卽ち國土の面積を見る時は、崇神以後に於いて一萬四千方里あつたものが、奈良朝の末には一萬六千方里、平安朝の始めには一萬八千五百方里、室町時代の末には二萬方里となり、今日は實に四萬三千方里となつた。此の如く日本は實に過去に於て發展の歷史を有し、又發展すべき未來を有する國柄である。吾等は此の氣運を決して消沈せしめてはならぬ所の、大なる責任を祖先より負はされて居るのである。

さて人口の增加に至つては國土の擴張に比して更に大である。前にも述べし如く、推古天皇の頃に五百萬人であつたものが、聖武天皇の時には八百六十餘萬人室町時代の末には二千七百萬人となり、明治の初めには三千三百萬人であつたが今日は實に六千九百萬の多數を數ふるに至り、每年六十萬餘人(朝鮮を除く)の增加數を示して居る。實に驚くべき增殖であつて、增加率の大なることは世界を通じて第四位に居るのである。此に於てか、經濟上の困難となり、生存競爭は日に益々激しくなつて來る。此の際吾人の採るべき急務方針は、內にありては殖產工業を奬勵すると共に、外に向つては海外發展の策を講ずるにあると思ふ。海外への出稼ぎ可なり、移住可なり、世界には天與の遺利多く、開拓すべき土地も亦到る所にあるのである。海外に發展し、四方に財貨を求むるは、是個人として幸福なるのみならず、國家の發展上最も大切なることである。この海外發展の思想養成は、是國民敎育の任にあるものの大いに力を注がねばならぬことと思ふのである。而して地理科は性質上、此の思想を養成するに最も適切な敎科である。今地理科敎授上

最も注意すべき點を擧げると、

1 列國の領土擴張法の說話
2 列國の領土管轄法の說話
3 邦人の活動すべき地方詳說
4 邦人海外出稼狀況

等てある。

(一)列國の領土擴張法。

列國が領土を擴めるのには、一概に兵力のみよるものではない。亞米利加合衆國が「ハワイ」を併合せるが如き形式もあり、或は同國が「アラスカ」を露西亞より購入せる如きあり、或は無人の地を行くが如く、蠻地に侵入して自己の勢力範圍とすること、恰も彼の亞弗利加に於ける列國の領地の如きもある。又印度の如く英人が個人的に活動の決果、漸次勢力を占めて、遂に其の一商會が印度を占領し、後に是を本國領となしたるが如き例もある。而して領土擴張の方法の例を示せば次のやうてある。

1 割讓によるもの(例、日本の南樺太)等
2 戰掠によるもの(例、露西亞の西比利亞)等
3 併合によるもの(例、北米合衆國のハワイ)等
4 發見によるもの(例、英のニュージランド)等
5 國民活動の結果によるもの(例、英の印度)等
6 購入によるもの(例、北米合衆國のアラスカ)等
7 移住によるもの(例、英の加奈陀)等

其の何れの方法によるにせよ、列國が領土を擴めるには自ら二つの潮流がある。英國の如きは地球上の要處に目をつけ、苟も富源ありと認めたる所は勿論のこと、軍事上、商業上、重要な地點と見たる所は、必ず之を手に入れるといふ遣り方てあつて、今や英領地は世界中に分布されて居る。此の如く要處要處を領土とする方法を假りに英國式と名づけると、之に對して露西亞式といふべき形式もある。露西亞の領土擴張法を見ると、本國より漸次に國境を擴めて行く遣り方て、例へば、シベリ、や、中央亞細亞を領土とせるが如きてある。此の如く列國が如何にして領土を擴めるかを知らしめるのは實に趣味ある問題てある。

(二)列國の領土管轄法

領土を支配するには、英吉利が加奈陀「オーストラリー」を治めてゐるが如く、立法院と行政府とを設けて、殆ど自治を許せる如きもあり、又同國の香港の如く皇帝親から其の地の立法を主裁さるゝ直轄殖民地といふものもある。又保護國とは權勢ある國が弱國の統治權を握り居るものである。此くの如く領地を統治するには種々の形式があるが、今日最も廣い領土を有して居るのは英吉利であるから、其の領地經營法を知る時は、他國の領土管轄法は推して知ることが出來る、故に今代表的に英吉利の領土管轄法を述べようと思ふ。

英吉利の領地

(イ)印度帝國（直轄部（領地）、藩部（土人の邦））

(ロ)殖民地（第一直轄殖民地、第二半自治殖民地、第三自治殖民地）

(ハ)保護地

(二)特許支配領地

(ホ)租借地

(イ)印度帝國

印度は英吉利の領地であるけれども、印度帝國と名づけて、英吉利王之が皇帝となり、總督が印度政廳の長官である。國内には藩部と稱する土人の部落あり、印度政廳より派遣せる駐在官補佐の下に、藩王之を支配して居る。藩王は印度政廳に貢税を納め、宣戰講和の權を有せず、其の政治宣しきを得ざる時は、印度政廳は藩王の廢立を行ふことが出來る。

(ロ)殖民地

第一直轄殖民地

一名皇領殖民地（クラウンコロニー）といひ、英王立法の全權を總攬し、行政は本國政府の監督する官吏之を行うて居る。直轄殖民地の制は、白人以外の住民多い土地、又軍事上の根據地に布かれて居る。例へば香港、「セイロン」、「ジブラルタル」、「ニューファウンドランド」など。

第二半自治殖民

代議機關を有するも、責任政府を有して居ないものである。立法機關は英王の

任命したる議員と、選出議員とよりなり、總督は此の立法院の同意を得て、法律を制定するので、英國王は其の殖民地の立法に對しては單に不裁可權を有するに過ぎない。殖民地の官吏は本國政府の指揮監督を受けることは、直轄殖民地と同樣である。半自治殖民地制を布けるは、白人と異人種との混合せる所に布かれてある。例へば「ベルダム」「マルタ」など。

第三自治殖民地。

代議機關及び責任政府を有する自治殖民地である。英國王は立法に對しては半自治殖民地と同じく、單に不裁可權を行ふに過ぎない。本國政府は總督以外の官吏に對しては、指揮監督の權をもたない。官吏は總督が任命するのである例へば加奈陀「ケーブ」殖民地「オーストラリア殖民地」などである。以上三種の殖民地につき、初めは直轄殖民地であつたものが、次に半自治殖民地となり、遂に自治殖民地となるのである。唯だ軍事上の根據地のみは、なほ直轄殖民地としてある。

殖民地行政に關する本國政府に於ける官廳として、印度省・殖民省がある。印度省の長官を印度國務大臣といひ、印度に關する事務を掌り、殖民省の長官を殖民地國務大臣といひ、殖民地の事務を掌つて居る。但し殖民地の外交事務は外務大臣が管して居る。又殖民地よりは代理官を倫敦に駐在せしめて、殖民地の事務につき本國國務大臣に稟議をなし、一方移住者に對して必要な注意を與へて居る。英吉利は其の殖民地をして、獨立經營せしめるのを以て根本方針として居るから、殖民地が收支相償はずして、獨立自營すること能はざる場合と雖も、決して補助金を與へることがない。唯貸與金を交付し、漸次之を償還せしむる制を採つて居る。即ち殖民地は經費に於いて獨立して居るのである。此の如く經費に於いて獨立せるを以て、本國は殖民地より受くる利益少なきが如しと雖も、其の實、利する所が多い。即ち第一に本國人民の移住をなし、資本の投下をなし得るのみならず、本國との貿易關係あり、又官吏其の他本國人民の需用ありて直接間接に受くる利益は莫大なものである。

(八)保護國

弱國が强國の監督を受けて居る時は、之を保護國といふのである。彼の安南には安南王あるけれども、親ら自國を維持する能はず、佛國が其の國政を監理して居るやうなものである。又埃及には副王あり、もと土耳其の保護國であつたけれど、

も、土耳其の國勢振はざるに至るや、英吉利乃ち土耳古に代りて其の保護國たることを宣言した。英國の統監は「カイロ」に駐在して埃及を監理して居る。

(二)特許國支配領地

これは其の名の如く如何にも異樣な領地である。英國は自國の一會社に領地の支配を委任して居る。例へば、英吉利領北部「ボルネオ」の如きものである。又亞弗利加の「ベチュアナランド」「ローデシヤ」も亦南亞弗利加會社に其の支配を委託して居る。

(ホ)租借地

一定の期限を限つて借用して居る土地である。既に他國の土地を借用して居るといふことが變態ではあるが、而も何の代償なしに借用して、その借用期限中は全く自國の領土と同一の支配權を占有する面白き一種の領地である。而して此の租借地が隣邦の支那に限られて存在するのは抑々如何なる由來があるか。支那は日清戰爭以來國勢暴露され、列强の耳目は自然に東亞の地方に集中され、種々の口實の下に支那に侵入するに至つた。今や支那要路の地は多く租借地として列强に支配され、其の他鐵道敷設權、鑛山採掘權等、支那の利權は多く歐米人の手に歸するに至つた。東洋平和の維持を以て任ずる我が帝國々民たるもの、此の現狀を知らば決して安閑たるを許さない。是に於てか、支那の國情を明かにするは教育者の努むべき任務である。彼等列强が自國の租借地を得るに至つた由來を見れば、如何にも横暴の感がする。今列國の勢力が支那に侵入するに至つた端緒を考へて見ると、彼の露佛獨は日清戰爭の時に當り、三國干涉の報酬として、支那より種々の利權を得るに至つた。先づ露西亞は明治二十九年締結の「カシニー」條約によつて、次の如き權利を得たのである。

1 東清鐵道の敷設權。

2 露國は支那に代りて山海關より奉天を經て、吉林に至るの鐵道を敷設すること を得ること。

3 支那の計劃せる奉天及び山海關より旅順口・大連灣に至るの鐵路は露國式なること。

4 支那は旅順・大連を決して他に割讓せず、有事の日には、露國の陸海軍を兩港に集合することを許すこと。

5 露國は東亞に不凍港を有せざる以て、支那は十五年間膠州灣を貸與すること。

此の條約を見る時は露西亞の目的が其の奈邊に存するかを知ることが出來よう。

時に佛國も亦支那と條約を結んだのである。卽ち

1 雲南の思茅を開き陸路關稅の稅率を輕減すること。

2 雲南廣東廣西の採鑛の優先權を與ふること。

2 安南鐵道を支那領內に延長すること。

4 湄公河東江洪の一部を割讓すること。

此の如くして列强の勢力は愈々支那に侵入し來たのであるが、次いで獨逸が膠州灣を占領するに至つて始めて租借地を生ずるに至つたのである。

(イ)獨逸の租借地

獨逸は初め天津其の他の開港場に於て專管居留地を得た許りであつたが、明治三十年獨逸の宣敎師二人、山東省の鉅野縣に於て支那人の手に殺された。獨逸乃ち突然三隻の軍艦を派して、膠州府城を占領し、明治三十一年一月遂に支那に迫りて、九十九年間膠州灣の租借權を得た。これ卽ち租借地の出來た第一着である。

條約

(1)期限＝明治三十一年より九十九年間。

(2)租借區域＝灣內、靑島半島の南部、灣口內外の島嶼。

(3)山東省の鐵路敷設權及び鑛山採掘權。

(4)又該灣より內地へ十二里許の地域を警備區として、支那政府は該地區の主權施行の權を擧げて獨逸帝國に委す。

(ロ)露西亞の租借地

露西亞は獨逸が膠州灣租借の權を得たのを見て、支那に嚴談を始め、明治三十一年三月乃ち「ハバロフ」條約を結んで旅順、大連を租借したのである。

條約

(1)期限＝旅順口、大連附近一帶の地を明治三十一年より二十五年間租借すること。

(2)租借區域＝貔子窩と普蘭店との連結線以南の地、

(3)東淸鐵道と大連とを連絡する鐵路、並に此の新線と牛莊との連絡線敷設の權を露國に讓與すること。

右租借地は三十二年に關東州と名づけて、之を一省とした。

(八)英吉利の租借地

日本政府は支那よりの償金支拂延期を拒みしを以て、支那は英國に於て一億六千萬圓の外債を募つた。此に於て英國は揚子江畔の地を他に讓與せざることと及び支那內地の河川開放の利權を得たのであるが、今や露西亞が關東州を租借せるを見て、之を快とせず、明治三十一年七月英國も亦支那と條約を結んで威海衞の租借權を得た。

條約

(1)期限＝明治三十一年より二十五年間。

(2)區域＝劉公島及び威海衞灣內の各島嶼並に灣岸に沿ひて內地へ十哩に達する地帶。

(3)東經百二十度四十分以東の海岸に於て、自由に砲臺兵營を築造するの權を得た。

次に九龍は香港の對岸にあつて、香港讓與後更に英國に讓與した所である。然るに佛國が廣州灣を租借するや、英國は更に支那に迫り、明治三十一年六月九龍半島全部の租借權を得た。其の地域は九龍半島全部と香港附近の大小四十餘の島嶼、其の水面及び大鵬、深州の二灣を含む廣大な地域である。

(二)佛蘭西の租借地

佛國たるもの此の狀況を見て、豈に袖手傍觀して居ようか。明治三十一年四月支那と條約を結んで廣州灣の租借權を獲得したのである。

條約

(1)期限＝明治三十一年より九十九年間。

(2)租借區域＝東海島及び硇州島の全部。

陸上は灣岸に沿へる地帶。

(3)東京境上より雲南に至る鐵路敷設の權、

(4)廣東、廣西、雲南並に海南島を外國に讓與せぬこと。

而して日本は明治三十一年四月福建省不割讓の約を結び、又三十九年より露國に代りて、殘餘期限內、關東州の租借をなすこととなつた。

右の外、英國は香港を、葡萄牙は澳門を領して居る。隣邦支那の領土、今日此の如く他國に侵され、四方より壓せられて居る。同國の將來頗る危險多く恰も累卵の

やうなものてある。吾等は一日と雖も無意味に此の狀況を看過してはならぬ。

(三)邦人活動すべき地方の詳說。

世界の地圖を繙けば我が帝國は西は亞細亞大陸に連り、南には「オーストラリヤ」を控へ、東は大平洋に臨んて遠く南北亞米利加に對し、邦人の活動すべき地は廣大無邊といふべきてある。過去、現在に於て、此等の地方は邦人の活動舞臺となり、殊に支那と北米とは日本の二大顧客と言はれて居るが、將來は南洋方面と南米とに向つて、今一段の發展を要するのてある。南洋と南米とに對する發展策としては、國民に此の地方に關する豐富な知識を與へることを急務とするのてある。之等の地方は現在に於ても既に邦人の活動せる所てあるけれども、尙益々多くの出稼人や移住民を見るには此の地方の地理を詳にすることが殖民奬勵の根本てある。外國地理教授に當つて、亞弗利加、西部亞細亞及び歐羅巴の中等國以下の教授時數を少くして、此の二地方に比較的多くの時數を配當し、相應に詳說するの必要がある。而して殊に左の諸點に注意して教授すべきてある。

(イ)氣候

(ロ)產物

(ハ)其の地方人士の日本人に對する感情

(ニ)日本よりの交通

例　馬來群島

馬來群島を教へるに當つて、如何なる點に力を注ぐべきかと言へば、

(イ)氣候

第一に馬來群島が住居に適するや否やを調査して見ると、群島は熱帶中にあるを以て、一見氣候炎熱、住所に適せざるの感あるけれども、しかく不良の地方てない。大陸の內部とは違ひ、洋中に點在する群島てあるから、常に海洋の影響を受けて、暑氣甚だしくない。「ジャバ」の「バタビヤ」に於て、熱きは二十六度餘り、冷きも二十五度位てあつて、年中我が東京の六、九月頃のやうな氣候てある。高等一年用地理卷一、二六頁にも「又熱帶中にあれども海洋の影響大いに暑氣を和らぐ」とあつて、健康に適して居る。尙海洋のみならず、雨量のために氣溫を和らげることも亦尠くない。雨季には午後になると豪雨沛然として至り、暫し盆を覆すが如き有樣てあるが、夕刻になると、一天拭へるが如く澄み渡る。其の爽凉の氣分は迚も他所ては味ふことが出來ない。

(ロ)産物

咖啡・砂糖は世界の二大産物といはれ、香料多く、石油・錫の産に富み、護謨・紫檀・黒檀等の物産は人目を驚かすに足るものがある。地は健康に適し、盡きせぬ源を有してゐる。

(ハ)土人の邦人に對する感情

日露戰爭後、土人は非常に日本贔負となり、好んで日章旗を立て、以て歡迎の意を現すに至つたが、和蘭官憲は餘り日本人の渡航を喜ばぬ風であつた。併し今は一般に好感情を持つて居る。

(二)日本との交通。

東洋汽船會社の濠洲航路により横濱を發して、神戸・門司・長崎・香港を經て「マニラ」木曜島に至るものがある。又歐洲航路・印度「ボンベイ」航路によりて「シンカポール」より便船を求めて、「スマトラ」「ジャバ」地方に行くことも出來る。現今我が國と「ジャバ」の間に直通せるは瓜哇・支那・日本汽船會社の航路であつて、「ジャバ」の首府「バタビヤ」を發し、支那沿海諸港及び門司・神戸を經て横濱を終點とし、四週に一回定期航海してゐる。

(四)本邦人の移住狀況

吾人が鄕土を離れて、他に移轉するに方法二樣ある。家族を率ゐて新開地に至り、其の地を永住の地となすはこれ移住と言ふべきものである。又他日歸鄕の目的を以て一時的に金儲に出掛けるのは出稼ぎと言ふべきである。其の何れの方法によるにせよ、邦人が新領土に向つて如何に活動しつゝあるか、又海外に向つての發展狀況を說くのは其の地方の地理敎授に當つての一任務である。

(イ)北海道

北海道は先には屯田兵の制を設けて開拓を奬勵し、爾來開拓の事業着々其の歩を進め、同胞の移住するもの、年々其の數を增加し來りて、今日に至つたのである。けれども、未墾の地未だ俄かに盡きない。移住には勿論相當の準備金を要するが、試みに擧げて見ると、

家具代　十四圓許り
農具代　二十三圓許り
小屋掛代　三十二圓許り
食料(家族四人)移住後一ヶ年間の食料費)百圓許り

卽ち旅費の外にこゝに計上した百七十圓内外あればよい。勿論翌年度よりは道具賃も要せず、食料も自己の開墾地より得るものが多くなるから諸費大いに減ずる譯である。殊に移住者に對する大特點とすべきは土地の下渡である。此の土地下渡に二樣あるが、其の特定地といふ方は一戸に對し五町歩より十町歩迄を無償にて貸付け、五ヶ年以内に其の開墾を終れば、無代價にて與へるものである。又賣拂地といふは何人も賣渡を出願することを得るものであつて、競賣法によることもあるが、通例は左の代價によるのである。

一畑又は水田となす土地は一町歩　四圓五拾錢迄
二牧畜に供する土地は一町歩　三圓迄
三植樹をなす土地は一町歩　一圓五拾錢迄

土地は自己の活動によつて無代價にて其の所有地となり、又此のやうに安價で手に入れ得るのである。尙此の外種々の特典が與へられて居る。

(ロ)樺太

移住に要する準備金は北海道のと大差はないが、今家族四人として計算すると、

一家具及び農具　三十圓
二小屋掛　三十圓
三食費　百二十圓
四雜費　二十圓

右の如く旅費の外に約二百圓を要するものであるが、相當の住宅を造るものには、三十圓以内及び農具買入に十圓内外の補助金が下る。移住後の特典としては、

一一戸につき五町歩乃至七町五段歩を無償貸付し、五ヶ年以内に貸付地の十分の七以上開墾すれば其の全部を無償にて附與さる。

二牛馬の家畜を貸付し、五ヶ年以内に其の仔畜一頭を納むれば、母畜は借受人の所有に歸す。

三移住の初年には、一町五段歩に播種すべき麥類、馬鈴薯の種子を給與さる。

四島外より家畜を購入したる時は、補助金を下附さる。

右の外、種々の特典がある。卽ち移住者汽船賃の如きは五割減である。

(ハ)朝鮮

朝鮮に於ける內地人の移住は年々盛況となり明治四十年には十萬人餘の移住者を見たことがある。四十五年一月調には內地人の移住總數二十一萬人の多

きを數ふるに至つた。朝鮮拓殖事業に關しては、會社又は個人として、幾多の經營者あるけれども、政府は明治四十一年東洋拓殖株式會社を設立し、拓殖の事に當らしめて居る。今移住に關する同會社の待遇法を記すと、

一會社は其の所有の土地を移民に貸付し、既墾地の面積は土地の狀況により之を定む。

二會社は移民を分ちて甲乙の二種とす。

甲種移民は貸付地所有權の讓渡を受くるもので、契約當時の價格に年六分の利息を附し二十五年以内の年賦償還法により、支拂を完了する規定で、其の間は貸付地の地稅を負擔することを要するのである。

乙種移民は貸付地の小作をなすものをいひ、會社所定の小作料を納付することを要するのである。

而して團體移民に對しては會社は移住費を貸付することもある。

第六章　産業の取扱法

今日の人間は經濟といふことを離れては一日も活動することが出來なくなつた。故に教育の目的・方法等も經濟的見地より立論さるゝに至つた。此に於てか教育上經濟に關する知識を與へ、經濟的趣味を涵養することは、何よりも大切な事である。而して經濟思想の發達は勤勞的習慣を形成し、此に富國の基礎を確立することになる。而して、經濟とは一言で云へば、物の增殖を圖ることであつて、其の形式と見るべきが卽ち産業である。産業は之を行ふ仕事の相違によつて、農業・牧畜・水産業・林業・鑛山業・工業・商業等に分かれる。吾人が地理の各要項中に於て最も力を入れて教授すべきは此の産業の取扱であると思ふ。

今産業の取扱に際して注意すべき點が四つある。

第一　地勢・氣候と産業との關係を明かにすること

地勢や氣候が産業に大關係を有するは明かなことであるから、第一に注意すべきは勿論自然との關係をつけることである。

第二　産業に關する知識を豐富にすること

人は食はずして味を知らぬものあると同樣に、知らずして趣味を解せぬことが多い。産業の如きも之に關する知識が豐富になれば、自然に趣味が起つて來るに違ない。其の上日常生活上にも利する所が多い。故に吾人は十分に産業に

關する研究をなし、以て教授に當ることが肝要である。

第三　全體より産物を觀察すること

日本全國より見て如何なる地位を占めて居るか。又世界全體より見て如何なる地位に居るかを調べ、大體より見たる觀念を作ることが有効である。例へば葉煙草は茨城縣が日本一の産額を有し、栃木縣が第二位を占めて居ると云ふが如きである。

第四　生産の方法に注意すること

産物取扱に當つては、此の生産法に注意することが大切である。農牧の方法、水産の方法、進んでは工藝品の製造法等に言及するのは確かに趣味喚起の一法たるに相違ない。勿論此の生産法は獨り地理科のみならず、他教科でも注意を要することであるが、地理科に於ては、各産業に向つて一般に此の考が肝要である。國定教科書も此の點には大に注意して居る樣である。尋常科用卷一・卷二に於て九十個の挿繪があるが、其の内産業に關するものは、

一九十九里濱の鰯漁　二岐阜縣の鵜狩
三小笠原諸島の「バナナ」　四新潟縣の石油坑
五小坂鑛山　六三重縣の眞珠採取
七能代川口の着材と冬季の運材　八宇治の茶摘
九木曾川上流の森林　一〇和歌山縣の蜜柑畑
一一山梨縣の葡萄畑　一二廣島縣北部の牧場
一三諏訪湖畔の製糸場　一四德島縣の藍の製造
一五坂出の鹽田　一六北海道の林檎畑
一七別子銅山附屬製煉所　一八北海道の鮭の漁業
一九高知縣の鰹節の製造　二〇樺太土人と鱒の漁業
二一八幡の製鐵所　二二朝鮮人の人參畑
二三有田の陶器工場　二四滿洲の高粱畑
二五三池炭坑　二六「オーストラリヤ」の牧場
二七臺灣の水牛の使用　二八伯剌西爾の「ゴム」の採取

など、全體の三分の一を占めて居る。而も此の三十に近き産業の挿繪は、多く産業の方法に關するものであるのを見れば、國定教科書が如何に生産の方法教授を重要視して居るかを知ることが出來る。故に産物の挿繪を取扱ふに當つて

當に注意せねばならぬ點は是てある。例へば宇治の茶摘の插繪を説明するにしても、唯女子が面白さうに茶を摘んて居ると云ふに止めず、茶樹栽培の一端より、進んては製造の要點に及ぶべきてある。其の外右に擧げた各插繪を取扱ふに當つて、皆此の注意が大切てある。

以上産業取扱上の要項として述べた自然と産業との關係、産業に關する知識を豐富にすること、全體より産物を觀察すること及び生産の方法に注意すること等に就いては、以下各産業の條に於て更に詳説しようと思ふ。

第一節　農業の取扱

平地が山地に比して、農業に適するのは明かなことてあるが、今土地の價値を判定するに當つて注意すべき點は、

(1)土地の負擔力
(2)土地の栽培力
(3)土地の養殖力

てある。負擔力は山地と平地とに於て、何れが大なるかと言へば、勿論平地が大てあつて、土地が傾斜する程負擔する面積が狹くなる。次に栽培力に就いて考ふるも、山地は岩石露出して、礫岩多く、爲に栽培に適してゐない。同時に平地は僅少な勞力て耕作し得るけれども、山地は勞力を要することが大てある。又養殖力に於ては、山地よりも、平地が腐敗物多く、土壤分解し易く、大陽熱雨等を受けることも大てあるから、植物が能く生育するのてある。此に於てか、平地が價値大てあつて、農業に適して居るといふことになる。而して教授上第一に起つて來る問題は農業と地勢との關係を明かにすべきことてある。

(一)農業と地勢との關係

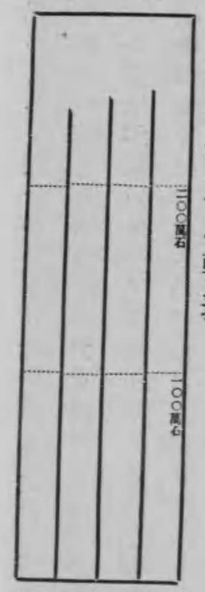
兩者の關係を明かにするには、地勢を説明する場合に、其の地方の産物を考察せしめるか、又産業取扱に臨んだ時、地勢を復演して二者の關係を結びつけるか、何れかの方法によらねばならぬことは、既に地勢の章下に於て述べた通りてある。

(二)全體より觀察すべし

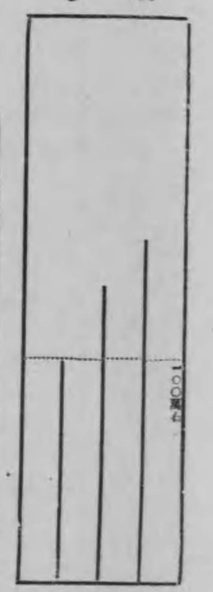
我が國は古來農業國といはれ、今日と雖も、農産額が各種産業中の首位を占めて居る。明治四十年に於ける我が國の全生産高は凡そ三十億圓と計算されて居るが、其の内農産物の總高が十四億といふ巨額に及んて居る。地方としては長野・愛知・新潟・福岡・埼玉・兵庫等が農産の最も多い縣てあつて、米・麥・大豆・養蠶・茶・煙草・菜種・麻

甘藷等が重要農産物である。此の重なる農産地と重要農産とを知らしめることが、農業教授上注意すべき要點である。然して之を取扱ふに當つては、常に全國より打算して、何縣が首位を占めてゐるかといふ大體の觀念を作ることが大切なのである。唯到る所で産物の名を列擧するに止めず、常に全體の内如何なる地位を占めて居るかに注意すべきである。米であつたら、新潟縣教授の場合に、本縣が全國中の第一位を占め居り、麥ならば、日本では茨城縣が首位を占め、世界中であつたら、北亞米利加合衆國が第一位を占めて居るといふ風に、其の地方教授の場合に此の如き注意が必要なのである。故に教師は統計上の知識を豐富にしておかなければならぬ。統計も此の意味に於て必要であるが、一々其の産額高を暗記せしめる必要はない。たゞ圖表によつて、其の多寡を比較せしめるがよい。左に圖表の二三を掲げて參考に供さう。

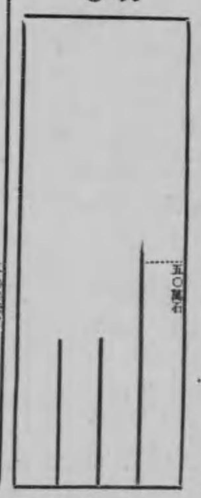
重要農産比較表



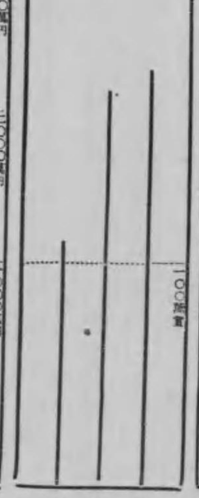
新潟縣（二、四三七、一一三石）
福岡縣（二、四〇八、六七五石）
兵庫縣（二、二八六、九五四石）
全　國（五〇、二五五、二六七石）



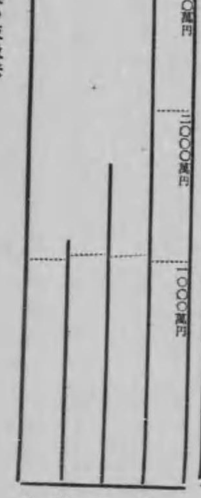
茨城縣（一、六六〇、八四八石）
埼玉縣（一、四四二、七八五石）
兵庫縣（一、〇八八、四七五石）
全　國（二五、〇五〇、四五四石）



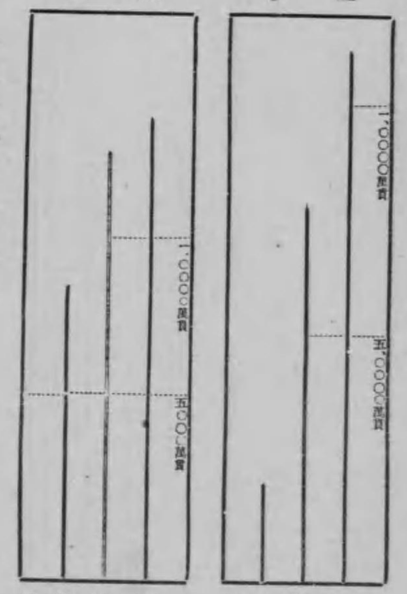
北海道（五六〇、三五〇石）
茨城縣（二四二、二〇九石）
埼玉縣（二二一、八七三石）
全　國（三、五一一、四六四石）



茨城縣（一、八八九、〇五一貫）
栃木縣（一、八二四、八八九貫）
鹿兒島縣（一、二九四、九三八貫）
全　國（一一、六二三、五二八貫）



長野縣（三〇、一三三、五五三圓）
愛知縣（一五、二二一、四六七圓）
群馬縣（一一、九八〇、七二五圓）
全　國（一八七、八六四、五五二圓）



第二節　牧畜の取扱

我が國は地形狹隘にして放牧に適せざると、肉食多からざるとにより、牧畜は諒外國に對して甚だ遜色がある。然るに世界の大勢を見ると、馬匹の改良は兵力充實上、國家の重大問題となつて來た。我が國も此に見る所あり、日清戰役以來、着々馬匹の改良に着手し來り、日露の大役を經て、馬政局の設置を見、年々歐洲より種馬を輸入して、十八年間に千五百頭に增加せんとの計劃を立てた。

(一)全體より觀察すべし。

我が國の馬の產地に三大地方あるを知る。

馬の產地
- 北海道地方
- 九州の南部地方
- 奧羽の太平洋岸地方

統計によると、第一が北海道であつて、第二が鹿兒島縣、第三が熊本縣、第四が岩手縣である。北海道は荒漠たる原野に富み、中にも日高・十勝には種馬牧畜があつて、今は日本一の牧畜場となつてゐる。鹿兒島縣は霧島山麓に牧場を有してゐる。而して奧羽地方は福島・宮城・岩手・青森の四縣に行はれ、中にも北上原野が中心となつて居る。教科書には、盛岡の馬市を插繪として居る。次に外國では露西亞が第一位で、米合衆國が第二位である。牛は中國地方が最も盛である。中に廣島縣が一位を占めて居るが、あの插繪の如きは中國地方を代表して居るものと見る可く、廣島縣のみならず中國到る所より產出することに注意すべきである。然して中國地方に牛の牧畜の盛になつたのは、地形の然らしむる所と、附近に肉の需用多き神戸・大阪等の大都會地を控へてゐたからである。

(二)牧畜の方法

例一　廣島縣北部の牛の牧場

牧畜は牧場の周圍に木柵か土壘を設け、其の内に牛馬を放つのが普通である。尋常五年用卷一、六一頁の插繪、廣島縣北部の牛の牧場を見ると、圖の中央に木柵のあるのが牛の放牧場であつて、右方の建物は牛小屋及び農具舍で、左方に見える小屋には飼糧を貯へるのである。又右方にある井戸から水を汲みあげ、管にて諸方に水を送くる仕掛になつて居る。要するに、牧場は牛馬の放牧場の外に建物、井戸などが設備されて居る。

例二　彼の高等一年用卷一、四六頁　洪牙利平原の牧場

この牧場にも同樣の設備がある。圖の左先方には牛馬を入れる低い厩がある。又中央の所々に桔槔がある。馬上の人は番人で、犬を伴つてゐる。牛は角の長いのを特色として居る。

例三　尋常六年用卷二、五二頁、「オーストラリヤ」の牧場

木柵の内に群をなせるは綿羊である。左下方にあるのは、羊に水を供する水槽で、右方先方に見えるのは羊飼の棲家である。綿羊は性從順であるから、一人の飼養者と一匹の犬で優に數百頭を支配することが出來る。毎年一回位宛毛を刈り取り、肉は食用に供して居る。濠洲は熱帶地方であるから、牧草能く繁茂し、野飼をするのに都合がよい。英人移住するや直ちに此の點に着眼し僅か數十年の内に世界優秀の羊毛産地としたのである。

例四　米合衆國の牧畜

北米合衆國は地勢自ら三大區分されて、西太平洋高原と、中央大平原東大西洋高地とに分かれて居る。而して此の廣漠たる中央大平原は一面の大牧場となつてゐる。即ち木柵等の設備なく、廣い原野を牧場とし、自分の姓名を燒印せる牛を思ひ〳〵に放つておく。故に牛は牧舍のある所から二三十哩は愚か、百哩も二百哩も遠方で牧草を食んで居ることが珍しくないし、一人の牧業者で二萬匹を飼養して居るのも尠くない。年に二回の大召集を行うて之を整理し、自分の燒印ある親牛の伴つて來る子牛をば自分の所有と認めて、更に之に燒印し、入用の頭數を連れ歸り、他をば又放ちやるのである。以て其の仕掛の大なるを知ることが出來る。

第三節　鑛産の取扱

一　鑛産と工業との關係

鑛産物の多寡は其の國の工業に大關係を有し、延いては國家の消長に影響する

といふ程である。工業の原動力となるべき鑛物、例へば石炭の如きものを産出すれば、其の附近に工業地を作り、又原料品たるべき鑛物、例へば鐵の如きものを産出する所があれば、其の附近に工業が起る。殊に原動力、原料品となるべき鑛物が相伴うて産出する所があると、其の地方は工業物與の二要素を兼備へてゐるからいきほひ工業の隆盛を來たすべきは明かである。英吉利の八大炭田地方は、同時に鐵を産出するので、工業發展の自然的要素を備へて居る。我が福岡縣の八幡に製鐵業行はるゝは、附近に石炭の産出が多いからである。尙鑛産と工業との關係は次の章に詳述しよう。

二　採鑛の方法

例一　石油採鑛と其の精製法

尋常五年用地理卷一、四一頁に、新潟縣の石油坑の插繪がある。今石油採鑛の狀況と、石油精製の方法とを參考のために述べておかう。坑井を掘るには、人工掘法と機械掘法とがある。大形機械掘法(此の插繪)は、高さ十間、底部四、五間の木製櫓を建設し、櫓の頂上に二個の滑車を着け、其の一個には徑五、六寸の索鋼を懸垂し、其の先きには掘鑿錐を繫ぎ、他端は櫓下の絡車に捲き付け、蒸氣機關の力によりて此の絡車を回轉すれば掘鑿器が上下して、坑中を次第に掘り下げ、遂に油層に達して止む。而して櫓の他の滑車には、先端に泥取り釣瓶を繫げる一條の細鋼を懸垂して、時々坑中の泥土を汲み上げるのである。掘鑿進まば、内徑四寸位の鐵管を坑中に挿入して土砂の崩壞を防ぐ。掘鑿遂に含油層に達する時、含量大なれば石油は自ら地表に湧き出づるも、通例は鐵管内に瀦滯して居る。此の場合には下端に喞筒裝置を有せる徑二寸位の鐵管を坑底に下して、坑口に石油を汲み上げるのである。今日新潟縣油井の深さは千五百尺以上に達して居る。油井より採取せる儘の油を原油と云ひ、黑褐色を呈し、諸系派の炭化水素樹脂樣物體、硫黃の有機化合物を含んで居る。此の原油を蒸溜釜中に入れて熱するのであるが、始めは徐々に加熱して揮發油分を除去し、段々火熱を高めて、燈油分を蒸發せしむ。蒸發釜中より出たる此の油氣は冷水中に於ける長さ數百尺の鐵管を通過せしめて、之を液化させる樣に裝置してある。而して次ぎには、燈油用溜出分の精洗をなし、前記の夾雜物を除去するのである。今日は硫酸精洗法が一般に行はれて居る。先づ漏斗形をなせる「タンク」に所要の硫酸と溜出燈油とを入れてよく攪拌するのである。然る時は硫酸は夾雜物を取る。其の汚硫酸を器底より流出せしめ、更に水を加へて攪拌

靜澄して、硫酸の殘部を去り、次に苛性曹達と水で別々に同樣の操作をなすのてある。現今攪拌法としては、多く壓迫空氣を吹き込んて居る。此の如き方法にて燈油を精煉し上ぐるのてある。燈油は無色透明なるを上等とし、普通稍々黃色を帶びて居るものが多い。

例二　金銀銅鐵の採鑛

此等の金屬を採掘するには、地形や鑛脈の狀況等によつて、掘穴の形は一定して居ない。例へば院內金山の如きは橫穴の形式てあるが、佐渡の金山は竪穴と橫穴との混淆式てある。今佐渡金山の採鑛の狀況を見ると、中央に大竪穴ありて、其の坑口に屋根を作り、滑車仕掛によりて、運搬臺を坑中に上下するのてある。坑夫も亦此の臺によりて坑內に昇降し、鑛石も之によつて搬び上げられる。今假りに、三番橫穴に至らんには、運搬臺が其處て止まる樣になつて居る。而して橫穴にて採鑛せる鑛石は軌道によつて竪穴の所まて運び、此にて運搬臺に移して、坑口に運び上げるのてある。坑內には大仕掛の排水用ポンプあり、電燈は所々に輝き、役員事務所もありて、地下の活動は目ざましいものてある。

例三　小坂鑛山（尋常五年用地理卷一、二一頁挿繪）

圖中最右方上方に見ゆる煙突のある所は、大熔鑛爐てあつて、日夜盛に活動して居る。中央の大煙突は製錬所て、其の前面に四本の小煙突ある所も各種の製造所てある。此の製錬場は規模宏大世界有數といはれて居る。日々二百名の工夫製錬に從事し、藤田組の所有にかゝる。圖の前面低地にある大なる建物は小坂小學校て、他は從業者の住宅てあつて、山中一都邑をなして居る。

例四　別子銅山附屬製錬所（尋常五年用地理卷二、五頁挿繪）

右製錬所は新居濱より九里半の四阪島にある。圖の右にある煙突は燒鑛所のある所て、中央の煙突は熔鑛所て、其の前面の黑い建物は其の熔鑛爐のある所てある。左方の煙突は皷燒所てある。熔鑛爐は生鑛か又燒鑛窯にて燒成せる燒鑛を入れ、骸炭を加へて鎔解させる。かくて生成せる生皷は之を前床に流出せしめて放冷の後適當の大さに破碎し、更に燒皷窯、錬銅爐に送つて漸次に仕上げるのてある。

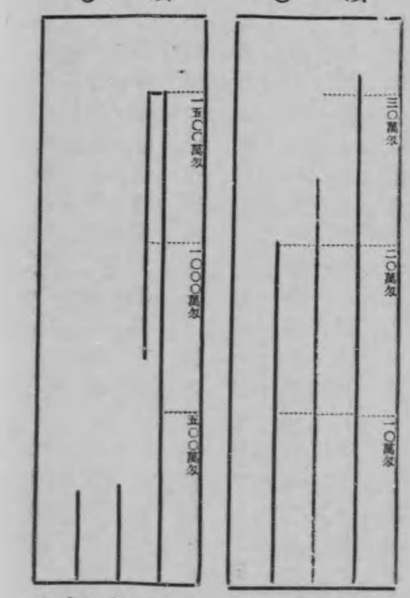
例五　三池炭坑（尋常用卷二、九頁挿繪）

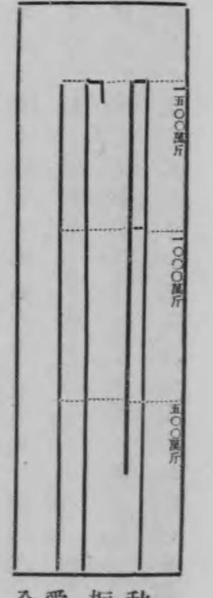
圖中右方に見ゆるは鐵製櫓てあつて、第一竪穴の上に立つてゐる。櫓の上部にある矢研車に綱索を懸け、捲揚機械によりて竪穴內に鐵製「ケージ」を昇降せしめ、以

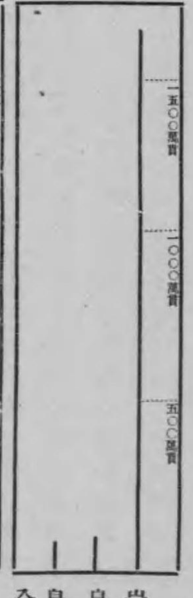
て石炭を捲揚げるのである。其の鐵製櫓の前面の大きな建物が捲揚機械場である。中央の大煙突は諸汽罐の煙を集めて此の大煙突より排出する樣にしてある。其の後方にも鐵製櫓ありて第二杭口の上に建てられ、人馬の昇降、通風排水の用に供せられて居る。又左方の大なる建物は撰炭機室にして、石炭を大・中・小・粉の四種に區別して居る。

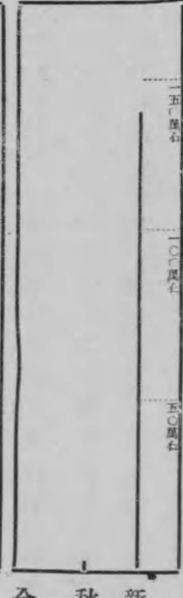
三　全體より觀察して重要鑛物の産地を知らしむべし。

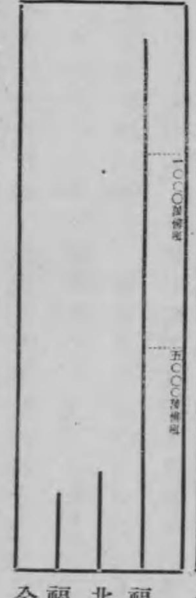
重要鑛産比較表











此の表によると、秋田縣は最も諸種の鑛物に富んでゐることがわかる。

第四節　工業の取扱

今日の如く、人口の增殖劇しく輸出入の均衡とれざる時に當つては、特に工業の發展策を講ぜねばならぬ。吾人は敎育上種々の點に注意して工業的趣味の養成に努力せねばならぬが、中にも地理科敎授に於て、此の注意を必要とする。工業の隆盛を期するには其の根元なる原動力と、原料品の供給を必要とするのである。

一原動力と原料品とに注意すべし。

此の原動力と原料品とを併せ有する國家は、實に多幸なる國であつて、工業は自然に隆盛に赴くに違ひない。彼の英吉利、獨逸、亞米利加合衆國が世界の工業國たる原因は全く此にある。英吉利は石炭の產額世界第二位に居り、鐵は世界第三位に居る。而も此等石炭と鐵とは、多くは國內同一地方より產出するのであるから工業發展上如何ばかり便益であるか分らない。尙各地の領地よりは綿、羊毛の輸入豐富にして、諸種の工業發展の要素を有してゐる。獨逸も同じく原動力原料品に富み、石炭は其の產額世界第三位にして、鐵は第二位に居る。又亞米利加合衆國の如きは、鐵、石炭の產額何れも世界第一位を占め、綿の產額亦世界に冠たりといふ狀態で工業發展の要素が悉く備はつて居るのである。さて我が國の狀況をみるに、原動力としては石炭と水力がある。石炭は福岡縣、北海道其の他に於て大なる產額を有し、殊に滿洲に於て、豐富なる撫順、煙臺の炭山を得たのは、國家として頗る幸福である。尙一面に於て、我が國は地勢上急流多く、水力利用の便宜を有して居るのである。彼の瑞西の如きは原動力は水のみであるが、工業が頗る進步して居るのである。實に石炭と水力とは原動力中の重なるものであつて、我が國が此の二つとも併有して居るのは、眞に力强い次第である。故に我等は地勢や石炭の敎授に當つて、此の特點を知らしめなば興味油然として生じ、生氣ある取扱となる。而して吾人が日常生活に於て、最も有用なものは、鐵器と綿布とであるが、我が國が其の原料たる綿と鐵の產額に乏しい。これ我が國工業界の一大缺點である。即ち綿は多く印度、支那、北米合衆國等より仰ぎ、鐵は支那又は合衆國より輸入してゐる。大正二年末に於ける綿の輸入高は實に二億三千三百萬圓餘であつて、鐵の輸入高は五千六百萬圓餘の巨額に上り、我が國輸入品中の第一位と第二位を占めてゐるのである。故に岩手縣か福岡縣等を敎へる場合に、此の實情を明らかにし、又大阪府、愛知縣の綿絲、綿布敎授の場合に、其の原料に言及して反省の資料とし、將來

此の缺點を補ふの道を講ぜねばならぬ。此の如く、我が國は工業發展の一素因を有し一素因に缺いてゐる。乃ち我が國の工業は如何なる方面に發展せしむべきであるか、之は考究を要する緊要な問題である。

(二)振興すべき工業に着眼すべし。

國産を盛にして、輸出入の均衡を計るは目下の急務たるに違ない。併し國産奬勵といつても、如何なる種類の産業を奬勵すべきか、其の根元を究めてその方法を講じなければ實績を擧げることはむづかしい。即ち今日本邦に於て、廣く需用され居る工藝品中本邦に於ては未だ製産なきか又製産力なくして、之を外國に仰ぎ居るもの、産出を奬勵すべきことが大切であらうと思ふのである。試に最近調査に属する輸入統計を示さう。

○輸入品中、本邦に於て製産なき重なる物品の名稱及び其の輸入額（大正二年十二月末調）

品目	輸入價格摘要
葉鐵	四、六〇三、三〇五圓
イタリアンクロース	一四二、三三九
アニリン染料	四、二一三、一四九
アリザリン染料	二六七、九六三
粗製硝酸曹達	二、九一〇、九二五
人造乾藍	三、二七七、二〇五
寫眞用乾板	二七七、〇四六
縫衣機	八〇九、九一〇
印度紅革	一〇、一六〇

○輸入品中本邦に於て製産少き重なる物品の名稱及び輸入額（大正二年十二月末調）

電鍍鐵板	五、三八一、一五六
鐵條丸竿（綱條竿共）	一三、八四〇、〇七九
鐵板	八、六九二、三九〇
電鍍線	二、四四七、一九三
軌條	四、〇八六、三三三
鋼及鐵製筒及管	六、九三三、八九〇
釘及螺旋釘	一、五六三、二六六
玻璃板	二、七二八、四八六
漆	六六九、八一七
生金巾及シーチング	一、二二一、八三八
晒金巾及シーチング	一、一八四、〇九四
綿繻子及綿イタリアンス	三、四三三、六三五
羅紗及セルヂス	一〇、四七九、四七六

油布及ソノリユーム	二二四、四七二
毛製及綿毛製天鵞絨	三三一、四一四
靴ゴム布及ゴム紐	九八、二四六
製本用綿布	二六四、二一四
コンデンスドミルク	一、八五七、一四三
葡萄酒	四九三、〇三九
ウイスキー	一三三、五五九
粗製硝酸苛性曹達	一、三一四、七九六
曹達灰	一、四五〇、二一六
格魯兒酸剝篤亞斯	一、〇五二、〇九七
粗製硫酸安母紐謨	一五、九九二、二八二
船底塗料	一五四、〇三六
ヴアニッシユ	二二二、七一四
セルロイド板竿及管類	二〇〇、六六六
自轉車及び同部分品	三、一七二、九八二
懐中時計及び同部分品	一、一二二、〇〇七
鐵道機關車及び炭車同部品分	二、三八六、七一〇
計量器	九一三、二五四
蒸氣瓦斯●石油及び熱汽機關	一、七八五、五八五
電氣機械	四、二九〇、四一四
靴底革	八〇二、五一四
豆糟	三三、五六四、四七六

この二種の統計によると、

(イ)鐵製品の輸入が多い、こは鐵鑛が發見されない限りは、急に内國製の增額を見ることが出來ない。

(ロ)綿織の輸入も亦多額を占めて居る。前述の如く原料たる綿は外國より多額の輸入を仰いで居るが、之は内地を始め臺灣・朝鮮等に其の栽培を奬勵して、我が不足を補ふの策を講ずる必要がある。

(ハ)染料其の他の藥品に關するものも輸入が多い。藥品製造もその原料を要するは勿論のことであるけれども、學術進み、化學的知識發達するに至れば、其の生産を圖るは固より決して難事ではない。國民の大に努力すべきは此の化學工藝である。

(ニ)諸器具の輸入も多い。之も知識の進歩と共に發展の見込がある。殊に日

本人は手技に長じてゐるから、益々奬勵せねばならぬ。

乃ち知る化學工藝と諸器具製作とは蓋し今日吾人の奬勵すべき第一着のものであることを。而して此の方面の知識を與へ、趣味を養成することは小學教育に於ても大いに努力せなければならぬことて、教職に從事するものは常に此の考を有し、折にふれ時に臨んで、其の策を講ずる樣にせねばならぬ。

三工業品の取扱

(1)工業品の製造順序を知らしむべし

工業品取扱について注意すべきことの一つは、其の製造の順序方法を知らしめる事てある。凡べて人間は理由を尋ね、方法を知りたがるものてある。故に種々の物産取扱をなす場合、中にも工藝品取扱に當つて、唯出來上つた品物を兒童の眼前に突き出して、時に廻覽する位のことては、記憶を確實にし興味を惹起せしめ得る筈がない。然るに製法の順序に注意して、一枚の日本紙ても楮の皮を剝ぎ取り、次に其の表皮を去りて之を苛性曹達て煮た後、漂白して純白となし、次に紙漉槽に溶かして、漉き上げたるものを板に張り付けて乾したるものて、一方ならぬ手數を經て居ることを知らしめたならば兒童は紙を粗末にしてならぬといふ事をも悟る。又陶器てあるならば、先づ陶土・磁石等を配合して軟塊となし、次に之を所要の器具の形にするのてある。而して簡單なものは手先て作り、複雜なるものは石膏の模型を用ひ又は轆轤を用ひて原形を作るのてある。これが充分に乾燥し終らざる内に、種々の彫刻模樣を施し、然る後之を燒いたものが素燒てある。素燒に繪の具て模樣を施し、其の上に釉藥をかけ、充分に乾かしたる後、本燒窯に入れて十時間位燒き、そのまゝ火を消し、四五日を經てから取り出す。之が本燒てある。かく器具製作に關する大體の順序を知らしめなば、その間に一種の興味を喚起するに違ない。又七寶燒を教授する場合ならば、之は七寶燒てあると告げて實物を示しただけては、兒童は他の陶器と同じく、陶土て製作したものと早合點するかも知れない。然るに七寶燒と陶器は全く素質を異にしてゐる。七寶燒は赤銅にて原形を作り、其の上に墨繪を書き、繪の通りに赤銅の薄片を端立てゝ貼付し、其の凹所に着色陶土をつめて燒き、最後に磨き上げたものてある。此の製作には餘程の熟練を要し手數のかゝるものてある。此の如く七寶燒は普通の燒物とは、全く原質を異にしてゐる。然るに若し其の製法に注意しないて教授する時は思はざる間違を生ずることになる。即ち製造順序の教授の忽にすべからざること、之に依つて

明かてあらうと思ふ。

併し小學校は專門的の技術者を養成する所でないから、凡べての工藝品についてその製造法を敎へ、又詳細なる順序を知らしむべしと言ふのではない。たゞ成る可く産物に對する兒童の興味をつけ、工藝上の趣味を喚起し度いといふのが目的であるから、日本地理では、日常使用されてゐる陶器漆器、織物紙の如きものの製法を主とし、時間の許す限り他の製法に及したいのである。尙敎科書の挿繪には此の陶器工場の外、諏訪湖畔の製絲場と、八幡の製鐵所とある。こは何れも其の製法の大要に注意すべきである。而して何れの府縣に於て製法に言及すべきかは發授者の任意でよいが、陶器の如きは佐賀縣の所に挿繪があるから、勿論其の時に行ひ、他は最大産額を有する府縣敎授の時に、說話するのも一案であらう。卽ち漆器の製法は石川縣でなすが如きである。又右に擧げたものの外、或府縣に限られた特別の工藝品は、その府縣の兒童に向つては、更に之に留意すべきである。

例へば

一神奈川縣……造船の方法
二千葉縣……醬油の製法
三長野縣……生絲の製法
四富山縣……銅器の製法
五大阪府……刄物の製法
六兵庫縣……マッチの製法／清酒の製法
六岡山縣……麥稈眞田の製法／花莚疊表の製法
七香川縣……麥稈眞田の製法

の如き類である。

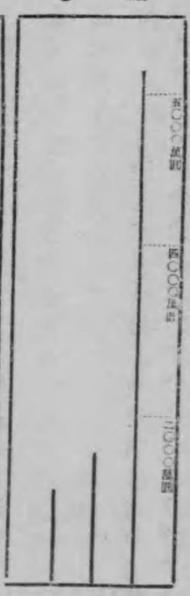
(2)工藝品の特長をみるべし

工藝品取扱について注意すべき第二の要點は其の工藝品の特徵を明かにする事である。こは工藝品取扱にとつては又頗る大切なことであつて、各物品につき各、其の特長を究め、他品と異なる點を指示するのは、工藝品敎授の眞髓である。彼の楮で製造せる紙は强靭であつて裂け難いけれども藁で漉いたものは裂れ易い特質がある。同じ陶器にも種々あり、薩摩燒はヒビ燒であつて、金にて模樣をかい

て居る。九谷燒は赤繪金襴の彩色を施し、器内に文字を書き、模樣細緻を極めて居る。京都の清水燒は白色の緻密なる地質に、藍色の模樣を施してある。即ち兒童に分かり易い特徴を教示して、教授が乾燥に陷ちない樣に心掛け度い。

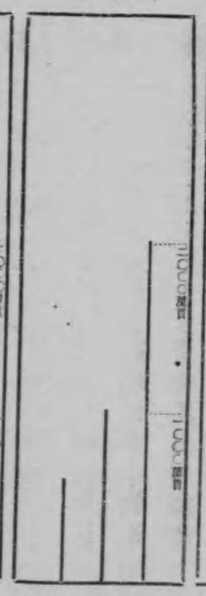
重要工藝品比較表

内地産生絲産額比較表（大正元年末調）



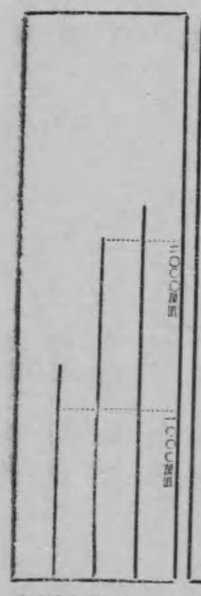
長野縣（五五、一七七、七五八圓）
愛知縣（一三、八三六、五〇四圓）
群馬縣（一一、七七七、五一六圓）
全國（一七九、二〇三、四二四圓）

内地産綿絲産額比較表（大正元年末調）



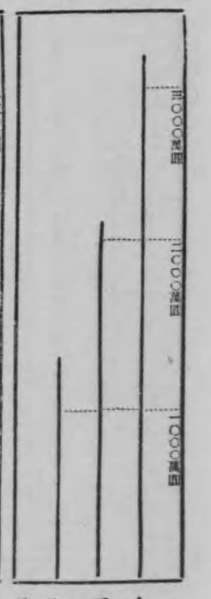
大阪府（二〇、六五九、二三六貫）
兵庫縣（九、八二八、三七二貫）
愛知縣（五、七七三、六六八貫）
全國（六七、九二二、〇八三貫）

内地産絹織産額比較表（大正元年末調）



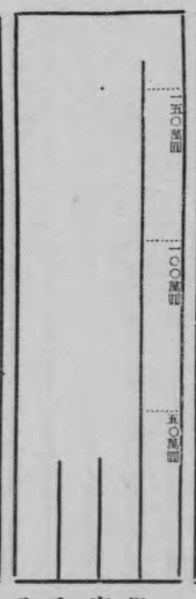
福井縣（二一、八二八、六三六圓）
京都府（二〇、六九一、五六三圓）
群馬縣（一二、二九六、五八一圓）
全國（一一七、四二六、二八六圓）

内地産綿布産額比較表（大正元年末調）



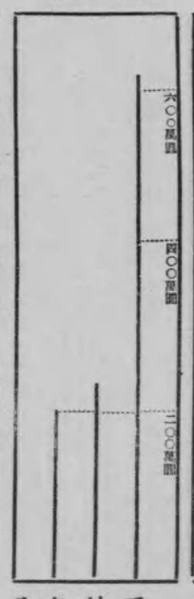
大阪府（三一、九四二、一六二圓）
愛知縣（二一、〇五〇、六三二圓）
和歌山縣（一二、五六六、一八三圓）
全國（一五二、七四七、六九四圓）

内地産麻織産額比較表（大正元年末調）



滋賀縣（一、五九七、二九四圓）
富山縣（二七六、三〇七圓）
兵庫縣（二六〇、六七五圓）
全國（四、三九四、七三二圓）

内地産陶磁器産額比較表（大正元年末調）



愛知縣（六、二〇六、三七九圓）
岐阜縣（二、一八一、一五〇圓）
京都府（二、〇一七、三一四圓）
全國（一六、五四五、五四五圓）

内地産漆器産額比較表（大正元年末調）

石川縣（一、二六一、二九五圓）
靜岡縣（八二八、七四七圓）
和歌山縣（七七四、九一〇圓）
全國（九、〇四三、一七四圓）

内地産和紙産額比較表（大正元年末調）

高知縣（三、七一四、一九七圓）
愛媛縣（二、〇〇〇、三六三圓）
岐阜縣（一、二九一、一一一圓）
全　國（二〇、三八七、九五五圓）

内地産製茶産額比較表（大正元年末調）

靜岡縣（五、五四六、九二五圓）
三重縣（一、三〇一、九九六圓）
京都府（一、〇〇一、〇〇三圓）
全　國（一五、二九五、一三五圓）

内地産麥稈眞田産額比較表（大正元年末調）

岡山縣（二、二〇八、四三〇圓）
香川縣（二、〇四八、九八三圓）
廣島縣（六八九、九二九圓）
全　國（五、三二五、六九三圓）

内地産燐寸産額比較表（大正元年末調）

兵庫縣（一〇、〇八五、五一九圓）
大阪府（二、六二四、四六一圓）
全　國（一四、一四七、三六九圓）

内地産疊表産額比較表（大正元年末調）

大分縣（一、五三二、九四五圓）
廣島縣（一、五二三、四九四圓）
岡山縣（八三五、〇五八圓）
全　國（五、九〇三、〇四八圓）

内地産清酒産額比較表（大正元年末調）

兵庫縣（六四一、八五二圓）
福岡縣（二二一、二五一圓）
廣島縣（一七〇、四七四圓）
全　國（四、一二九、〇〇九圓）

第五節　水産の取扱

一水産物の多き理由を知らしむべし

魚族が群集するには、其の住所となるべき所が必要である。沿岸の地形にして突角に富むか、また島嶼多く、而も海底に海中臺地と名附く可き淺瀨のある所は、魚族の群集に適してゐる。同時に水溫が魚族の多寡に大關係を有してゐるから、海流は魚族を伴ふ大動脈であると見ることが出來る。卽ち海岸の出入、島嶼の多寡海流の有無が水産物の多少の二大理由と見るべきである。

我が國は四面海を繞らし、海岸は出入多く、沿岸は島嶼に富み、寒暖の二海流四圍を環流して、水産國たるの諸要件を具備して居る。「オホーツク」海一帶の地方が、世界三大漁場の一に數へられてゐるのも、當然のことである。彼の北米の東北岸「ニューファウンドランド」近海は、灣流と「ラブラドル」寒流との會合點に當り、島嶼に富むと同時に、海底には「ラブラドル」寒流によりて氷山の伴ひ來れる土砂堆積して「ニューファウンドランドバンク」といへる淺瀨を作つて居るので、魚族の棲所に適して居る。諸威の沿岸が水産に富むも、海岸の出入多く、島嶼に富み、灣流が流れて來るからである。右の外一小區域に於ける觀察も同樣であつて靜岡縣に鰹鮪の多き、内海地方に鯛其の他の魚族の多き、九州の西海に柔魚鰹の多き、皆その理由を此の處に求め得るのである。

二水産業の方法に注意すべし

尋常科用、卷一、七頁には九十九里濱の鰯漁の繪と、同卷二、三頁には坂出の鹽田の挿畫がある。こは水産の方法を示さんが爲の挿繪である。鰯漁の圖は地引網と稱する漁獵であつて、初め二艘の船に網を積み、一里位の沖合に至つて、網を海中に投じ、二船漸次相離れて、之を馬蹄形に引き廻し、其の内に魚族を取り圍み、陸上より十數名づゝの男女が其の兩端の綱を引き、終に之を濱邊に引き寄せて漁するのである。鹽田の外圍には堤防があつて、海水の浸入を防ぎ、内部は一二町毎に溝が縱横に通つて居る。溝と溝との間には、七八間毎に鹽分を濾過する沼井がある。鹽田は表面を砂とし、海水を散布して蒸發せしむれば、鹽分のみ砂に附着して殘留する。次に此の鹽分を吸收せる砂を掻き集めて沼井に入れ、海水を上部より注入して、砂中の鹽分を濾過せしめ後之を鹹水溜に貯へる。この濃鹹水を煮つめて精製したものが、食用に供する鹽である。以上は一二水産の方法を述べたのであつて、なほ各種の漁獵法にも及し度い。さて茲に吾人の注意すべきは國民の遠洋漁業である。日本は海國であるから、近海の漁業は勿論のこと、遠海に出獵して、海中の金貨を採集するのは、國家の發展上より見て甚だ重要な問題である。小學校の兒童に向つては、水産物の取扱や、航路教授等の場合に出來るだけ多く海事思想の喚起養成に努力せねばならぬ。

(三)全體より觀察すべし

世界に於ける水産地は左の三大漁場である。

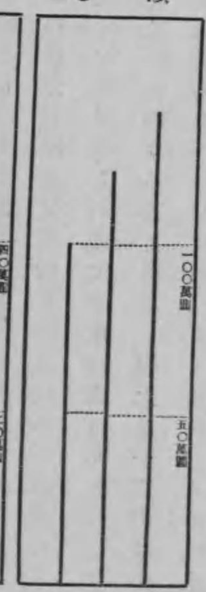
一「オホーツク海」地方

二諾威の海岸地方

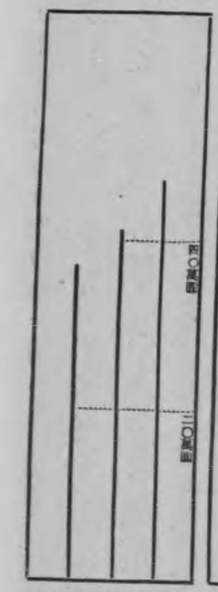
三「ニューファウンドランド」地方

我が國に於ては、教科書に表はれてゐる地方を以て重要な水産地として留意せねばならぬ。即ち尋常科用書によると、伊豆近海の鰹・鰯、三重縣の鰯・蝦・鯨・眞珠、兵庫縣・岡山縣・山口縣・香川縣の鹽、島根縣の鰯、高知縣の鰹・鯨・珊瑚、長崎縣の鰯、鹿兒島縣の鰹、北海道の鰊・鮭・鱈・昆布、樺太の鰊・鱒・鱈・鮭・昆布・臘納獸・海豹、朝鮮の明太魚・石首魚・鯛等である。是等各地方は特に注意して教授せねばならぬ。

重要水産物

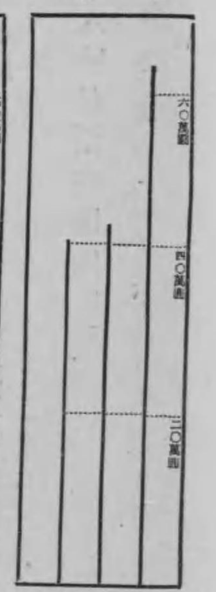


内地産鰹産額比較表（大正元年末調）

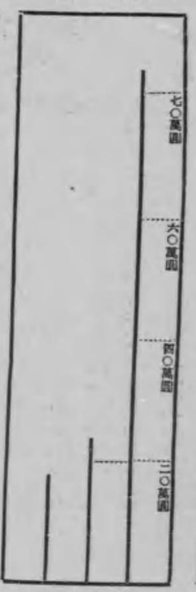


内地産鰯産額比較表（大正元年末調）

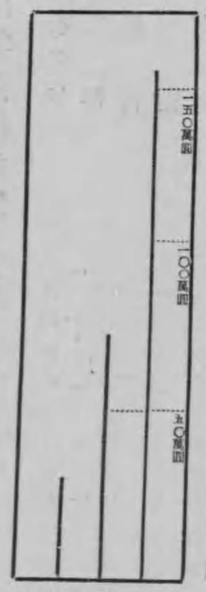
静岡縣	（一、三八四、四四〇圓）
鹿兒島縣	（一、二〇一、五五五圓）
高知縣	（一、〇二五、五七一圓）
全國	（七、三九五、五九八圓）
宮崎縣	（四四五、八〇五圓）
長崎縣	（四一七、五九八圓）
鹿兒島縣	（三六四、六二五圓）
全國	（四、二七三、〇八四圓）



内地産鯛産額比較表（大正元年末調）（黒鯛ヲ除ク）



内地産鮭産額比較表（大正元年末調）



内地産柔魚産額比較表（大正元年末調）

山口縣	（六三五、二六三圓）
愛媛縣	（四一四、四八三圓）
長崎縣	（四〇九、六七五圓）
全國	（五、〇五八、〇九九圓）
北海道	（七六五、二〇四圓）
新潟縣	（二三六、五三二圓）
岩手縣	（一六一、五五二圓）
全國	（一、五九四、二三〇圓）
北海道	（一、五四九、四六六圓）
長崎縣	（七三七、九三二圓）
神奈川縣	（二九五、六〇七圓）
全國	（四、五八五、四二五圓）

第六節　商業の取扱

商業取扱に當つては、我が國の貿易は如何なる地方が盛てあつて又如何なる物品の取引多きかを究め、進んでは輸出入の狀況を明かにして國民奮起の精神を養

はねばならぬ。故に先づ、

一我國との貿易盛なる地方を明にすべし

○輸出物品價格國別表（農商務省大正三年末調）

北米合衆國	一八四、四七五、一二四圓
支那	一五四、六六〇、四二八
佛蘭西	六〇、二二九、六一九
香港	三三、六二一、九七八
英吉利	三二、八七一、七七八
英領印度	二九、八七三、四一三
關東州	二九、八三六、三四五
伊太利	二九、四一六、七二九
獨逸	一三、一三二、七七九
海峽殖民地	一〇、一四一、五五八
濠太剌利	八、六三一、〇七〇

○輸入物品價格國別表（農商務省大農二年末調）

英領印度	一七三、一七三、八六一圓
英吉利	一二二、七三六、九七〇
北米合衆國	一二二、四〇八、三六一
獨逸	六八、三九四、七九八
支那	六一、二二三、〇三八
蘭領印度	三七、三八九、二五七
關東州	三〇、八七七、八九四
佛領印度	二四、六九九、八九四
濠太剌利	一四、九四三、一四五
白耳義	九、四四八、〇二三
比律賓諸島	七、六四七、八三三

右の二表による時は、最も多い我が輸出先は北米合衆國と支那とであつて、南洋方面が之に次いで居る。又我が國への輸入先は印度・英吉利・北米合衆國の順で、南洋方面之に次いでゐる。今輸出入の差引計算をなすときは、支那・北米合衆國・佛蘭西等のは輸出超過し、英領印度・英吉利・獨逸等のは輸入超過してゐるのである。即ち北米合衆國と支那とは我が國の二大顧客といふべく、更に南洋方面の貿易に向つて發展を計つて大いに輸出の增加を計りたいのである。尚各國との輸出入の關係は其の國教授の際、輸入超過の國なるか、果た輸出超過の國なるかの實情を明かにせねばならぬ。

二重要輸出入品を明らかにすべし

○重要輸出品價格表（農商務省大正二年末調）

生絲	一八八、九一六、八九二圓
綿織絲	七〇、九九七、五三八
絹織物	三九、三四七、三二八
綿織物	三三、六〇五、六八四
銅	二八、六〇五、三一一
石炭	二三、六二八、八七二
砂糖	一五、八四一、六八八
燐寸	一一、八六四、五一四
莫大小製品	一〇、八六一、六五一
屑絲	一〇、四七一、〇〇八
茶	一〇、〇七五、六二一
麻眞田	一〇、〇六四、七〇六
木材	一〇、〇四三、二七七

（一千萬圓以上のものを掲ぐ）

○重要輸入品價格表（農商務省大正二年末調）

實綿及繰綿	二三三、五九九、一八七圓
鐵	五六、七六三、八八三
米	四八、四七二、三〇四
肥料	四一、五九一、六七八
砂糖	三六、八三六、一六四
機械類	三六、七六一、九六八
羊毛	一五、九九七、六〇九
粗製硫酸安母尼亞	一五、九九二、二八二
毛織物	一二、四四四、九一二
小麥	一二、三五一、〇二九
石油	一一、一〇一、九四八
豆類	一〇、三九二、七二二
毛織絲	一〇、〇八六、九三九
綿織物	一〇、〇八三、七二二

（一千萬圓以上のものを掲ぐ）

即ち輸出品としては、生絲・絹織・綿絲・綿織が首位を占め、輸入品としては、綿類特に多く、而してその綿は之を綿絲・綿布として自國民の需用を充たし更に多額を支那方面等に輸出するのである。此等重要輸出入品を知らしめると共に其の輸出入品目の種別の對照をなし、精製品の輸入多きか、粗製品の輸出多きか、其の何れてある

かに注意せねばならぬ。

三輸出入の關係を明かにすべし

○輸出入累年價格比較表（日本帝國第三十三統計年鑑）

年度	輸入價格	輸出價格	差額
明治三八年末	四八九、〇六五、三〇四圓	三三五、一〇八、〇六六圓	一五三、九五七、二三八圓
三九年末	四五二、三六九、二六六	四四四、三二四、四〇八	八、〇四四、八五八
四〇年末	五〇四、〇六四、八五三	四五三、六二一、二〇〇	五〇、四四三、六五三
四一年末	四四七、二〇四、一二五	三九九、〇〇四、五六〇	四八、一九九、五六五
四二年末	四〇三、六六五、四一九	四三一、九八四、一〇一	二八、三一八、六八二
四三年末	四七四、〇九〇、四四九	四七八、五〇七、六七四	四、四一七、二二五
四四年末	五三二、四三六、五六一	四六六、七六六、〇五五	六五、六七〇、五〇六
大正元年末	六四三、九九二、六七八	五四八、三六五、二三二	六五、六二七、四四六
二年末	七六九、一八三、七五二	六五六、一七三、五六六	一一三、〇一〇、一八六

備考	輸入超過	輸出超過	輸入超過

1 過去十年間に於て、輸出入額が八億圓より、十四億圓に近き巨額に上りしは、我等が外國貿易の發達の著しきを語るものである。

2 然るに年々輸入超過の結果を示せるは、甚だ遺憾である。加之我が國は年々多額の外債元利償還の責任を帶びてゐるから、巨額の金貨が年々國外に

流出してゐる。故に輸出超過、卽ち平和の戰爭に勝つべき大責任を双肩にして立つ吾人は大いに反省し熟考しなければならぬ。擧國この大任に當るの覺悟なくば、眞に國家を泰山の安きに置く事が出來ない。此に於てか、益〻國產の奬勵と海外發展との必要を感ずるのである。國家發展策はこの二途を措いて他に之を求め難からうと思ふ。學校教育に於て、此の思想の養成につとむると共に、直接には內國製品の使用を勵行するが何よりの急務であると信ずるのである。

要するに、外國貿易の現狀は尋常科教材取扱の場合にも、高等科教材取扱の場合にも、比較的詳細に知らせ度いのである。

四大商業地に注意すべし

我が國に於て、內地商業の中心地は東京と大阪であつて、外國貿易の中心地は橫濱と神戸である。殊に橫濱は輸出に於て神戸を凌ぎ、神戸は輸入に於て橫濱を越してゐる。外國に於ては倫敦と紐育が世界商業の大中心地であつて、世界の航路を集め、世界の貨物を吸收し、且世界に向つて販路を有して居る。卽ち倫敦と紐育の勢力は世界の上に及すもので、いはゆる世界的商業地である。

第七節　外國地理特種産物

各大陸の産物を見ると、特種的の産物が多い。卽ち日本地理に於て見えざるものは、大抵目新しい産物であるから其の性質内容より用途等に至るまで、特に注意して教授する必要がある。日本地理より外國地理に入つて、特に困難を感ずるものは都會國名の稱へ方の異なると、特種的産物に富めることである。今簡單に特種産物の解釋をなし、教授の參考に供さう。

(一)亞細亞洲の産物(高卷一、四頁)

椰子＝熱帶地方の常綠樹で、其の高さ五六丈に達し、植物の王と稱せられて居る。其の材は堅牢にして建築に用ひられ、葉は屋根を葺くことが出來る。又樹液より酒精を釀すことあり、果實は人頭狀をなし、一樹に數千個あり、其の外皮の纖維は强靱であつて、刷毛や網を作り、果皮の内面にある厚き層は堅牢にして、飲食器を作ることが出來る。其の内には胚乳ありて、乳狀の液を有し、味がよい。又胚乳を乾したものを「コブラ」と云ふのである。

チーク＝高さは十丈にも達する巨樹であつて、雜木の間に生長して居る。印度支那山原中に最も多く、象を使役して河岸に運搬し、かくて下流に下すのである。

材は硅酸を含み、腐朽することないから、最も船材に適して居る。又質堅牢であるから好んで建築材に使用されるのである。

象＝丈は一丈に達し、鼻非常に大きく、鼻端に指狀の突起ありて、食物を掴みて口に入れ、同時に觸覺を掌るのである。世に象牙と稱するは上顎の門齒であつて、長さ一間にも達するのがある。

鰐＝蜥蜴類にして、堅甲を被り、尾は長くて力が强く、之を以て人畜を打つて傷つけるのである。七八月の候、河岸の堀砂中に産卵し、十數週間經れば、大陽熱の爲に自然に孵化するのである。鰐は其の種類頗る多く、印度鰐は黃褐色を呈し、體長二間餘ある。土人は産卵時に係蹄(わなし)にて之を捕縛し、皮は精製して手袋等を作るに用ひられて居る。

駱駝＝單峰雙峰の二種ある。單峯駱駝は西亞弗利加地方に分布し、雙峰駱駝は露西亞の東部より支那に至る一帶の地方に分布して居るのである。駱駝は力强く、水の缺乏に堪へ貨物の運搬に適して居るから沙漠の旅行に使役される。

(二)大洋洲の産物(高卷一、二九頁)

カンガルー＝袋鼠である。後肢長く、前肢短く、後肢と尾で直立する時は、高さ五尺

に達するのである。其の兒は至つて不十分な發育で生れるから、母親は之を自分の腹部にある袋の内に入れて保育するのである。而も兒を袋に入れながら、自由に駈け廻り得るのである。袋鼠も種々の種類あつて形も異なり、肉食するものもあり、草食するものもある。

鴨嘴獸＝哺乳動物中最下等のもので、鴨の如き嘴を有し齒を具へて居ない。四肢には蹼があるから、泳ぐに適して居る。色は黑褐色を呈し、常に河邊に棲息して居る。哺乳動物中卵生するものは此の獸だけである。其の卵は母親の腹部にある袋に入れて孵化するのである。

ユーカリ樹＝常綠の喬木で、高さ五十間にも及んで居る。樹皮は灰白色を呈し、又よく地中の濕氣を吸收するから、「マラリヤ」熱の發する多濕の地に植うれば、濕氣を吸收して土地を乾燥ならしめ、病原を絶ち健康地となすことが出來る。又葉を蒸溜して殺菌劑を製し、材は堅牢にして建築に用ひらるゝのである。

(三)歐羅巴洲

甜菜＝卵形の葉をなし、根は多肉で、形は多く紡錘狀であるけれども、又蕪菁のやうに圓大なものもある。此の根が多量の砂糖分を含んで居るから、其の根を刻んで、溫湯中に入れて攪拌し、次に濾過し、其の溶液を熱して蒸發せしむれば、粗製糖となり、更に精製して純白となすのである。現今は獨逸が世界に於て甜菜糖の第一の產額を有して居る。

オリーブ＝南部歐羅巴(イベリヤ半島)に多く、高さは十數尺なのが普通である。果實は核果であつて、長さ一寸位の楕圓形をなして居る。其の生なものは漬物によく、熟したものは之を搾つて「オリーブ」油をとる。其の油は食用燈用に供せられ、又灌腸劑、塗擦劑に用ひられ、石鹼の原料ともなる。

(四)亞弗利加洲(高卷一、六六頁)

河馬＝沼地又は河中に住して、丈一間に及べど、四肢短く、頭大きく、毛は暗褐色の間に黑色の斑點を有し、至つて醜い動物である。力甚だ强く時々船を覆すことがある。其の犬齒は堅く、象牙の代用品として種々の器具を作るに用ひられて居る。

ジラフ＝麒麟は丈頗る高くして三間位のも居る。毛色は白色のものもあるけれども、多くは薄赤で一面に黑い斑點をもつて居る。四肢長く、歩むには右側の兩足を同時に突き出し、次に左側の兩足を同時に突き出すを以て、至つて不體裁な

る歩行をなす。而も走る時は頗る迅速である。性氣至つて溫順であるけれども、時には獅子を斃すことがある。亞弗利加の各所に棲息して居る。

駝鳥＝鳥類中最大のもの、丈は八尺にも達するが、翼短小で飛ぶことが出來ない。其の代りに足が頑丈で驅走頗る自由である。其の羽毛は甚だ美麗であるから歐米婦人は好んで之を帽子の裝飾に用ふるのである。

犀＝有蹄類にして、四足共に三蹄である。丈四五尺あり、鼻上には皮膚より變形せる角がある。印度產は一角なれど亞弗利加產は二角である。古來感冒等の藥材に供する烏犀角は卽ち之である。性頗る獰猛なる動物である。

金剛石＝南部亞弗利加の金剛石は諸種の地層を貫通せる迸發岩の岩脈中に存在するもので、其の岩脈を通常「パイプ」と言うて居る。此の岩脈はもと地表に露出して居たから、上部より金剛石を掘り採つて居たが、今は竪横の坑道を開通して採掘して居る。「キンバーリー」が金剛石產地の中心である。

(五)南亞米利加洲(高卷一、八五頁)

護謨＝護謨樹は種類多く、葉は長楕圓形である。護謨を製するには、先づ斧にて樹皮に數個所傷をつけ、其處より流出する汁を桶に受け、次に棒の一端に此の汁をつけて乾し、次に其の棒を液汁に浸して又之を乾し、かくすること數回にして棒端に卵大の護謨を製出するのである。

硝石＝智利硝石は海草其の他の植物が枯れて埋沒したものが、曹達成分に化したものである。此の硝石は水に溶解し易い性質のものであるが、智利の北部地方は幸に降雨少なきを以て硝石が厚い層を爲して居る。肥料として諸方へ輸出し、我が國へも輸出する。又硝酸製造の原料として用ひられて居る。

第七章　都會の取扱法

凡そ都會は經濟的基礎の下に發展するのであるから、都會の取扱に當つては、常に經濟的見地より研究せねばならぬ。卽ち此の都會は發展すべき位置にあるか又如何にして發展せしか、何故に衰微せしかの理由を尋ねゝばならぬ。

第一節　位置の示し方

地理教授上考慮すべき問題多き中にも、都會の位置取扱が其の一つであらうと思ふ。實際教授に當つては、地圖も使用し、又此處には何々學校あり、何々產物が出ると教へながら、尙其の印象の薄いのは、畢竟都會を孤立的に取扱うて、其の興起せ

る理由を究めざるによる結果であらうと思はれる。故に都會の位置教授に當つて注意すべきは、其の都會を單獨に取扱ふことなく、附近の事物を土臺として、之と結合せしめることである。卽ち或標準物を定めて、之に力を入れて教授し、其の標準物の何れに當るかを明かにしたいのである。然る時は觀念の連鎖が出來て、記憶が確實になる。例へば山河を標準として、其の何れの方向に當るか、又交通を標準として、其の交叉點なるか、終點なるか、又は其の右側なるか、左側なるかを見るが如きである。

今左に標準とすべき種目を示すと、

1 山・平野を標準とすべき都邑

例、奈良は大和平野の北部にある。

京都は比叡山の西南麓にある。

2 河湖を標準とすべき都邑

例、廣島は太田川の川口にある。

大津は琵琶湖の西南隅にある。

3 交通線を標準とすべき都邑

例、米原は東海線より北陸線の分岐點にある。

法隆寺は關西線の北側にある。

4 灣・海峽を標準とすべき都邑

例、敦賀は敦賀灣頭にある。

門司は下ノ關海峽に臨む。

5 都會相互に標準となる都邑

例、兩毛線上の各都邑を見るに、西より數へて波形を有せる鐵道線の第一波底に當るを高崎とすれば、次の第一波峰に當るのが前橋である。第二波底が伊勢崎で、第二波峰が桐生、第三波底が足利で、第三波峰が栃木、次ぎは小山と云へるが如く、都會が相互に標準となり、其の位置を明確にすることが出來る。

第二節　都會興起の理由と都會の分類

都會の取扱に當つて、第二に重要なことは都會興起の理由を尋ね、其の都會の特徴を明かにすることである。此處は人口何萬あつて、何々の產物あり、何々學校ありと云ふが如きは、所謂教材を羅列したものであつて、決して趣味の起る筈がない。

地理は記憶すべきことのみ多いとして兒童の嫌惡を招くに至るは當然のことである。地理は唯結果のみを見るべきものでない。其の地理的事項の原因を尋ね、且繁榮の理由を明かにせねばならぬ。門司が今日の發達を遂げたのには必ずや理由が無くてはならぬ。卽ち位置良好であつて、交通線上九州の咽喉をなし、前面は中國朝鮮に對し、又背後には豐富なる炭產地を有して居るからである。新に工場が出來、又鑛山を發見すれば、多くの職工坑夫集まりて俄かに大都をなすに至る。又政治上の中心地となり、兵營設置され、學校設立さるゝに至らば附近に新都會を作るに至る。尙新に鐵道敷設されたが爲に旅客貨物の集散其の地を變へ、遂に衰微を來す所もある。要するに何故に發達せしか、又何故に衰微せしかを究むることが最も大切である。かく都會興起の理由を尋ねる時は、同時に其の都會の特徵を知ることが出來る。乃ち都會を分類して敎示することが大事になつて來る。例へば京都は關西の學都であり、歷史的美術市であるといふやうに。今各都會を分類すると、

(1)交通線上の要都。

東京　橫濱　靑森　酒田　清水　名古屋　直江津　伏木　七尾　敦賀　米原　彥根　四日市　大阪　神戶　姬路　廣島　下ノ關　濱田　米子　境　德島　高松　福岡　門司　三池　長崎　那覇　基隆　打狗　小樽　函館　室蘭　旭川　大泊　眞岡　京城　仁川　鎭南浦　新義州　元山　大連　奉天　營口　長春　哈爾賓　浦鹽斯德　上海　漢口　重慶　厦門　福州

「アデン」「ホノルル」「モスコー」「ポートサイド」「パリフアクス」「シヤトル」「シンガポール」「スエズ」「サンフランシスコ」「バンクーバー」。

(2)政治上の中心地(一名政都)

東京　北京　彼得堡　巴里　伯林　維也納　倫敦　華盛頓。

其の他各國の首府・府縣廳所在地。

(3)軍事上の中心地(一名軍都)

東京　橫須賀　宇都宮　仙臺　弘前　大湊　名古屋　豐橋　高田　金澤　舞鶴　大阪　姬路　岡山　廣島　吳　善通寺　小倉　久留米　佐世保　熊本　馬公　旭川　鎭海　永興　「クロンスタット」「ジブラルタル」「ポーツマス」。

(4)工業上の中心地(一名工業都)

八王子　銚子　野田　川越　秩父　桐生　足利　若松　仙臺　米澤　靜岡
濱松　甲府　名古屋　瀨戸　高山　多治見　諏訪　富山　高岡　金澤　輪
島　福井　長濱　京都　和歌山　黑江　大阪　堺　神戸　灘　岡山　津山
尾ノ道　松山　福岡　小倉　八幡　久留米　有田　鹿兒島　那覇　臺北
札幌　抗州　蘇州　成都　「ドレスデン」「エヂンバラ」「ライプチヒ」「ミュンヘン」「チュユーリヒ」「リール」「ボルドー」「リヨン」「マンチエスター」「バーミンガム」「グラスゴー」「フイラデルフィヤ」。

(5)商業上の中心地(一名商都)

東京　横濱　名古屋　大阪　廣島　下ノ關　門司　長崎　基隆　小樽　函館　仁川　大連　奉天　漢口　香港「ボンベイ」倫敦　巴里　漢陽　上海「イルクツク」廣東　武昌「マドラス」「カルカツタ」「マニラ」「バタビヤ」「サイゴン」「ハンブルグ」「モスコー」「メルボルン」「シドニー」「マルセーユ」「ルアーブル」「トリエスト」「ブダペスト」「アムステルダム」、「ロツテルダム」「アンベルス」「カーヂフ」「リバプール」「ベニス」「アレキサンドリヤ」「ボストン」「シカゴ」「セン.トルイス」「ニューオルリヤンス」紐育

(6)鑛産地

足尾　釜石　小坂　長岡　佐渡　生野　別子　三池　天草島　金瓜石　撫順　大冶「バクー」「キンバーリー」。

(7)教育の中心地(一名學都)

東京　名古屋　京都　仙臺　大阪　廣島　福岡　長崎　熊本　鹿兒島　札幌　伯林「トムスク」「ケンブリッチ」「オックスフオード」。

(8)歷史上の中心地

鎌倉　小田原　關ヶ原　京都　奈良　吉野山　船上山　平壤　旅順　南京　羅馬。

(9)水産及び農産地

宇治　赤穗　三田尻　穩岐　撫養　坂出　國分　眞岡　開城　木曜島「オデッサ」「サンボウロ」。

(10)貨物集散地、

能代　前橋　福島　松本　上田　長岡　桑名　新宮　臺南　遼陽。

(11)宗教上の中心地(一名宗教都)

熱田　長野　日光　比叡山　京都　奈良　宇治山田　高野山　杵築　琴平
太宰府　宇佐「メヂナ」「エルサレム」。

(12)名勝

小田原　日光　天ノ橋立　和歌ノ浦　那智ノ瀧　嚴島　耶馬溪　熱海　道後「ジュネーブ」「ネーブルス」。

第八章　交通の取扱法

交通の便否は直ちに經濟上・軍事上に利害を及し、國家の發展上に大なる關係を持つて居る。即ち交通機關の發達は國家の重要問題であるから、各國は競うて交通機關の改良發達を圖つて居る次第である。故に國民に交通に關する知識を授けることが大切となつて來る。

第一節　交通機關と原動力

一交通機關に注意すべし

昔は籠・馬などが重なる交通機關であつたが、世の進歩とともに今は非常な發達を遂げて、地中を走り、天空を駈けることさへ出來るに至つた。今日一般に行はれて居る交通機關は次の如きものである。

汽車　汽船　人力車　馬車　牛車　自轉車　電車　電信機　電話機　舟　籠　自動車。

特別のものには筏あり、橇あり、又朝鮮には轎、支那に一輪車がある。又今は飛行機・飛行船が軍事通信用に使用さるゝに至つた。

(二)原動力に注意すべし

電氣・蒸汽・牛・馬・人・動物・水等が重なる原動力であるが、中にも電氣が最も有効である。蒸汽は石炭を燃料とするきとは煤煙多く、且偉大なる速力を出すことが出來ないから、漸次改良の聲が起つて來た。我が國有鐵道も東海道線に石油の原動力を用ひて煤煙や火災を防ぐの計劃があるが、外國は早くより、軍艦の原動力に石油を使用して好成績を擧げて居る。而して蒸汽力が漸次電力に變更されつゝあるのは注目すべきことである。彼の紐育の汽車の如きは既に電力に變じつゝあるのである。かくて交通機關に電力の使用盛なるに至れば、世界は愈々狹まるの感起るであらう。

第二節　鐵道網と幹線

(一)世界の鐵道に注意すべし

世界中、鐵道網の最も發達せるは白耳義であつて、次は瑞西・英吉利・獨逸・和蘭・佛蘭西・丁抹であるが、延長線の最も長きは北米合衆國である。卽ち全世界の延長線六十四萬哩ある內、二十四萬哩以上を有して居る。而して歐羅巴に於ける交通上の中心地は倫敦と巴里であつて、北米では紐育が中心をなして居る。今歐羅巴の重要幹線を擧げると、

1 北急行列車＝巴里―伯林―彼得堡。
2 南急行列車＝巴里―「マドリード」―「リスボン」。
3 東洋急行列車＝倫敦―巴里―維也納―「コンスタンチノープル」。
4 印度急行列車＝倫敦―巴里―伊太利の「ブリンヂシ」。

北米には「カナダ」太平洋鐵道・大北鐵道・北太平洋鐵道・「ユニオン」太平洋鐵道・南太平洋鐵道等ありて、西岸は「バンクーバー」・「シヤトル」・「タコマ」・桑港等より發し、東岸は紐育に集つて居る。

(二)日本の鐵道網に注意すべし

我が國も漸次鐵道發達し來りて、今は七千哩を算するに至つた。國中密度の大なる所が二ヶ所ある。東は關東地方にして東京を中心とし、西は近畿地方にして、大阪を中心として居る。此の外名古屋附近及び九州北部が比較的稠密である。

東京より東海道線　中央線　高崎線　東北線　東武線　總武線　常磐線　山ノ手線。

大阪より關西本線　櫻ノ宮線　南海鐵道　高野鐵道　東海道線　城東線。

等が發して居る。更に我が國の縱貫線と橫斷線とに注意して、其の起點・終點を明かにすべきである。

第三節　航路と電信線

(一)世界の航路に注意すべし

海軍思想を養ふには航路の取扱が大事である。世界は廣いといふけれども今は船の通ぜぬ海洋がない。歐羅巴に於ける航路の集中點は倫敦であつて、北米では紐育・東洋では上海と橫濱である。而して英吉利の商船は世界中到らぬ隅なく、航路は全世界に分布されて居る。今左に英國の航路を記すと、

第一項＝英本國より「ジブラルタル」海峽を過ぎて支那海に入る。

に出て「マラッカ」海峽を經て、地中海・「スエズ」運河を通り、印度洋

第二線＝第一線中「セイロン」より分岐して「オーストラリヤ」に至る二線がある。其の一線は「オーストラリヤ」の西南岸を廻つて、南岸に沿へる航路。他の一線は「ジヤバ」「トレス」海峡を經て「オーストラリヤ」の北岸より、東岸に沿へる航路である。

第三線＝英本國より、亞弗利加の西岸を經て、喜望峰に至り、此處にて二線に分かれ、一線は東北進して印度に至り、一線は東進して「オーストラリヤ」及び「ニユージーランド」に至る。

第四線＝「オーストラリヤ」「ニユージーランド」より東進して南米の「ホルン」岬を廻り、更に北進して太西洋を經て、英本國に歸る。

第五線＝英本國より北太西洋を横ぎり、北米の「ハリフアツクス」「セントローレンス」河紐育に至る。

第六線＝英本國より西印度諸島英領「ギヤナ」「ホンヂユラス」に至る。今や「パナマ」運河開通して此の航路は「オーストラリヤ」に至る新航路の一部となる。

第七線＝「ブリチツシ」「コロンビヤ」より日本及び香港に至り、此處にて東方大航路の凡べてに接續するのである。

第八線＝「ブリチツシ」「コロンビヤ」より西南に進みて太平洋を横ぎり、遂に「ニユージーランド」及び「オーストラリヤ」に至る。

第九線＝加奈陀の東部諸港より南進して西印度諸島に至る。

(二)日本の航路に注意すべし

日本の海外航路は政府保護の下に漸次に進歩し來つて、諸大陸への渡航自由となつた。

1 北米航路

(イ)東洋汽船會社の桑港線＝横濱—「ホノルル」—桑港。

(ロ)日本郵船會社の「シヤトル」線＝横濱—「シヤトル」—「タコマ」。

(ハ)大阪商船會社の「タコマ」線＝横濱—「タコマ」。

2 南米航路

東洋汽船會社の航路＝横濱—「ホノルル」—桑港—「アカプルコ」—「パナマ」—「グアヤキル」—「カリヤオ」—「イキケ」—「バルバライソ」。

3 濠洲航路

横濱—神戸—門司(往航のみ)—長崎—香港—「マニラ」—木曜島—「タウンスビル」

—「シドニー」—「メルボルン」。

4 歐洲航路

(イ)北獨逸「ロイド」會社線＝「ブレーメンファーフェン」—「ゼノア」—「ナポリ」—「アデン」—「コロンボ」—「シンガポール」—香港—上海—門司—神戸—横濱。

(ロ)「ハンブルグ・アメリカ」線＝「ハンブルグ」—以下前線に同じ。

(ハ)「ピ・オ」會社線＝「リバプール」—「ジブラルタル」—「ブリンヂシ」—以下前線に同じ

(ニ)「エム・エム」會社線＝「マルセイユ」—紅海—「アデン」—「コロンボ」—「シンガポール」—以下同前。

(ホ)郵船會社線＝横濱—神戸—門司—長崎—上海—香港—「シンガポール」—「コロンボ」—「アデン」—「マルセイユ」—「アントワープ」—倫敦。

(三)世界の重要電信線に注意すべし

世界に三つの大電信會社がある。即ち、

(イ)太北電信會社＝丁抹有、本社は「コペンハーゲン」。

(ロ)大東電信會社＝英吉利有、本社は倫敦。

(ハ)太平洋電信會社＝北米合衆國有、本社は紐育。

今此の三大電信會社の幹線を見ると、太北電信會社線は長崎より浦鹽斯德に至り、「シベリヤ」を經て、歐洲に入る。其の一線は長崎より上海に至り、北上して天津・北京・蒙古を經て、「シベリヤ」に入り、前線と合して、遠く本國の首府「コペンハーゲン」に至る。大東電信會社線は上海より香港、「シンガポール」を經て印度洋を渡り、「マドラス」より上陸し、孟買にて再び海に入り、「アデン」「スエズ」を經て、地中海に入り、分かれて一線は「マルセイユ」より上陸し、佛蘭西を縱貫して、倫敦に至る。一線は「ジブラルタル」を通り、太西洋を廻りて倫敦に至るのである。太平洋電信會社線は香港より「マドラス」を過ぎ「グアム」島に至り、此處にて東京灣より發し小笠原を經て來れる日本の電信線と接續し、進んで「ホノルル」を經、桑港より上陸して合衆國を横斷し紐育に至る。

第四節　距離と賃金

(一)距離

尋常科用書では距離を哩にて表はし、鐵路東京青森間四百六十哩、東京大阪間三百六十六哩、大阪下ノ關間三百五十哩とある。高等科用書には日數を以て距離を示し、日本より倫敦まで、鐵路十六・七日、海路六十日とある。此の距離教授に當り、哩數によるを可とするか、又時間にて表すを可とするかといふに、正確なのは哩數なれ

ど實際的には時間にて距離を敎示するを可とするのである。卽ち東京より靑森まで四百六十哩といふよりも、二十時間にて到達し、東京大阪間は十四時間にて到達し得ると敎へるのが實用的であつて記憶にも留り易い。そこで前節に述べた重要幹線は其の到着時間數に注意すべきである。今一二の例を示すと、

例一　東京―下關(二七時間)　下關―釜山(十一時間)　釜山―京城(十一時間)　京城―新義州(十一時間)　安東縣―奉天(六時間半)　奉天―長春(六時間)　長春―哈爾賓(八時間)

例二　日本―北米(十三日)　北米横斷(五日間)　太西洋横斷(五日間)

(二)賃金

次には賃金のことである。借りに到達時間數が分つても賃金が不明では實用的でない。故に重要幹線の賃金に着目して、大凡その金高を知らしめるがよい。勿論汽車は等級によつて賃金に違があるけれども、普通三等賃金を知らせておけばよいと思ふ。

第九章　地圖の取扱法

一般地理敎授に際し、常に一々實物實地を觀察させることは到底不可能である。併し地理的各要素は土地を離れて存在するもので無いから、之を抽象的に取扱うては、其の授けたる知識は何の價値もない。地圖は地球表面の狀況を平面上に縮めて描いたものであるから、實に此の缺點を補ふことを得べく、地理的各要素のすべてを地圖上に結合することによりて、始めて實地を想像し理解し得て生命ある地理的知識となるのである。故に地圖は地理敎授の出發點となり、又歸結點となるべきものであるから常に該科敎授の中心とすべきものである。

第一節　讀地圖の基礎的觀念養成

上述の如く、地圖は地理敎授の生命であつて、地圖の着色諸記號を見ることによつて、直ちに實地を想像し理解し得る丈の能を養はねばならぬ。此の讀圖力を養成するには、相當の手續を要するのである。それには、先づ鄕土に於て、實地踏査をなし、直觀觀察せしめ、それと地圖とを比較對照して、地圖の性質を十分理解せしめておくことが必要である。然らば如何にして地圖を理解する能を養ふべきか。以下この問題について簡單に述べて見よう。

1　先づ實地と模型との連關をつけ、

2　次に模型と地圖との聯絡をはかり、

3　最後に地圖によりて實地を想像せしめるのである。

以上三項を取扱ふに當つては、左の各事項に注意をすることが必要である。

(一)縮尺の必要を悟らしめ、縮尺平面圖の描法を授くること

初めは兒童の身邊のものを縮小描寫せしめる。即ち教科書の二分の一縮尺、或は机の十分の一縮尺、教室の一間を一寸に縮めて表さしめる等である。かくて實尺と縮尺との關係を知らしめ、又縮尺にて表されたものより、實物の大さを算出せしめることも亦大切である。此の際特に注意すべきは、縮尺とは距離についていふものであつて、面積について云ふものではないことである。

(二)方角の觀念を養ふこと

方角の定め方については、國定讀本にもある如く、最初は朝日によるのが便利である。所が朝日の出る方角は、四季によりて多少異なるから、正しくは正午太陽南中を以て方角を定めるがよい。之は稍程度の進んだ方法であるが、尋常科五學年になれば敎へても差支がない。次に方角を定めるには、太陽によるの外、磁石によるる方法のあることを授くべきである。更に地圖上の方角をも知らしめなくてはならぬ。方角の名稱は四方とその間位とを授くればよい。

(三)着色と諸記號に注意すること

第一着に、山地の色と、平地の色とを了解せしめねばならぬ。此の山地の色にも濃淡ありて、濃きは高地なるを知らしめ、又海の色にも濃淡あることに注意し、此の着色によりて十分に地勢を了解し得る樣にせねばならぬ。着色によつて地勢を了解するに至らば、「ケバ」式をも示し、次いで高等科に至らば曲線式の見方をも知らしむべきである。次に地圖には、多くの記號が記入してあるから之を記憶せしめねばならぬ。山河は勿論のこと、都會、交通、名勝、古蹟、鑛山其の他凡べて記號によつて、地圖を了解する腦力を作らねばならぬ。

(四)初歩の平面地圖の描寫をなさしむること

先づ校舍、校地より、鄕土(學校附近)の地圖を描かしめて、平面圖の性質を了解せしむべきである。この鄕土地圖を描かしむる際、着色、記號等に注意すべきは勿論のことである。

(五)取扱の時期

以上の要素を敎授するには、第五學年の初め、一般地理敎授に入る前、數時間を以

て特別教授をなすか、又郷土誌教授の際に注意すべきてある。尚この特別教授の外、地理教授の進行中に於いて、絶えず心掛けて居らねばならぬのは勿論のことてある。

第二節　教授用地圖

地圖の種類は實に多様てあつて、その種類の異なるにより、又同種類のものてもず教授の場合によつて、其の使用法一定してゐない。從つて一概に之が使用法を論ずることが能はないが、何れの種類、何れの場合に於ても、他圖使用の眼目は、教授の結果たる概念を其の地圖上に作らしめるにある。即ち教授の結果が地圖を媒として、實地を觀察したるが如く、想像理解したる活知識たるべく、之がためには部分擴大圖の必要も生ずるのてある。而して地圖描寫の體裁と使用の目的とを誤らざることが大切てある。即ち地圖の性質を承知し居らざる時は、思はざる間違を引き起すことがある。かの「メルカトル」圖式の世界全圖を以て、各國の面積を比較するが如き、「ボン」圖式の地圖によりて、方位を教授するが如き、又府縣別圖を以て、地勢を教授せんとするが如き誤を生ずるものてある。

今最も普通に使用せられてゐる二三の地圖につき、其の使用法の大要を述べて見よう。

(1)郷土地圖

地圖の基礎觀念を養成する間は、常に地圖を教室の後方に掲げて置いて、郷土の實地觀察をなしたる場合に各事項を其の地圖上に歸結せしむべきてある。

(2)全圖(日本及び世界全圖)

全圖は位置を求むる場合と、外國との關係を示す場合とに必要てある。故に此の種の地圖は各洲・各地方等の位置さへわかるものならば簡略なものてよい。但し各陸地・各島等が自然の位置に描かれてないものは其の目的に合はない。例へば日本全圖ならば、各島に自然の位置を保たしめ、且四周の陸地即ち亞細亞大陸「フイリツピン」群島の一部等を描いてあるもの。尚願はくば亞米利加大陸の一部までも表れて居るものならば更によいのてある。從來の如く北海道・千島・朝鮮等が折り返しにてある樣なのはよくない。是等全圖が常に教室の後方に掛けてある時は、地理の時間のみならず、修身・國語・歴史等の時間にも、利用することを得て大に便利てある。

(3)地方圖(日本各地方圖及び各大陸圖)

之は各地方(日本)・各洲(世界)の總論及び各府縣各國に於ける自然上・人文上の位置等を知らしめる場合及び地勢教授の場合に利用せられるものてある。

此の場合には各地方・各洲が同一の比例尺て表されたものを使用せねば、時に面積の廣狹等につき誤謬を來すの虞がある。我が國ては畿内・關東、世界ては「ヨーロッパ」洲は眞の面積よりも大きく感ぜられて居る場合が多い。注意すべきことてある。

(4)部分圖(各府縣各國の地圖)……(主として小黑板に描出せる白地圖を以て代用す)

各府縣各國を教授する際に使用するのてある。此の場合前項の地方圖を使用するも差支はないが、多くは小に過ぎて不明瞭てある。故に部分圖が必要てある。尤も部分圖は經費の都合等て、大抵購入することが出來ないから、教師は豫め小黑板に輪廓を(面積等も外境のものと比例して)描きたる略地圖を用意し置き、而して教授しながらそれ〳〵事項を記入して行けば、地理的各要項の有機的關係が明瞭となり、又地點も明かになり、且教授事項が密接に地圖に結合することも出來る。

各府縣及び各國を教授する際にも、その位置を念頭に置かしめるため、地方圖は常側に掲げて置くがよい。

(5)整理の際の利用法

教師が板書を拭ひ去る際、都會・山川等の名稱を讀みつゝ消し去り、それにつれて兒童をして其の場所を順次指示せしめるのも一法てある。又地圖によつて教授した要項を口述せしめることは最も有效な地圖利用法てある。

第三節　兒童の描圖

(一)描圖の效果

兒童に地圖を描かしめることに關しては多少議論がある。併し地理教授をして眞に意義あらしめるには、是非とも兒童をして描圖せしむべきてある。勿論專門家の如く正確詳密なるものを要求する必要はない。簡單なるものを簡易なる方法て描かしめるならば、さしたる困難もなく、時間も多く要さない。從つて兒童の負擔を重加する虞もない。そこてその描圖を課するも何等の弊害なきのみならず、更に次の如き效果を收め得ることを信ずるのてある。

(1)地理的事項を明瞭に正確に牢記せしむることが出來る。

曾に說明を聽き、地圖を見ることによりて得たる知識は、甚だ明確てない。

之を言語に發表することによりて稍明瞭なり、更に之を筋肉運動に訴へ符號によりて地圖として發表せしめることによりて、愈々確實な觀念となるのである。かくの如くにして、把束せられたる知識が、始めて牢記せらるるのである。

(2) 觀察を精密にし、又注意力集注の良習慣を養ふ

地圖を描くに當り、國縣の輪廓、山川、都邑の位置、河川の流域等を正確ならしめるには、どうしても地圖をよく觀察せしめねばならぬ。即ち其の都會が河の右岸にあるとか、其の河川は如何なる流域をなすとか、或は某灣は斯の如き形狀をなす等の精細な觀念は實に描圖の賜として得られるのである。加ふるにかゝる細微なる點を觀察するため、延いては、注意力集注の良習慣をも養ふことが出來る。

(3) 讀圖力增進す

自ら地圖を描いて見ると、山川の關係、高地平原の關係、都邑交通の關係、海岸線と文野の關係等が明かに了解せられ、從つて既成地圖を見ても、その着眼の態度が異つて來る。依つて眞に地圖を讀解することが出來るから、地理教授も意義あり、生命あることになる。

(4) 地理的趣味を喚起することが出來る

兒童は自ら描出したる地圖に對しては、あまり精巧でなくとも、多大の興味を有するものである。故に描圖の指導宜しきを得れば、努力忍耐以て完成することを喜ぶ樣になる。かくて地圖に親しむることは、やがて地理科そのものに對する趣味を惹起することになるのである。

(5) 描圖は實用上必要なり

地圖を描くことは、一種の發表方式であつて、之を知つて居ることは、現在及び將來の生活上、實用的效果を收め得べきことは言ふまでもない。

然らば、かく效果の大なる描圖の方法は如何。……之については、第十九世紀の初め頃より歐米の學者間に研究せられ、まちまちな意見が發表されてゐる。或は石盤上に略圖を描かしむべしと云ひ、或は反對に略圖にては價値なし、完全なるものを描かしむべしと云ひ、或は網狀線を引きたる紙に、指導法によりて描かしむべしと云ひ、或は自由に描かしむべしと云ふ等、多種多樣である。併しながら大體に於て、地圖の描法は簡單な方がよい。今左に小學校に於て採用すべき描圖の種類並

びに練習法の大要を述べて見よう。

(二)描圖の種類

(1)謄寫圖

之は白地圖を謄寫板刷として兒童に配布し、之に部分を記入せしむるもので、最も容易であるから、地理教授になれない兒童でも、比較的正確に記入することが出來る。併し其の練習法が山川・都邑・鐵道等のかき入れのみなると、教師が印刷する煩勞の頗る大てあるとの缺點がある。故に之が練習期は尋常科五學年第一學期の前半、又は第一學期間位に止むべきてある。

(2)透寫圖

之は原圖の上に紙を置き、器械的に透寫せしむるものてある。併し全部透寫せしめては効が少ないから、外輪廓のみ透寫せしめ、山川・都邑・鐵道等は自ら記入せしむべきてある。之は謄寫圖よりは一歩進んだ練習法てある。兒童に對しては、比較的容易てあつて、且すべての描圖形式の練習が出來るから、尋常科五學年第一學期末、又は第二學期以後高等科に至るまて始終行つてよい。

(3)見取圖

之は原圖を見て、臨畫的に描かしむる方法て、自動的なる點は前二者に勝るも、形態整はず、山川又は都會等も不確實となる。其の上兒童に對しては困難な仕事てあつて、多くの時間を要することになる。但し此の方法は最も有効てあるから、終局は之に慣れしめねばならぬ。それが爲には、描かんとする國縣の輪廓をば、幾何形態を以て表はし、又骨骼を定めて之を頼りにして描かしむるがよい。さうすると、大體の形が比較的容易に正確に描出し得られる。而して此の種の見取圖は、尋常科五學年第二學期以後、時々描出せしめ、地理教授に慣れると共に、終には兒童描圖中の主なるものとすべきてある。

(4)擴大圖

之は網狀線を頼りにして描くのてあつて、擴大して描く場合と、縮小して描く場合があるが、多くは前者を採用する。此の法は最も正確に出來て、兒童の努力の大なるだけ、興味も大に、効果も亦大てあるが、夥しき時間を要するから、常に描出せしめるには適當てない。夏期休業等、長期の休暇宿題とし

て課し、以て描圖の趣味を向上せしめるのに適當である。

(5)記憶圖

之は原圖を見ることなく、記憶畫的に暗寫せしめるものであつて、甚だ困難である。從つて兒童に描かしめては、極めて不正確なものとなることは免れない。但し實用上必要であるから、高等科に於て時々之を課し、高等科を卒業する迄には、帝國の各大島が暗寫出來る迄に導くべきである。

(三)描圖の程度

次に兒童に要求すべき描圖の程度について述べておかう。

(1)地方一(外國地理にては總論)取扱の場合

此の場合には、其の地方を概觀せしむれば足るのであるから、比較的簡略なるものでも、其の大要が窺はれるならばよい。併しながら、輪廓は成るべく正確なるものにせねばならぬ。

(2)各府縣(外國地理にては各國)取扱の場合

一地方(又は一洲)の輪廓圖を準備せしめ置き、成るべく毎時間の教授事項を記入せしめて行くと、一地方(又は一洲)の分解的取扱が終ると同時に其の地方(又は其の洲)全體の比較的精密な地圖が出來るのである。故に注意すべきは其の長い間、地圖を汚さない樣に丁寧に描き、丁寧に保存せしむべきことである。

(3)概括の場合

比較的精密なものを作り、時間に餘裕あらば着色せしめるがよい。併し之を教授時間内に描かしめることは、多くの場合時間が許さないであらうから、家庭課題とするのである。

第四節　兒童用附圖の取扱

附圖は地理教授上有効なものである。法令には「使用せしめざるを得」とあるけれども、地理科の性質より考へると、どうしても使用せしめねばならぬものと思ふのである。故に兒童をして常に之に親しましめんがため、學校に於ても成るべく丁寧に利用すべきである。即ち地理教授中常に机上に開かしめ、教授事項を教師の掛圖と對照して附圖中に求めさせてゆく。之一方では讀圖の習慣をつけて讀圖力を養ひ、他方では掛圖の不明瞭な點を補ふことが出來る。故に附圖の價値を十分了解せしめ、以て豫習復習の際は必ず之を使用せしめ、又時々描圖を家庭課題

として、自ら附圖を讀ませしめる樣にすべきである。

要するに、地圖は地理教授の生命であつて、地圖を甘く利用することが實績を擧げる所以である。先づ教授の初めより附圖を出さしめおき、教師の掛圖や板上略圖と對照せしめつゝ教授を進行し、整理の段に入つては地圖によつて復演し概括し、最後に描圖をなさしめて、地理的知識を確實にすべきである。

第十章　教材の概括法

教授の段階に於て此の概括と云ふことは甚だ必要な問題である。「ライ」氏は類化作用を形成する重なる働は、聯想の働であると言うて居るが、新觀念と舊觀念とを握手せしめて、觀念相互の統一を計るのが聯想作用である。要するに、觀念相互の統一がとれて、聯想作用が十分に働き、此に兩觀念が全く融合した時に類化と云ふことが出來上るのである。類化なき智識は根なき草木と同じく、直ぐに枯死するにきまつて居る。器械的暗誦とは卽ち類化なき一時的記憶を云ふのである。如何にせば、能く類化せしめ得べきかが、教授上考慮すべき主問題である。地理科は其の性質上散漫に流れ易い。從つて各要項間の連絡と云ふ事が、地理教授の根本の問題である。故に地理教授に於ては觀念間の連絡を計り個々の智識の統一をつけて、特に系統ある類化體系を組み立てることに努力する必要があると思ふのである。そこで毎時間の終り、又或地方を終つた時には必ず教材の概括を閑却してはならぬ。卽ち地理教授としては、新教材の說話は二十五分位にして、十五分乃至二十分を教材整理に充てたいのである。新材料の說話終らば先づ、一應復演をなし、次に教科書の讀解をなし、最後に大概括をなす必要がある。然らば教材の概括は如何にすべきかと云ふに次の二點に注意してやれば、間違が起るまいと思ふ。

第一節　自然的中心物

各地方に於て、自然的主要點を考察し、それを中心として他の事項を是に結合するのである。地理は有機的に取扱ふべきものであるから教材中の自然的主要點を見出して、人文上の事柄をそれに結び付けると云ふ事は當然の方法であつて、又最も有効な仕方と思ふのである。今二三の例を擧げんに、長崎縣の概括ならば、自然條件の「海岸」と云ふことを中心として、人文上の事柄を之に結び付けるがよい。卽ち海岸の出入多く、島嶼に富めることは、人生に如何なる利益を與へるかといふ

に、交通を便利にし商業を盛にし、又軍事上の中心地を形成して居るのてある。其の外、海には魚類多くして、水産物に富んてゐるから、海と云ふ事て長崎縣の殆ど全部を了解し、思想を統一し得るのてある。英吉利の如きは「位置」と云ふ事を中心條件として、智識を統一すればよい。英吉利は實に世界陸半球の中央にある。此の好良なる位置に位するが爲に、世界交通の中心地となるに至つたのてある。從つて世界の貨物を吸收し、又世界の到る所に販路を有するのも之れが爲てある。英吉利が今日の發展を來せる重なる原因は實に此の位置てあるが、併し位置だけが發展の理由てはないから、茲に第二の中心條件を見出す事が必要てある。それは「産物」に富むことてある。鐵・石炭が多い爲に、製鐵・機械・造船・織物等の工業、世界の主位を占むるに至つた。此の位置と産物との自然的條件が基となつて、工業商業の隆盛となり、今日の英吉利が出來たのてある。勿論此の外にも發展の原因と見るべきものもあるが、あまり多くの中心をとらぬ方がよい。先づ一つか、二つか位の中心條件を定めるのがよい。次に四國の概括法てあつたら、「平地が散在す」ると云ふことを中心とせば、都會も散在し、鐵路は連絡して居ないと云ふやうな、人文上統一した思想が出來る。支那てあつたら、「揚子江と海岸」とを中心として、産業・都會・交通等を統一すればよい。南米「ブラジル」の如きは「アマゾン河」を中心として統一すべきてある。凡べて何れの縣、何れの地方も、皆此の考の下に教材の統一を計るべきてある。今此に參考の爲に、各地方の中心物とすべきものを簡單に記述する。

例一　關東地方

(一)關東地方……中心物＝利根川

利根川が關東地方の大動脈を爲して居るから、之を中心として、交通・都會・産物を纏めると統一が出來る。

(二)神奈川縣……中心物＝海岸

海岸が出入に富んてゐるから、良港多く、横濱・横須賀等あり、又海岸風景に富めるを以て、遊覽地多く、鐵道航路も發達して居る。

(三)千葉縣……中心物＝利根川

此の川の流域は千葉縣の北半分の平野てあつて、産物・都邑・交通、皆此處に發達し居る。乃ち利根川が此の地方を左右して居ると云うてよい。

(四)茨城縣……中心物＝利根川と那珂川

那珂川の流域は煙草を産し、都會發達し、又利根川は霞浦・北浦と共に交通の中心